

特定研究

2021(令和3)年-2022(令和4)年報告書

やんばるとSDGs

名桜大学の高大接続と ピア・ラーニングプログラム

2023(令和5)年3月吉日
名桜大学 高大接続研究会

高大接続研究チーム

高安 美智子 (リベラルアーツ機構特任教授 北部地区教育担当学長補佐)

木村 堅一 (国際学群教授 教務部長 大学教育質保証担当学長補佐)

立津 慶幸 (リベラルアーツ機構上級准教授 IR担当, 数理学習センター長)

はじめに

2021年度から特定研究「やんばるとSDGs」（教育に関する調査研究）に取り組むこととなった。本学は、北部地域の教育支援事業として、出前講座やIT教育支援活動、外国語講師派遣等に取り組んでいる。また、2018年度から2020年度には、内閣府の補助事業として北部教育研修センターで、公立学校教員等を対象に様々な研修事業を推進し、その報告も行ってきた。その後も地域の協力を得ながら教員研修や教員養成講座を可能な範囲で継続的に実施し、課題改善に取り組んでいるところである。

特に今回の調査研究では、学内における北部地域の学生を中心とした教育に関する持続可能な支援プログラムの開発に焦点を当て、調査・研究・実践を行うこととなった。具体的には、入学前・入学後から卒業までの教育課題に注目し、高大接続の研究を行うことである。

高校生が大学の講義を受講したり大学教員が高校での出前授業を行ったりする「高大連携」は異なり、高校から大学へ進学する、その高校と進学先の大学の関係を「高大接続」¹⁾という。高大接続は、高等学校の教育から大学の教育へとどのように円滑につなげていくか、その成果を社会にどう還元するか、その中で一人一人の人間がどのように自己実現を果たしていけるかが問われている¹⁾。

これまでも幼と小、小と中、中と高の校種間の接続は大きな社会問題となってきた。例えば、「小1プロブレム」「中1ギャップ」「高1ギャップ（高1クライシスともいう）」などが想起される。

「小1プロブレム」は、小学校に入学したばかりの1年生の中に、集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態の児童がいる²⁾ことである。それが学級崩壊³⁾の要因となっており、2010年文部科学省は、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」調査研究協力者会議の報告書²⁾を発表している。

「中1ギャップ」は、新しい環境（学習・生活・人間関係）になじめないことから不登校になったり、いじめが急増したりするなどの問題が起きていることが指摘された⁴⁾。

また、「高1ギャップ」は、文部科学省国立教育政策研究所の調査結果において、中退者の半数を1学年が占めており、入学後の1学期間に学校生活への意欲が大きく減退している実態が浮き彫りになっていると報告している⁵⁾。

高等学校教育と大学教育との接続にも教育上のギャップがあり、その要因は多様化しており、それが大学入学者選抜の在り方とも関連していると思われる。高大接続は、大学全入時代を迎え入学者選抜が機能せず、高等学校及び大学における教育の質保証の課題が浮き彫りとなった。それを受け、文部科学省が高等学校教育、大学入試、大学教育の一体的な改革を進めてきた⁶⁾。しかし、その改革も共通理解を得られず見送られたままとされている。

そこで、それぞれの大学が地域の高等学校と連携し、円滑な高大接続の取組を行うこととなっている。

本研究では、文部科学省の答申等で示された円滑な接続を行うためのポイントや先行事例を参考にし、名桜大学における高大接続の実質化に向けた実践及び改革を進めてきた。しかし、2年間の研究では結論を導き出すまでの調査分析には至っていないのが現状であり、今後も高大接続の効果的な事業開発も含めて、調査研究を継続することにする。

今回はこれまでの2年間で実施してきた高大接続勉強会及び入学前特別講座を振り返り、「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」の実践報告のまとめを行うこととする。

目 次

1	研究に至った経緯	1
2	研究の目的	2
2.1	1年目：2021（令和3）年度	
2.2	2年目：2022（令和4）年度	
3	研究計画	2
3.1	1年目：2021（令和3）年度研究計画	
3.2	2年目：2022（令和4）年度研究計画	
4	研究組織・研究者の役割・学生団体	4
5	わが国の高大接続改革の動向	4
5.1	高大接続改革の背景	
5.2	高大接続実行プラン	
5.3	高大接続システム改革会議	
5.3.1	高大接続改革が目指す「学力の3要素」	
5.3.2	高等学校教育改革	
5.3.3	大学教育改革	
5.3.4	高大接続と大学入試	
6	現状	8
6.1	入試形態別在籍者数	
6.2	新入生学力調査	
6.2.1	入学後の取組	
6.3	学習センターの利用状況	
7	実践報告	13
7.1	名桜大学の高大接続事業	
7.2	高大社接続（高校・大学・社会接続）における高大接続勉強会の位置づけ①	
	高大社接続（高校・大学・社会接続）における高大接続勉強会の位置づけ②	
	2021年度 名桜大学高大接続プログラム（学内資料） 年度計画 → 点検 → 評価 → 公開	
	2021年度 名桜大学高大接続とピア・ラーニングプログラム	
	2022年度 名桜大学高大接続プログラム（学内資料） 年度計画 → 点検 → 評価 → 公開	
8	カリキュラム・マネジメントの視点から取り組む教育連携型研修会	25
8.1	教育連携型研修会① 「探求・STEAM教育」研修会報告書	
8.2	教育連携型研修会② 「英語教育」研修会報告書	
9	「名桜大学高大接続勉強会」及び「入学前特別講座」の実施状況	30

10	2021（令和3）年—2022（令和4）年度 研究実績報告書	32
10.1	2021（令和3）年度 やんばるとSDGs「名桜大学高大接続とピア・ラーニングプログラム」	
10.2	2022（令和4）年度 やんばるとSDGs「名桜大学高大接続とピア・ラーニングプログラム」	
11	まとめ（研究の総括）	36
12	名桜大学高大接続勉強会報告書	37
2018（平成30）年度	第1回 名桜大学高大接続勉強会報告書 テーマ「名桜大学の初年次教育からみる教育改革の方向性」	
2019（平成30）年度	第2回 名桜大学高大接続勉強会報告書 テーマ「入学前学習プログラムの実施状況及び今後の取組」について	
2020（令和元）年度	第3回 名桜大学高大接続勉強会 説明用スライド テーマ「高大接続の実質化に向けて」	
2020（令和2）年度	第4回 名桜大学高大接続勉強会報告書 テーマ「生涯にわたって学び続ける力の育成を目指して」	
2021（令和3）年度	第5回 名桜大学高大接続勉強会報告書 テーマ「名桜大学 高大接続プログラム」	
2021（令和3）年度	第6回 名桜大学高大接続勉強会報告書 テーマ「入学前特別講座に向けて」	
2022（令和4）年度	第7回 名桜大学高大接続勉強会報告書 テーマ「名桜大学高大接続勉強会の目指すもの」	
2022（令和4）年度	第8回 名桜大学高大接続勉強会 テーマ「大学生と考える高校と大学のギャップ」 学生代表体験発表 「大学生活での学びと目標」 上妻 琉花 学生代表体験発表 「目標を持つことの大切さ」 上間 瑞樹 卒業生代表体験発表 「後輩に伝えたい事」 石川 若葉	
2022（令和4）年度	第8回 名桜大学高大接続勉強会報告書①	
2022（令和4）年度	第8回 名桜大学高大接続勉強会報告書②	
13	名桜大学入学前特別講座報告書	71
2018（平成30）年度	入学前特別講座 「交流会」「数学基礎講座」	
2019（令和元）年度	入学前特別講座 「数学基礎講座」	
2020（令和2）年度	入学前特別講座①	
2020（令和2）年度	入学前特別講座②「統計学基礎講座」「ライティング講座」	
2021（令和3）年度	入学前特別講座Ⅰ	
2021（令和3）年度	入学前特別講座Ⅱ 「統計学基礎講座」「ライティング講座」「英語ワークショップ」	
2022（令和4）年度	入学前特別講座Ⅰ「交流会」「ライティング講座」	
2022（令和4）年度	入学前特別講座Ⅱ「統計学基礎講座」	
2022（令和4）年度	入学前特別講座Ⅱ「英語講座」	

1 研究に至った経緯

本学では言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンターがそれぞれ独立して設置されており、先輩・後輩コミュニティを基盤として、学生が学生を支援するピア・ラーニングが、特色の一つとなっている。本学の第2期中期計画（2016年～2021年）では、リベラルアーツ機構を中心とした学習支援環境の有効活用をねらいとして教育の質の向上を目指した次の二つの目標が掲げられた。

1つ目は「**基礎学力に困難を抱える学生を対象とした学習支援を行うピア・ラーニングプログラムを推進する。**」ことである。

2016年度に実施した新入生学力調査の結果、数学基礎力に困難を抱えた学生対象のリメディアル教育の講座を開講した。受講者の感想からは、講座の有効性が認識され、その必要性が認められ要請されたため、2017年度から数学におけるリメディアル教育を組み込んだカリキュラムを開講し、学習センターを随時活用するような仕組みを作った。リメディアル教育とは、大学の授業を受けるために必要な基礎学力が不足している学生を対象として、基礎教育を学び直し、学生の学習意欲や学力を伸ばす目的で行う教育である¹⁾。

2つ目は「**地域のニーズに留意しつつ高大接続を実質化し、意欲のある多様な学生を受け入れる方法と体制を整備する。**」ことである。

2018年度から北部地区の県立7高等学校（以下、北部7校という。）の教員と「高大接続勉強会」を開催し、高等学校教育と大学教育の状況について教員間の連携の下、高大接続の実質化を目指してきた。その方策として北部地区出身生徒を対象とした「入学前特別講座」を実施しており、北部地域における高大接続事業は、現在も毎年継続して行われるようになった。

名桜大学は、設立団体である沖縄県北部12市町村から、地域の人材育成が託されている。それに応えて本学では、北部地域枠推薦を設けて積極的に学生の受け入れを行っていきたいと考えている。しかし、新入生学力調査の結果、基礎力に困難を抱えている北部7校出身の入学者の割合は、全体と比べて有意に高い。意欲のある多様な学生を受け入れると宣言している本学は、入学時の基礎学力が入学後の学びにどのような影響を与えているのか、また4年間の学びの中でどのような変化があり、卒業時の状況はどのようになっているかを明らかにすることが責務であり、地域の課題改善に繋げていく必要がある。

そこで、2021年度の「やんばるとSDGs」の研究課題として、「北部地区の教育に関する研究」に取り組むことにした。現在の本学の高大接続事業は、組織形態が未だに流動的であること、各回における受講者の感想等から成果と課題は挙げられているものの、その実施報告書には根拠資料に基づいた分析やその改善策として発展的な提案が行われていないのが現状であった。入学から卒業に至るまで、北部地区出身学生にどのような課題がありどのように乗り越えているか、または乗り越えられなかったとしたら何が原因かという学びの変化を明らかにすることが、本研究の課題と受け止めた。そのため、高大接続事業を初年次教育の主幹であるリベラルアーツ機構と連携して研究を進めることにし、北部地域の学生とその他の学生の学習に対する意識や学習行動の違いについて調査し、北部地域の教育の評価を明らかにすることとなった。

本学の課題となっている高大接続事業の成果や課題を可視化することは、やんばる地域の教育の評価を明らかにすることであり、本学の教育の全体像の可視化に繋がることを期待できる。

以上のことから、これまでの高大接続事業の組織的な取組とその成果の可視化及び教育効果の向上を目標に、研究テーマを「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」と決定した。

2 研究の目的

2.1 1年目：2021年度（2021年4月～2022年3月）

本学では意欲ある多様な学生を受け入れ、受け入れたすべての学生が、将来の夢を描き、社会で活躍できる人材となり、幸福な人生を送れるような教育システムの構築を目指している。これまで北部出身学生を対象とした主体的な学びを促進させるための取組みとして、2018年度より「高大接続勉強会」及び「入学前特別講座」を実施してきた。

そこで、教育に関するやんばるとSDGsの研究として、本学に入学した学生一人ひとりを大事に育てる「持続的な教育」を実現するため、以下の2点を目的として本研究に取り組むこととなった。

第一の目的は、上記の2つの高大接続事業の持続的な実施体制を構築し、北部7校出身学生の学びや活動の変容から、彼らの強みと可能性を見出すことである。

第二の目的は、北部7校出身学生の入学から卒業までの学習活動を可視化し、入学時の課題と卒業後のキャリアとの関連について考察することである。さらに最終的な目標として、将来の夢を描き社会で活躍できる北部の人材育成に資する高等学校及び大学の教育実践に活かすことである。

2.2 2年目：2022年度（2022年4月～2023年3月）

2年目の研究は、高大接続研究について何を明らかにしたいかというリサーチクエスチョンを検討し、次の3つの取組を研究目的とした。

- ① 前年度から継続課題となっている入学時に懸念された学力差を、北部7校出身学生が、自らの主体的な学びの課題として意識できるようになり、どのように克服し、卒業・就職したか、という4年間の学びの変化を可視化し、卒業後のキャリアとの関連性について考察することである。
- ② 「これからの教育上の連携の在り方として高等学校教員及び大学教員は何を目指し、どのような指導方法を身につけていく必要があるのか。」について検討した。急速に変化する社会における「思考力」の育成という視点から、探求学習の指導方法や北部地区の課題となっている英語教育における教員の指導力向上を目的とした研修会を開催し、双方の教員の授業改善に資する研究とする。
- ③ 『高大接続の目標達成度』は、学生に対して『ピア・ラーニングの活用』『探求学習の達成度』『自己学修』『大学満足度』にポジティブな効果をもたらすだろう。という仮説を明らかにすることを目的として調査・分析を行う。

3 研究計画（1年目と2年目の研究課題ごとに研究計画を示す）

3.1 1年目：2021（令和3）年度研究計画

「研究課題1 高大接続勉強会と入学前特別講座の課題と成果の検証、プログラムの改善」

- ① 現状の成果と課題を検証し、高大接続勉強会及び入学前特別講座の目的を明確にする。高大接続における各種プロジェクトの計画・実施・点検・評価・改善のサイクルを構築する。
- ② 高大接続の効果指標として、学習活動や学習成果に加え、学習に対する「主体性」に注目する。北部地域出身の学生と他学生との間にある「主体性」の差が、大学生活にも影響を及ぼしている、という仮説を検討する。その仮説が正しければ、北部地域の高大接続の目標として、学習に対する主体性を育む教育が不可欠となる。
- ③ 高大接続プログラムの全体像をわかりやすく表現し、高等学校の教員及び高校生への認知度を高める。また、学群・学科、入試課等と効率的に連携できるシステムを構築するとともに、「入学前特別講座」については、入学予定者に混乱が生じないように配慮する。

④アンケート実施

「研究課題2 ピア・ラーニングプログラムの課題と成果の検証：卒業後のキャリアとの関連性も含む」

- ①ピア・ラーニングプログラムの対象者と提供者を追跡し、入学後の変容を把握する。具体的には、北部出身学生の学習センターの活用度ならびに北部7校出身学生のチューター活動を集約する。
- ②北部7校出身学生を対象に、4年間のキャリア教育と卒業後の進路決定の実態を調査するとともに、卒業生に専門的な知識、技術等のキャリアアップに関わるヒアリングを行う。
- ③北部出身学生の学びの成長を可視化する技術を研究する。
- ④アンケート実施

3.2 2年目：2022（令和4）年度研究計画

前年度の[研究課題2]の継続研究と、前年度の成果・課題の結果を踏まえて新たな課題を設定し、「研究課題3」として高大接続における教育上の連携をさらに図る。

[研究課題2]で継続して取り組む内容は以下の通りである。

2018年度入学生の入学から卒業までのデータ集計の結果、本学の入学前教育、初年次教育、専門教育における学びの中で、学生がどのような課題を抱え、それをどのように乗り越えてきたかを分析する。

[研究課題3] 高大接続における教育上の課題として「探求学習」と「英語教育」研修を行う。

- ① 小・中・高・大学教員、生徒、学生を対象とした研修会を開催する。

テーマ1 「やる気に満ちた『やさしい学校・教室』のつくりかた

～『学習する組織』によるしなやかに変化し、進化し続ける学校・教室づくり～

講師：森 弘達（学校法人大妻学院大妻中学高等学校進路指導部長・探究科主任）

テーマ2 「探究授業のはじめかた～『探究』を体感してみよう、STEAMって何？～」

「STEAMって何？～STEAMによってイノベーションを起こして未来社会をデザインしよう～」

講師：森 弘達（学校法人大妻学院大妻中学高等学校進路指導部長・探究科主任）

テーマ3 「小・中・高・大の英語教育にどう取り組むか 英語の学習法」

講師：木村達哉氏（作家、元 灘中学校・高等学校・西大和学園中学校・高等学校教員）

- ② 1年次対象のアンケート実施

全1年次学生対象に、「『高大接続の目標達成度』は『ピア・ラーニングの活用』『探求学習の達成度』『自己学修』『大学満足度』にポジティブな効果をもたらすだろう。」という仮説を立て、アンケートを実施する。

研究成果の報告及び校種を超えた北部地域の教員間の連携による研修・研究の実践報告をまとめ、「地域連携プラットフォーム」の推進に役立つ基礎的研究及び実践を目指す。

最終的には、本研究成果を地域及び学生に共有し、名桜大学の特色ある取組である入学前教育、初年次教育、専門教育の効果的な連携を図り、高大接続事業の成果と課題を明らかにする一助になることを目標とする。

4 研究組織・研究者の役割・学生団体・・・研究と実践

本研究代表チームを中心として、教務課、入試・広報課（以下、入試課と略す）、リベラルアーツ機構教職員及び学生団体とも連携しながら以下の図の組織体制で研究を推進していく。

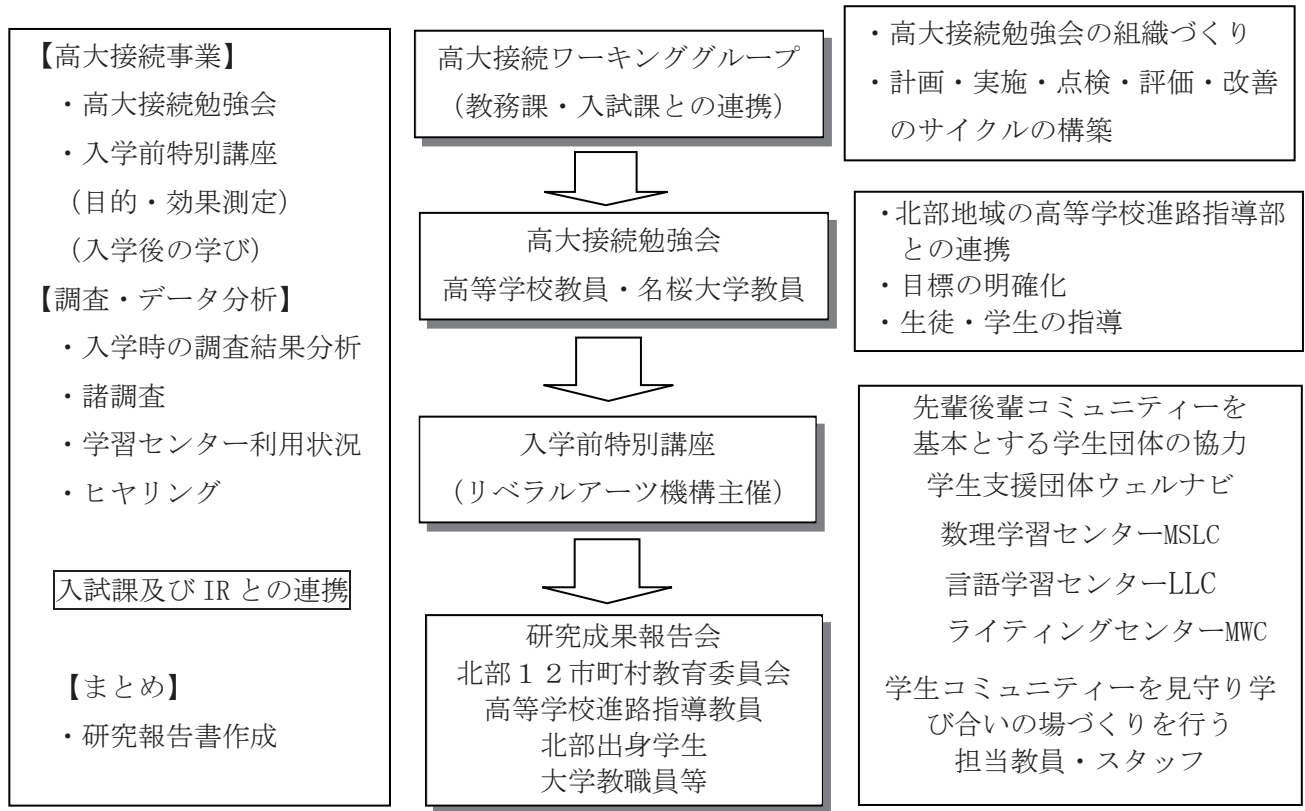


図1 組織体制

5 わが国の高大接続改革の動向

高大接続の課題改善に向けて、これまで文部科学省等から様々な答申が出され提案がなされている。本研究では、全国的な高大接続改革の動向を研究しつつ、これまでの高大接続の課題やその背景、取組について、以下の趣旨を踏まえて進めていく。

5.1 高大接続改革の背景

1993（平成5）年度以降の高等教育の計画的整備においては、18歳人口の急減により大学等の新增設及び定員増については原則抑制策がとられた⁸⁾。しかし、社会的要請に配慮する例外措置もとられ、このような状況下で、本学は1994（平成6）年度に開学した。

しかし1999（平成11）年には、全国的に新規学卒者のフリーター志向の広がりや就職後3年以内の離職も32%に達しているという状況から、中央教育審議会答申において高大接続の改善が求められた。さらに、2000（平成12）年には大学設置の緩和により大学が増設され、さらに少子化により大学全入時代を迎えて、大学教育には高等教育機関として教育の質保証問題が浮上した。それは入学者確保に向けた大学入試の多様化により学力不問の大学入学者選抜の在り方が問題視された。

そこで、2004（平成16）年度に、認証評価制度⁹⁾が出され、すべての大学は、文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務づけられた。

2013 年中教伸「高等学校教育と大学教育との接続 大学入学者の在り方」において、入学者選抜制度について、「①高等教育の質の確保・向上，②大学の人材育成機能の抜本的強化，③能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価しうる大学入学者選抜制度への転換」¹⁰⁾の提言が出された。

さらに，2014 年，高大接続改革が目指す未来の姿として，「将来に向かって夢を描き，その実現に向けて努力している少年少女一人ひとりが，自信に溢れた実り多い，幸福な人生を送れるようにすること。」と示している。その中で，「確かな学力」の育成を目指して，学力の 3 要素を踏まえた指導の充実が求められた。「学力」については，これまでも「新しい学力観」や「真の学力¹¹⁾」等と表現が変遷し，「学力」の定義がその都度異なるように捉えられ混乱を来したような感がある。

5.2 高大接続実行プラン¹²⁾

2015年に発表された高大接続実行プランにおいて，高等学校には，義務教育までの成果を確実につなぐとともに高等学校教育の質の確保・向上を図り，国家と社会の形成者となるための教養や行動規範を確立し，生徒が，自分の夢や目標をもって主体的に学ぶ力を身につけられることが求められた。

大学教育改革においては，大学教育の質的転換が求められ，それは各大学における全学的な教学マネジメントの下での双方向の授業や主体的な学修への転換を促進させることである。

大学入学者選抜の改革においては，多様な背景を持った学生の大学への受入が促進されるよう，大学入学希望者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価することが求められた。特に，アドミッション・ポリシーに基づき，調査書や高校での学びの体験等を含めた学力の三要素を踏まえた多面的・総合的な選抜方法を促進することである。

これによって，高大接続の課題改善に向けて文部科学省が主となって取り組むことになったのが，「高大接続システム改革会議」である。

5.3 高大接続システム改革会議

5.3.1 高大接続改革が目指す「学力の 3 要素」

2016 年，高大接続システム改革会議「最終報告」¹³⁾において，高大接続とは，単なる入試改革ではなく，高校教育，入学者選抜，大学教育を通じて一体的に改革を進め，「学力の 3 要素」を確実に浸透させることが大きな教育改革であることの理解が求められてきた。

「学力の 3 要素」は次のように示された。「①十分な知識・技能，②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力，そして③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」である。この学力の 3 要素の全てを一人一人の学習者が身に付けるよう，高等学校教育，大学入学者選抜，大学教育全体の在り方を転換していかなければならないと指摘している。

5.3.2 高等学校教育改革

高等学校教育においては，次の 3 点が求められた。

①学習・指導方法の改善

社会で生きていくために必要となる力を身につけ，高等教育機関での学修や社会での活動へと接続させていくためには，協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）の視点から，指導方法の抜本的充実を図ることである。

白井俊（2019年）は，「アクティブ・ラーニングとは，教科の深い理解につなげるための，児童生徒

の状況を踏まえた柔軟な授業デザイン」のことであり、決して「一方向型授業」に対する言葉でもなく、「対話型授業」と同義語でもない、と述べている。さらに、アクティブ・ラーニングを実現するためには、対話型・グループワークの方法を導入して、教師が教育専門家としての専門性を磨くことが重要であること。具体的には、児童生徒についての専門性と教科等についての専門的な「見方・考え方」が「アクティブ・ラーニング」の本質であると指摘している。

② 教員の資質向上に向けた教員の養成・採用・研修の改革

小中学校段階から高等学校段階までを通して、きめ細かな指導体制の充実を図ることが求められた。

③ 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入

義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得とそれによる高校生の学習意欲の喚起を図るため、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」を導入することが提案された。

また、必ずしも「多様な生徒の個性尊重」の理念にそぐわないコース・類型制により、学習内容や学習量の減少及び基礎学力の低下も指摘された。学生の学力不足を解消するために高校教育の底上げが必要だとする主張もあり、センター試験のような競争試験ではなく、目標準拠型の資格試験としての高大接続テスト（仮称）の提案であった¹⁴⁾。

2017年の高等学校への進学率が98.8%に達していることで、高等学校の入学者も多様化している。そのため、高校生の確かな学びの保証として打ち出された基礎力診断テストは、大学入試に関わる活用に対する高等学校の同意が得られず見送られた¹⁵⁾。高大接続システム改革会議においても合意は得られず、単なる「高校生のための学びの基礎診断」となった。つまり、高大接続改革における高校生の学力の課題は、一部の進学者のための共通テストをどうするかで右往左往し、基礎学力が身に付いていない高校の学びの改善・保証は棚上げ状態であると言わざるを得ず、基礎学力が身に付いていないまま卒業し、進学する高校生の学力保証は曖昧なままとなってしまったのである。

5.3.3 大学教育改革

大学教育に求められた改革は主に、3つのポリシーの策定及び公表と入学者選抜の見直しである。

すべての大学において、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーを策定し、公表するとともに、三つのポリシーに基づいて多様な学生を受け入れられるようにすることが義務付けられた。

表1 大学教育に求められた「3つのポリシー」の基本的な考え方¹⁶⁾

卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	各大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学習成果の目標となるもの。
教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。
入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー	各大学が、当該大学・学部等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学生を受け入れるための基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素）を示すもの。

5.3.4 高大接続と大学入試

高大接続は、教育上の接続と入学者選抜による接続という視点から一体的な改革が求められてきた。改革の議論の中で、すべての高校生を大学教育に接続する必要はない¹⁴⁾とされている。高等学校卒業生の多様な進路も踏まえると、高等学校教育での質保証の在り方改革が重要であることは言うまでもない。ところが、大学入学後に学力不足が顕在化し、それが課題となっている。ここでいう学力とは、広義の学力であり、当然教科基礎力も含まれている。それが、高大接続の課題とも結びついている。高等学校教育の質保証が明確になると、大学入試において基礎学力を測る試験は不要だともいわれている。これが当初の「高大接続テスト」の提案の趣旨であった。しかし、当初の提案は見送られ、高校生のための学びの基礎診断となったが、その結果については高等学校内部のみに閉ざされており、大学入試とは結びついていない。それは高大接続システム改革会議で目指してきた高等学校の質保証に繋がっているとは言えない現状である。

様々な議論の結果として、大学入試は教育接続の実現には不適切だという指摘¹⁵⁾もある。その理由として、大学入試は、学力達成度を測るための試験ではなく、定員を上回る受験者を落とすための試験が前提であり、受験者の成績を差別化するためであること、高校段階での教育の成果を測るためではなく、大学の専門教育に対応した試験であること、全受験者に対して公平・公正な試験であることが前提であることを挙げている¹⁶⁾。

また、高大接続の目的は、高校教育、大学入学者選抜、大学教育の一体的改革による「学力の3要素」の伸長であった。大学には、三つのポリシーに基づいて多様な学生を受け入れることが義務付けられたが、大学入学者選抜時の「学力の3要素」の評価は、高校側にとっても大学側にとっても困難な課題を抱えている。例えば、高等学校間の評価基準が異なるため大学入学者選抜において内申書の評価を比較することにどれだけの信憑性があるのかという疑問は禁じ得ない。

高等学校では、文部科学省の指導の下、観点別評価が進められている¹⁷⁾。文部科学省の説明では、教員にとって過度な負担とならないような観点別評価の手立てをどのように講じるか、を問うているが、高等学校現場では、教員間の共通理解を図るにも負担が大きいという。さらに授業改善や指導に活かすことに賛同する声もある一方で、時間をかけて取り組んでいる観点別学習状況の結果が指導や授業改善に繋がっていないという調査結果もある。中には、今までの評定とずれないように、評定を決めた後にそれと齟齬のない観点別評価の結果を付けている教師の事例もある¹⁸⁾。さらに、高等学校現場からは観点別学習状況の評定への総括が公平・公正な評価となっているのかと懸念する声もある。

学習評価の改善を受けた大学入学者選抜の改善について¹⁹⁾、文部科学省は「学習評価は、学習や指導の改善を目的として行われているものであり、**入学者選抜に用いることを一義的な目的として行われるものではないこと**。したがって、学習評価の結果を入学者選抜に用いる際には、このような学習評価の特性を踏まえつつ適切に行うことが重要である。」「各大学において、特に学校外で行う多様な活動については、調査書に過度に依存することなく、それぞれのアドミッション・ポリシーに基づいて、生徒一人一人の多面的・多角的な評価が行われるよう、各学校が作成する調査書や志願者本人の記載する資料、申告等を適切に組み合わせるなどの利用方法を検討すること。」「学校における働き方改革の観点から、指導要録を基に作成される調査書についても、**観点別学習状況の評価の活用を含めて、入学者選抜で必要となる情報を整理した上で検討すること**。」と謳っているが、その主張の不明確さ、曖昧さにより、高大で混乱を来たしているのが現状である。

6 現状

①入試形態、②新入生学力調査、③学習センターの利用状況の推移についての現状報告から始める。

6.1 入試形態別在籍数

表2「入試形態」の推薦とは、本稿では総合型選抜、学校推薦型選抜（一般推薦、総合学科推薦、北部枠 推薦）や社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜、外国人留学生選抜等のすべての推薦入試を含む。一般とは、一般入試による選抜である。過去6年間の平均でみると、入学者は、北部7校出身が約1割、北部7校以外の沖縄県内が4割、県外（留学生を含む）が5割の構成となっており、県内出身者と県外出身者は約半々となっている。また、入試種別でみると、全体では約4割が推薦入試、約6割が一般入試となっている。推薦入試の内訳の比率は、北部7校出身は約8割、北部7校以外の沖縄県内は約5割、県外（留学生を含む）は約2.5割となっている。特に北部地区は推薦型入試の比率が極めて高い傾向にある。

表2 入試形態別在籍数（*県内は北部7校以外の県内）

	2017		2018		2019		2020		2021		2022		合計	
	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
北部	44	5	50	13	34	5	42	9	38	11	45	13	289	66
県内	85	106	90	82	98	88	97	86	74	114	76	116	619	675
県外	70	169	64	191	63	201	63	187	65	252	55	172	452	1376
小計	199	280	204	286	195	294	202	282	177	377	176	301	1360	2117
総計	479		490		489		484		554		477		3477	

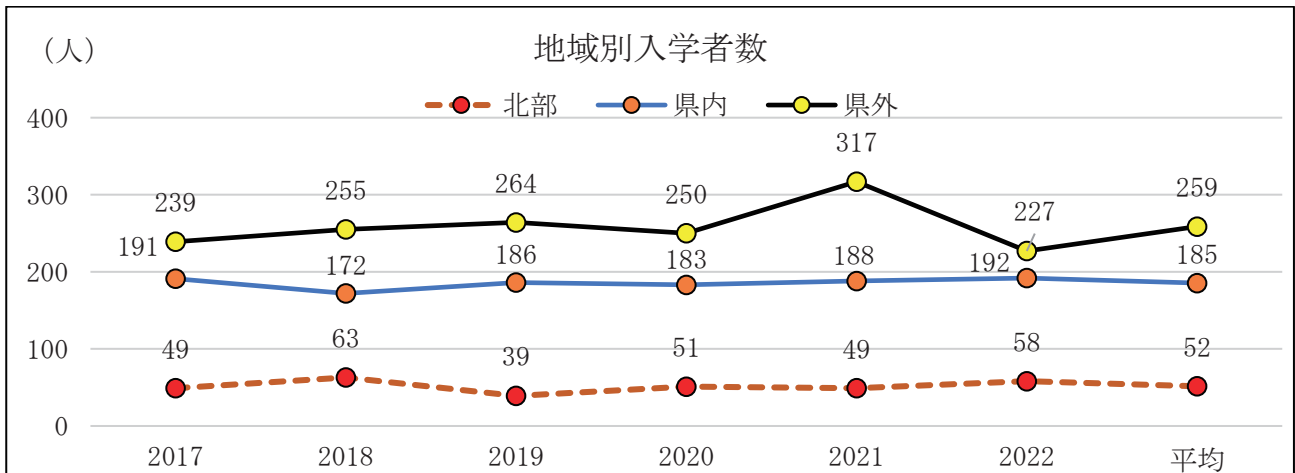


図2 年度別地域別入学者数

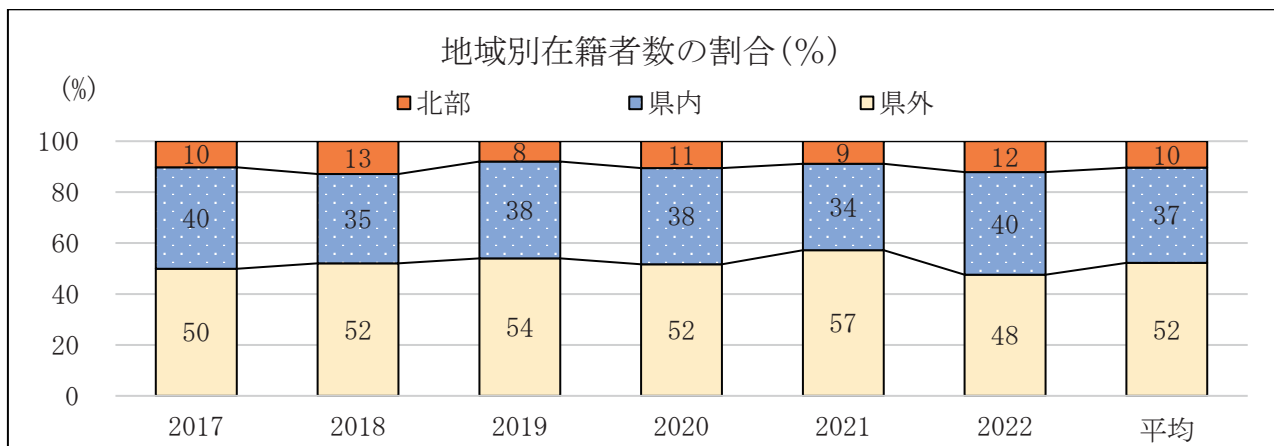


図3 年度別地域別入学者数の割合 (%)

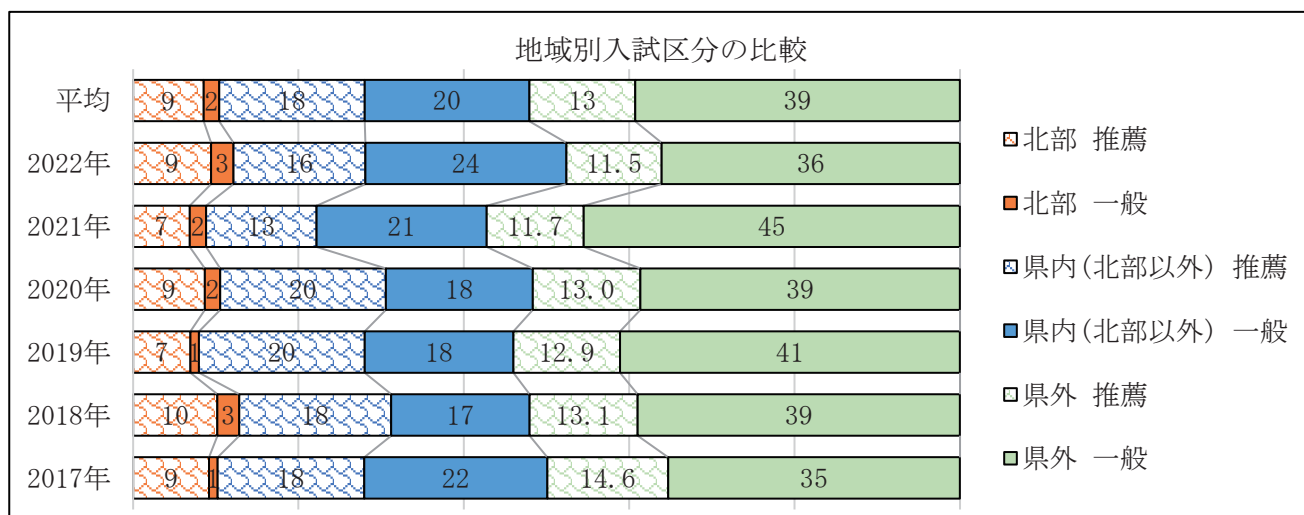


図4 地域別入試区分比較

[考察] 年々若干の変化があり平均で見えていくと、北部7校出身者は推薦型入試が多く、北部7校以外の県内は若干一般入試が多い状況であり、県外は一般入試が推薦型入試の約3倍となっている。図2と図4から特に例年と比べて変化が大きいのは、2021年度と2022年度の県外からの入学者数である。2021年度は、県外の一般入試が多いことから、合格者の辞退者が例年より少なかったことが考えられ、在籍数が例年より多くなっている。2022年度はその逆で、県外の辞退者が多く例年より入学者数が減少したものと推察できる。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域間の移動に制限があったことも影響しているのか、今後の動向を見ていく必要がある。

本学では公立大学として地域からの入学者を増やしたいと考えており、高等学校との連携をさらに推進していく必要があると考えている。

6.2 新入学生力調査結果

表3 入学時の新入学生力調査結果（偏差値）

	2017			2018			2019			2020			2021			2022	
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	数学	英語
北部7校	43.2	40.8	42.6	45.8	43.8	43.1	45.4	45.8	44.9	44.4	44.9	41.1	45.2	44.4	40.6	48.3	43.9
7校以外	50.8	51.1	50.8	50.6	50.9	51.0	50.3	50.4	50.4	50.7	50.6	51.0	50.5	50.7	51.1	50.2	50.8
全学	50	50	50	50.0	50	50	50	50	50	50.0	50	50	50.0	50	50	50	50

[考察]

表3は、入学時の新入学生力調査結果を全学（全学とは新入生全体をいう。）の平均点を50とし、偏差値で表したものである。北部7校の入学時の平均点を他と比較すると低い結果となっている。これらは、推薦型入試受験者が多い為と推察される。国語は全学と比較すると5ポイント前後低くなっており、なかなか縮まらない。数学は概観すると全学との差が年々小さくなりつつある。英語は日本英語検定協会の英検CBTテストを採用している。分野別回答率により3級レベルから準1級レベルまでを判定する試験となっている。2019年度以降は全学との差が10ポイント近く開いている年度もあり、重大な課題を内包していると考えられる。いずれにせよ3教科ともに基礎力不足を切実な課題として受け止め、入学後の学習支援を引き続き取り組む必要がある。2022年度は国語の学力調査は実施されなかった。

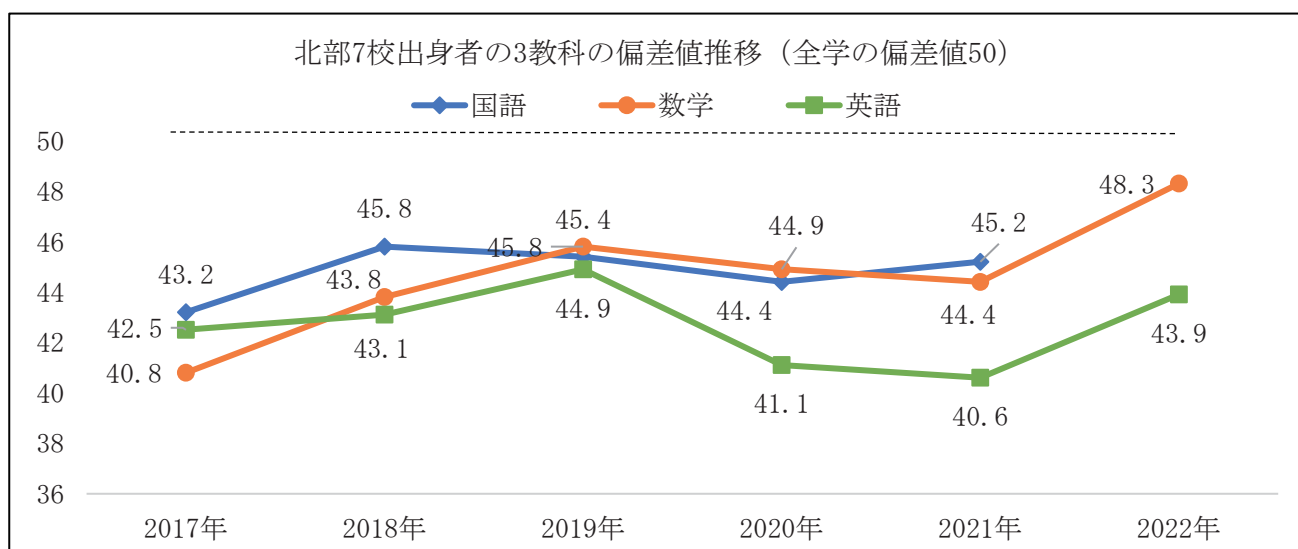


図5 北部7校出身者の3教科の偏差値推移

6.2.1 入学後の取組

本学には、数理系科目の学習支援を行う「数理学習センター」と、英語を含む外国語学習を支援する「言語学習センター」、さらにライティングの学習支援を行う「ライティングセンター」があり、それぞれ独立している。新入生学力調査において数学基礎力に困難を抱えていると診断された学生は、数理学習センターを活用して自然科学特別講義「統計学基礎」を履修することになっている。また、英語は新入生学力調査の結果等を元に習熟度別クラス編成を行っている。このように本学では基礎力に困難を抱えている学生を支援する体制は整っている。しかし、支援の成果の把握は十分とはいえない。今後は学生の課題解決のために学習センターを活用し、さらに得意分野を伸ばすとともに、資格取得や卒業研究のための活用も取り組んでいく予定である。

6.3 学習センターの利用状況

表4 学習センターの利用状況（全学） ※合計は3センターの単純総合計

	年 度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	在 籍	2055	2017	2022	2016
言語学習センター LLC	延べ人数	1400	628	855	1459
	実人数	255	194	316	509
	利用率	12.4	9.6	15.6	25.2
	平均回数	5.5	3.2	2.7	2.9
数理学習センター MSLC	延べ人数	3770	798	1596	1906
	実人数	488	145	252	277
	利用率	23.7	7.2	12.5	13.7
	平均回数	7.7	5.5	6.3	6.9
ライティングセンター MWC	延べ人数	88	85	252	303
	実人数	68	51	125	166
	利用率	3.3	2.5	6.2	8.2
	平均回数	1.3	1.7	2.0	1.8
合 計		5548	1511	2703	3668

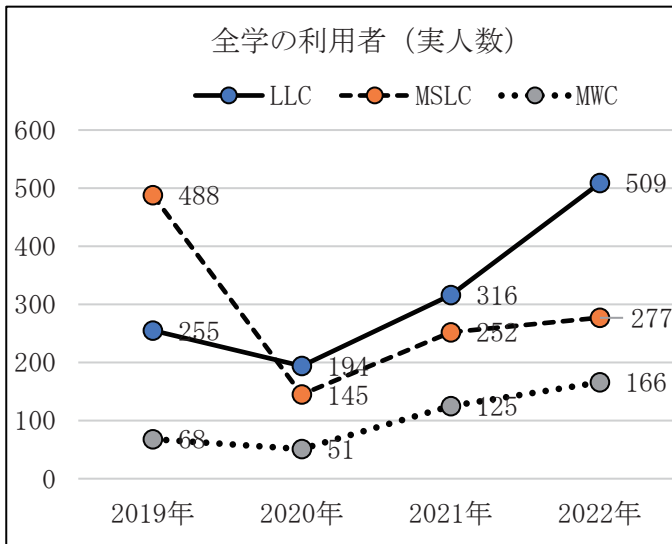


図6 全学利用者実人数

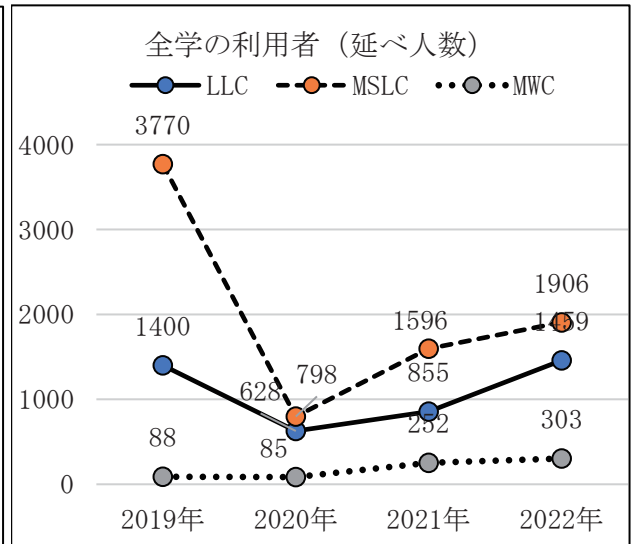


図7 全学利用者延べ人数

※利用率（％）＝利用実人数/全在籍×100

※平均利用回数＝利用者延べ数/利用者実人数

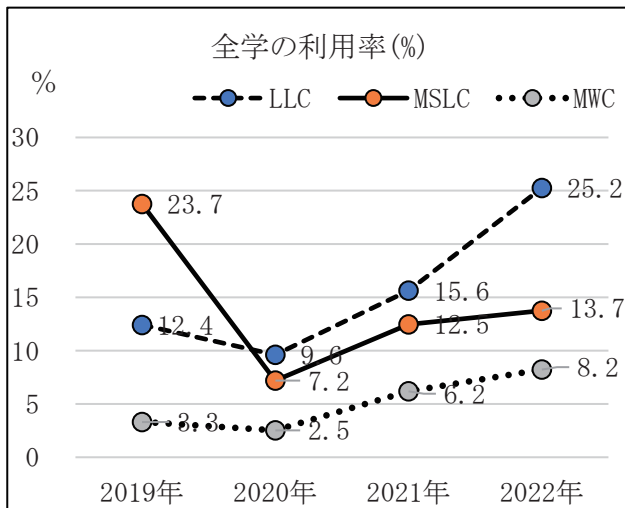


図8 全学の利用率

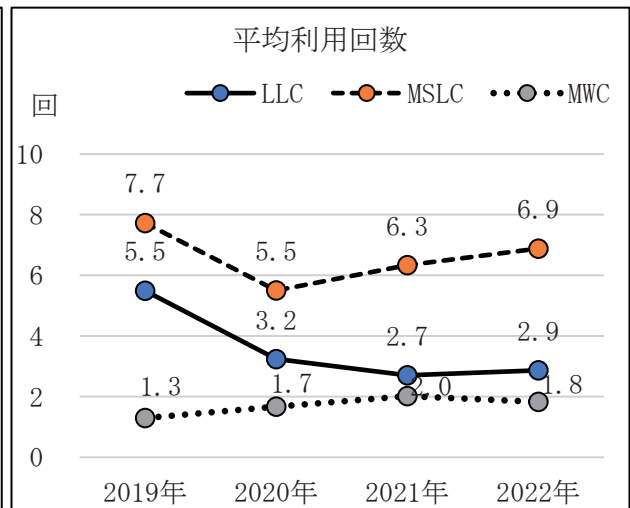


図9 全学の平均利用回数

[考察]

表4は、全学の3学習センターの利用状況である。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学習センターの利用を中止した時期もあり、2020年度以降は利用者が激減した。今年度は対面授業が増えたことから利用者は徐々に回復傾向にある。特に、言語学習センターでは、これまでの英語中心の学習支援に加えて、第2外国語の利用者が増え、2022年度はコロナ禍以前の2019年度を超える結果となっている。ライティングセンターも同様に、2021年度、2022年度の利用者が増えている。ところが、数理学習センターは、コロナ禍前の状況には未だ程遠い状況にあるが、少しずつ上昇傾向にあり利用延べ人数は最も多い状況が続いている。数理学習センターは全学的な必修科目の連携授業がなく、一部の科目履修者が主な利用対象となるため実人数は多いとは言えないが、一人当たりの利用回数は最も多い状況が続いている。

3学習センターともに1年次の利用者が圧倒的に多い為、表5には1年次のみ利用状況を全学と北部7校を比較して示している。

表5 1年次の学習センターの利用状況 ※合計は3センターの単純合計

年 度	1年次 在 籍	2019年		2020年		2021年		2022年	
		全学	北部	全学	北部	全学	北部	全学	北部
		495	42	486	59	470	48	491	58
言語学習センター LLC	延べ人数	1271	125	443	98	493	45	864	158
	実人数	254	18	150	29	207	27	327	49
	利用率	51.3	42.9	30.9	49.2	44.0	56.3	66.6	84.5
	平均回数	5.0	6.9	3.0	0.3	2.4	1.7	2.6	3.2
数理学習センター MSLC	延べ人数	2693	344	560	669	1033	250	1548	157
	実人数	306	25	114	24	184	36	189	31
	利用率	61.8	59.5	23.5	40.7	39.1	75.0	38.5	53.4
	平均回数	8.8	13.8	4.9	27.9	5.6	6.9	8.2	5.1
ライティング センター-MWC	延べ人数	74	10	56	10	193	23	255	17
	実人数	65	10	44	4	96	12	128	11
	利用率	13.1	23.8	9.1	6.8	20.4	25.0	26.1	19.0
	平均回数	1.1	1.0	1.3	2.5	2.0	1.9	2.0	1.5
合 計		4038	479	1059	687	1719	318	2335	332

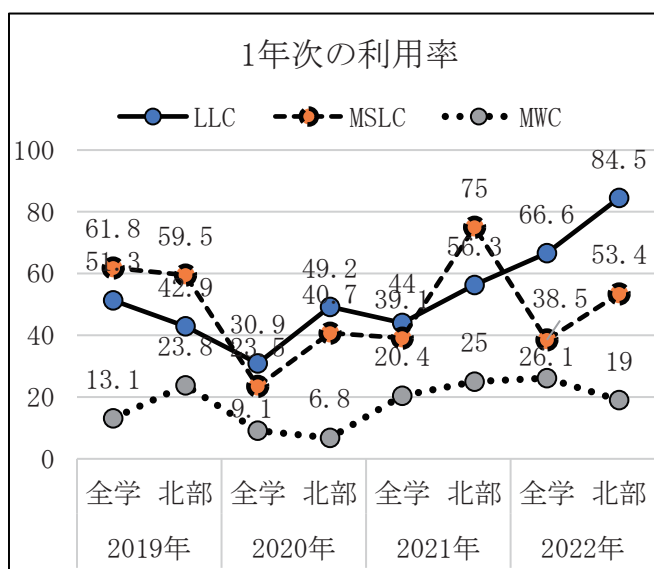


図10 1年次の利用率

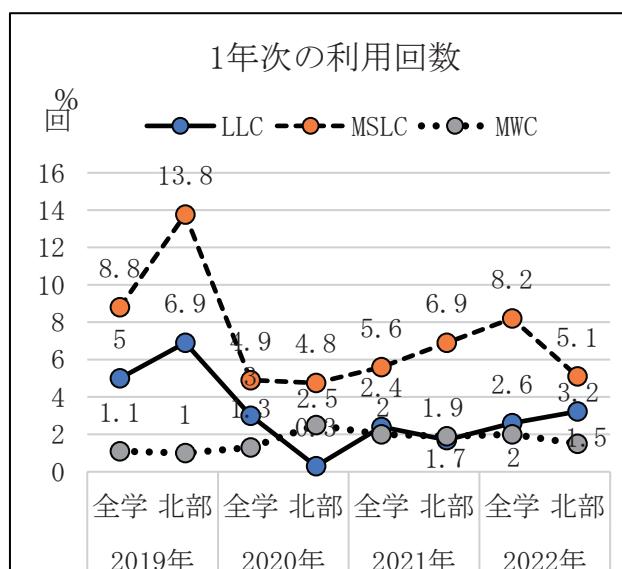


図11 1年次の利用回数

[考察]

3学習センターそれぞれの特色を活かして学習支援を促していることが分かる。

LLCは、英語に限らず外国語も含めた必修科目が多い為、授業と連携し学習センターの活用を促していることが分かる。2022年度の学習センター利用率84.5%と高い結果となっている。

MSLCは、全学的な数理科目の必修科目がないため利用者は概ね連携科目の受講者に限られている。受講者は課題のチュータリングを受けるため、利用者の平均回数は最も多い結果となっている。MWCの利用者は、年々増加傾向にあるが、北部出身者の利用状況が年度によって変わる傾向が見られる。全体と北部7校出身者の1年次の利用率を比較すると、2019年度のMWC利用は北部7校出身者が多く、他の2センターは北部の利用率は低い結果であった。2020年度はその逆となっている。2021年度は3センター共に北部7校出身者の利用率が高く、4年間の単純平均では北部地区の利用率が高くなっている。特に、数理学習センターは2020年度以降北部7校出身者の利用率が高くなっている。数学基礎力に困難を抱えている学生は数理学習センターと連携して開講している自然科学特別講義「統計学基礎」の履修対象者の割合が高い傾向にあることも要因の一つであると考えられる。

7 実践報告

7.1 名桜大学の高大接続事業

— 意欲ある多様な学生を受け入れるための高大接続の取組 —

本学は、アドミッション・ポリシーを踏まえた多面的・総合的な入学者選抜を実施し、多様な学生を受け入れている。また、受け入れたすべての学生に対して、4年間の学びを保証し、自信と夢を持って社会で活躍できる人材の育成を目指している。ところが、北部地区出身学生の入試形態は一般入試より推薦型入試が多く、入学までの学習経験や意欲の差により、大学生活にも影響を及ぼしている学生がいるのではないかと危惧してきた。そのため、入学前から目的意識を醸成し、一人一人が目標をもって、その実現に向けて意欲を高めていく必要があると考え、高校と大学が連携し、「主体的に学ぶ」意義・必要性を入学前に自覚させることを目的として高大接続勉強会をスタートさせた。まずは高校と大学の教員間の情報共有を図り、双方で生徒の学びへの意欲を喚起することを目標とした。さらに、教員間の交流のみに終始するのではなく、生徒にも大学との接点の場を設け、高大接続勉強会を開始した2018年度に「入学前特別講座」もスタートさせた。

本研究では、高大接続事業「名桜大学高大接続勉強会」及び「入学前特別講座」の円滑な接続を行うためのポイントとして、以下の5点を挙げている。

＜ 円滑な接続を行うためのポイント ＞

1. 教員間で「身に付けさせたい力」を設定・共有すること
2. 入学までに高校教育と大学教育の特徴や違いを理解させること
3. 円滑な接続を意識して入学後の目標や主体的な学びを意識させること
4. 校種間交流を進めるとともにカリキュラムマネジメントを行うこと
5. 入学前準備学習を通して学習習慣を意識させること

2020年度の大学入試改革を控え、高校と大学の相互理解に基づく情報収集及び情報共有を具体的に進め、高大接続の実質化に向けた一体的な教育改革を図ることを目的として、2018年度に名桜大学高大接続勉強会がスタートした。2年目を迎えた2019年度に、本学では高大接続ワーキンググループを立ち上げ、全学的な取組として高大接続事業を企画し推進することとなった。そこで、これまで実施してきた「名桜大学入学前教育プログラム」及び「大学生基礎力調査」に加えて、国際学群・人間健康学部が独自に行ってきた「入学前教育」も全学組織に位置付け、情報共有を図り、第1回ワーキングは2019年10月1日、第2回ワーキングを2019年11月8日に実施した。さらに2021年度より高大接続事業「名桜大学高大接続勉強会」「入学前特別講座」の主管を名桜大学リベラルアーツ機構とし、新しい運営体制を構築した。

2018年度実施の当初の入学前特別講座は、北部枠推薦合格者の希望者を対象に実施した。北部枠推薦とは、北部地域の出身者で高等学校は、県内全域または県外の高校生も対象である。遠くは県外や離島からの参加もあった。しかし、北部以外からの参加者が多数を占め、北部地区7校からは参加しない生徒もいた。遠くからの参加については、交通費や宿泊費が伴うなどの幾つかの課題もあり、2020年度から北部地区7高等学校に限定することとなった。

円滑な接続を行うために掲げたそれぞれのポイントは、これまでの高大接続勉強会及び入学前特別講座の目標ともリンクさせながら進めている。

ポイント1「教員間で『身に付けさせたい力』を設定・共有すること」について、高等学校からは、実態に合わせた「身に付けさせたい力」が、それぞれの学校により異なるのではないかと意見も出された。だからこそ、学力の3要素をしっかりと共通理解し身に付けさせることを目標しなければならないと考えている。そのためにはカリキュラムマネジメントの必要性が重要となってくる。また、

入学前特別講座Ⅰ・Ⅱの目標を、ポイント2「入学までに高校教育と大学教育の特徴や違いを理解させること」、ポイント3「円滑な接続を意識して入学後の目標や主体的な学びを意識させること」、ポイント5「入学前準備学習を通して学習習慣を意識させること」としている。具体的には、すべての入学生が大学での学びに具体的なイメージを持ち、安心して大学生活を迎えられるような体験を積み、先輩学生が大学生活で得た経験、学びや反省を踏まえて高校生にメッセージを送り、高大のギャップについて考えさせるような交流会を実施している。2021年、2022年の入学前特別講座Ⅰ・Ⅱでは、講座実施後の目標達成率の向上が把握できた(参照91, 93, 106, 107頁)。しかし、入学後の学びに結びつけるためには、さらに継続した研究及び実践が求められる。

また、単に情報交換や交流会の実施で終わるのではなく、ポイント3の「双方でカリキュラムマネジメントを行うこと」も重要となる。高大接続事業がカリキュラムマネジメントに繋がっていないところは今後の課題と捉えている。

さらに、大学入学時の学力や学習意欲の格差の課題改善の取り組みの一つが、本研究のテーマである「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」である。

本学の特色の一つに先輩・後輩コミュニティを基盤としたピア・ラーニングプログラムの推進がある。ピアとは仲間という意味で、ピア・ラーニングは仲間である学生が学生を支援する学びである。入学前特別講座Ⅰは、当初から本学の学生団体の協力を得て行っている。取り分け新入生支援を行う学生団体「ウェルナビ」の活動は、地域コミュニティを支える次世代リーダーの育成を目的としており、入学前から様々なコミュニティ活動に触れさせ、北部出身学生にも入学後はこのような団体での活動にも積極的に関わってもらいたいと考えている。入学後の北部出身学生の大学での学びや4年間の活動を通して、社会人基礎力を培いキャリアに繋げていけるようにするのも本プログラムのねらいである。

さらに、入学前に学習センターのチューターと関わることにより、入学後の学習センターの利用を促し、本研究の目指している「主体的な学び」に繋げることもねらいである。すなわち、本プログラムにより、学力の一つの要素である「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を育成し、学力の向上を実現することが、地域の人材育成であり、地域の発展に大きく貢献できるものと期待できる。そこで、受け身ではなく地域の学生が主体的に自らリーダーシップを発揮できるような機会を与えることも本研究内容には含まれている。

本学では、学生が将来地域の発展にどのように貢献できるかということを見据えた教育プログラムの開発も行われてきた。これからの社会で新たな価値を創造する力を育むことは、本研究とも深く結びついており、本学の高大接続事業は、これらのプログラムに北部出身学生も積極的に関わっていけるようなきっかけとなることを想定している。

また、学習の得意分野を活かし支援を行う学習支援センターのチューターと、学習の苦手分野の支援を受ける学生が、「みえる・つながる・ひろがる」をコンセプトとしている先輩後輩コミュニティに積極的にかかわれるような支援づくりを今後はさらに積極的に進めていく。特に、入学前特別講座Ⅰ・Ⅱは、大学での学びに具体的なイメージを持ち、安心して楽しみにして大学生活を迎えられるようになることを期待している。そのことを事前に高等学校教員と情報共有を図り共通理解の下、進めていくのが高大接続勉強会である。

「名桜大学の高大接続とピア・ラーニング」の研究・実践は、北部出身学生の地域貢献に繋がる「持続的な開発のための教育」の一環であり、地域の人材育成の地域貢献プログラムであると考えている。

本研究で推進している名桜大学高大接続事業「高大接続勉強会」と「入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ」は、入学前から卒業までの本学の教育プログラムとの関わりも本事業のPDCAにより、少しずつ修正を加えて現在に至っている。

7.2 高大社接続（高校・大学・社会接続）における度高大接続勉強会の位置づけ（学内資料①）

※高校向け説明会、入学時の保護者説明会、教育懇談会、合同企業説明会、合同病院説明会といった学外者向けの大学説明会資料の共有化にも活用可

No	自己推薦	推薦一般	その他	トピック	入学前						入学時				3年次		4年次		卒業時	卒業後
					6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	前期	後期	前期		
1	○	○	△	プッシュ型広報（出張講座、入試説明会）																
2	○	○	○	進路指導担当者・校長向け入試説明会																
3	○	○	△	プル型広報（オーキャン、大学見学）																
4	◆	◆	◆	自己推薦（総合型）																
5	◆	◆	◆	推薦入試（学校推薦型）																
6	○	○	○	高大接続勉強会（北部地域のみ）																
7	○	○	○	入学前教育																
8	○	○	○	入学前特別講座																
9	◆	◆	◆	一般入試																
10	◆	◆	◆	学力調査（入学時：英語・国語・数学）																
11	◆	◆	◆	ジェネリックスキル調査																
12	○	○	△	正課内のリメディアル教育																
13	○	○	○	学習センターによるピアラーニング																
14	◆	◆	◆	正課教育（GPA、成績分布）																
15	◆	◆	◆	正課教育（授業評価アンケート）																
16	◆	◆	◆	自己学習評価																
17	◆	◆	◆	海外留学																
18	◆	◆	◆	中間評価																
19	◆	◆	◆	英語能力調査（2年次）																
20	◆	◆	◆	卒業研究評価（4年次）																
21	◆	◆	◆	卒業率・就職率・進学率																
22	◆	◆	◆	資格試験合格率																
23	◆	◆	◆	卒業生に対する調査																
23	◆	◆	◆	卒業生に対する追跡調査																
24	◆	◆	◆	就職先・進路先に対する調査																
25	○	○	○	卒業教育プログラム																

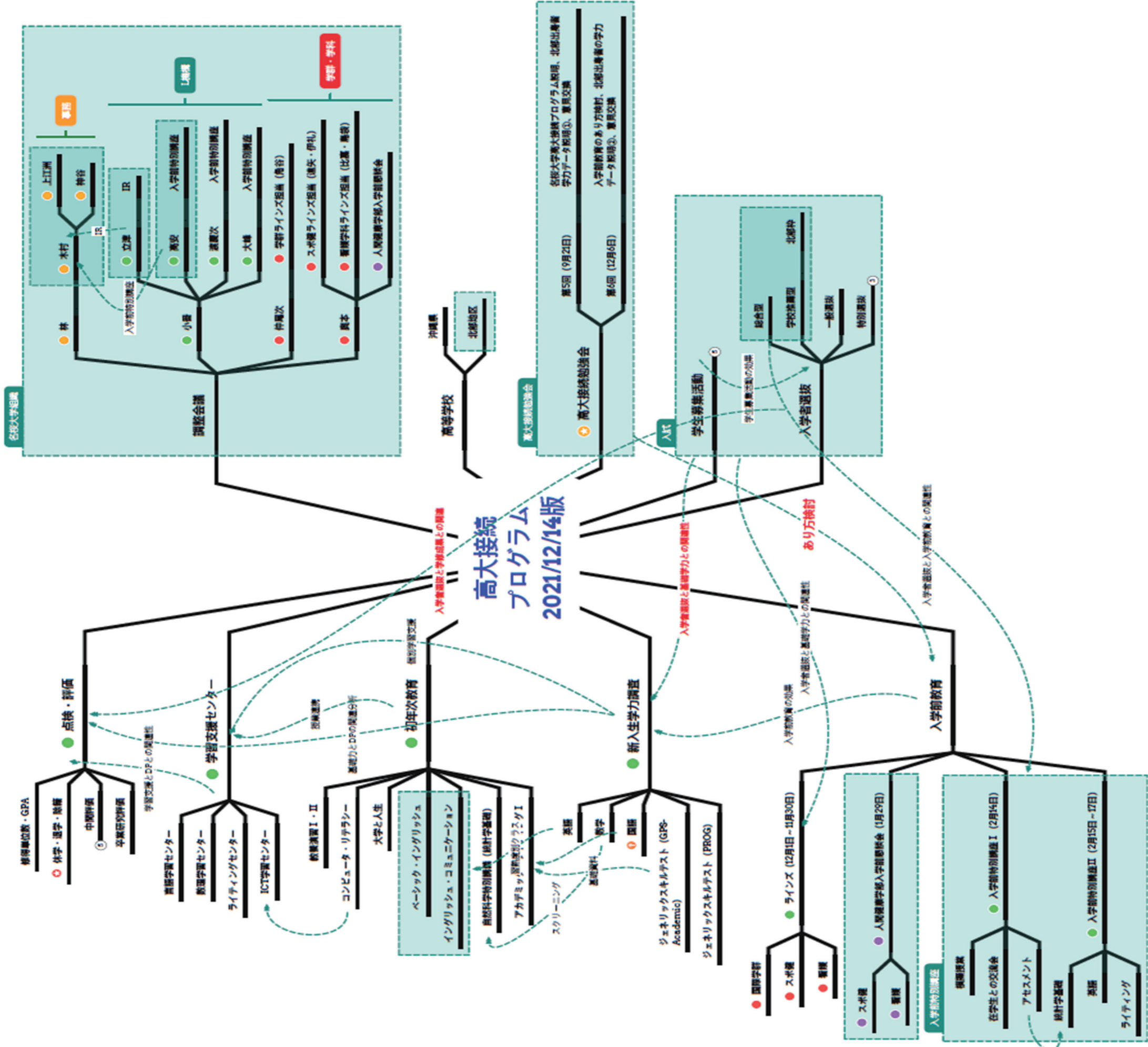
◆ 高大社接続（高校・大学・社会接続）における度高大接続勉強会の位置づけ（学内資料②）

※高校向け説明会、入学時の保護者説明会、教育懇談会、合同企業説明会、合同病院説明会といった学外者向けの大学説明会資料の共有化にも活用可

No	自己推薦	推薦	一般	その他	トピック	説明資料作成に必要なアセスメントデータ
1	○	○	○	△	ブッシュ型広報（出張講座、入試説明会）	出張講座の回数、参加人数
2				○	進路指導担当者説明会・校長意見交換会	説明会の参加人数
3	○	○	△	△	ブル型広報（オーキャン、大学見学）	オーブンキャンパスの参加人数
4	◆				自己推薦（総合型）	志願者数、合格者数、入試結果（評定平均、実績報告、プレゼン・面接・課題レポート）
5		◆			推薦入試（学校推薦型）	志願者数、合格者数、入試結果（評定平均、実績報告、小論文・面接）
6				○	高大接続勉強会（北部地域のみ）	勉強会の参加人数
7	○	○			入学前教育（人健のみ入学前オリ実施）	入学前教育取組状況（対象者数、提出状況、達成状況）
8	○	○			入学前特別講座	入学前特別講座取組状況（対象者数、出席状況、達成状況）
9			◆		一般入試	志願者数、合格者数、入試結果（評定平均、実績報告、センター試験・小論文・英語）
10	◆	◆	◆		学力調査（入学時：英語・国語・数学）	学力調査結果（英語、国語、数学）平均値、分布
11	◆	◆	◆		ジェネリックスキル調査	ジェネリックスキル調査結果（学習目標、学習行動、進路、汎用的スキル）平均値、分布
12	○	○	△		正課内のリメディアル教育	自然科学特別講座（登録者数、達成状況）
13	○	○	○		学習センターによるピアラーニング	学習センター（利用状況、達成状況）
14	○	○	○		正課教育（授業数、受講者数）	授業数、受講者数
15	◆	◆	◆		正課教育（修得単位数、GPA、成績分布）	平均修得単位数、平均GPA、成績分布
16	◆	◆	◆		正課教育（授業評価アンケート）	授業評価の分布、学生のコメント
17	◆	◆	◆		自己学習評価	学習評価（学習目標、学習活動、学習評価、改善点）
18	◆	◆	◆		海外留学	海外留学者数、海外留学者率
19	◆	◆	◆		中間評価	各学群、学科によって設定
20	◆	◆	◆		英語能力調査（2年次）	英語能力の平均値、分布、英検2級相当の達成率
21	◆	◆	◆		卒業研究評価（4年次）	卒業研究評価の分布
22	◆	◆	◆		卒業率・就職率・進学率	卒業率、就職率、進学率
23	◆	◆	◆		資格試験合格率	資格試験合格者数、合格率（例、看護師・保健師、教員、診療情報管理士、民間英語試験など）
24	◆	◆	◆		卒業生に対する調査	卒業時の達成状況の自己評価
25	◆	◆	◆		卒業生に対する追跡調査	卒業後の達成状況の自己評価
26	◆	◆	◆		就職先・進路先に対する調査	卒業生に対する評価
27	○	○	○		卒業教育プログラム	実施回数、参加人数

○：PDCA「D」プログラム（対象メイン）、△：プログラム（対象サブ）、◆：PDCA「C」アセスメント

◆ 2021年度名城大学ピア・ラーニングプログラム



◆ 2021年度名桜大学高大接続プログラム（学内資料）年度計画→点検→評価→公開

2021年度名桜大学高大接続プログラム(案)		目的の内容は私家です。担当部署でご確認ください。	目標のうち項目に2項目を追加しました。これにより確認をお願いします。	2021年度		2022年度		実施計画書等があれば、ファイルで共有、あるいはURLを明記してください。	報告書があれば、ファイルで共有、あるいはURLを明記してください。																	
No	プログラム名	対象者	目的・内容	意欲向	学力向	正課外	学習セ			学力評	自己課	企画担当	実施期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2月	3月	4月	5月
生	名桜大学出願生	県内高校・北	本学教員が高等学校等に出向き、専門的	0	0	0	0	0	0	企画担当	実施期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2月	3月	4月	5月	6月	実施要項や計画、チラシ等
募	オープンキャンパス	入学希望者	入学希望者との関係性を対象に、本学の	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	4/3	https://www.nbi.ac.jp/
集	オープンキャンパス	入学希望者	入学希望者との関係性を対象に、本学の	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
法	遠路送迎担当教員との意見交換会	遠路送迎担当	遠路送迎担当者に対し、本学の入学希望	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
活	河津県高等学校長協会との意見交換会	高等学校校長	高等学校校長に対して、本学の教育研究活動	0	0	0	0	0	0	高等学校校長	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
入	総合型選抜(学歴、スポーツ)	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	9~10月	https://www.nbi.ac.jp/
学	学校推薦型選抜	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	https://www.nbi.ac.jp/
者	特別選抜	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	12月中旬	https://www.nbi.ac.jp/
選	一般選抜(前期)	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
抜	一般選抜(後期)	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
入	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
学	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
力	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
調	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
査	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
学	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
力	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
調	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
査	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
初	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
年	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
次	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
教	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
育	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
概	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
セ	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
ン	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
点	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
評	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
価	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
査	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/
査	入学前検査	入学希望者	入学希望者の名前	0	0	0	0	0	0	入学希望者	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	https://www.nbi.ac.jp/

◆ 2022年度名桜大学高大接続プログラム

計画表は省略

No	プログラム名	対象者	目的・内容	大学理解	意欲向上	学力向上	正課授業	学習センター	学力評価	自己評価	企画担当	実施期間	自己点検 評価報告書
	名桜大学出張講座	県内高校、北部中学校 対象	本学教員が高等学校等に出向き、専門的な内容をわかりやすく教授、生徒に専門分野や大学そのものに興味をもってもらう。	○	○						入学者選抜委員会	通年	省略
	オープンキャンパス	入学希望者との関係者	入学希望者とその関係者を対象に、本学の入学選抜、教育課程、学科・専攻の特色、施設などを紹介するとともに、入試・学生生活などの個別相談を実施する。	○	○						入学者選抜委員会	6月11日	
	オープンキャンパス	入学希望者との関係者	入学希望者とその関係者を対象に、本学の入学選抜、教育課程、学科・専攻の特色、施設などを紹介するとともに、入試・学生生活などの個別相談を実施する。	○	○						入学者選抜委員会	8月6日	
	進路指導担当教員との意見交換会	進路指導担当者	進路指導担当者に対し、本学の入学選抜の説明、意見交換を通して相互理解を図る。	○							入学者選抜委員会	6月24日	
	沖縄県高等学校長協会との意見交換会	高等学校長	高等学校長に対して、本学の教育研究活動及び入学選抜を説明し、意見交換を通して相互理解を図る。	○							入学者選抜委員会	6月30日	
	総合型選抜(学群、スポ健)	入学希望者	省略	○					○		入学者選抜委員会	9~10月	
	学校推薦型選抜	入学希望者	省略	○					○		入学者選抜委員会	12月中旬	

学生募集活動

入学選抜

特別選抜	入学希望者	省略	○							入学者選抜委員会	12月中旬	
一般選抜(前期)	入学希望者	省略	○							入学者選抜委員会	2月24日	
一般選抜(後期)	入学希望者	省略	○							入学者選抜委員会	3月11日	
高大接続勉強会	北部地区高校の進路指導担当者	高校と大学の相互理解に基づき情報収集及び情報共有を具体的に進め、高大接続の実質化に向けた一体的な教育改革を図る。	○	◎	◎					入試課⇒L機構	8月16日 11月28日	
入学前学習 (ライオンズ:eラーニング)	入学予定者	入学までの時期を活用し,eラーニング教材で高等学校で学んだ内容の復習を中心に学習,基礎学力の強化を図り,新生活のスタートに向けた準備を促す。		○	◎	◎	○	○		入試課⇒L機構	1~3月	
入学前特別講座 I	北部地区高校出身の入学予定者	入学予定者に対し,入学前特別講座の目的や方法を説明するとともに,授業見学や交流会を通して大学理解と学習目標の再設定を促す。	○	○	◎	◎	○	○		入試課⇒L機構	2月	
入学前特別講座 II	北部地区高校出身の入学予定者	入学予定者に対し,統計学,英語,ライオンズの基礎を学ぶ機会を提供するとともに,入学後の学習センター利用の促進を図る。		○	◎	◎	○	○		入試課⇒L機構	2月	
入学前教育												

学力調査	新入学生力調査(GPS-Academic)	入学生 全	大学教育や、社会進出後に必要となる汎用的能力「問題を解決する力」を「思考力」「姿勢・態度」「経験」の視点から、その能力を可視化し、汎用的能力の修得、自己理解の促進を図る。同時に、ライティング力を評価し、アカデミック・ライティング I での学修支援に活用する。																4月	L機構	
	新入学生力調査(英語)	入学生 全	入学時の英語力を評価し、その能力に適した教養英語クラスを編成するとともに、2年次の中間評価と比較することで、効果検証を行う																4月	L機構	
	新入学生力調査(数学)	入学生 全	入学時の数学力を評価し、数学力に困難を抱える学生対象の統計学基礎講座を推奨する																4月	L機構	
	ジェネリクススキルテスト(PROG)	人間健康学部 入学生	社会で求められる汎用的な能力・態度・志向(ジェネリクススキル)を測定・育成する。テストでは、リテラシーとコンピテンシーの2つの観点から測定し、自身の現状を客観的に把握する。																4月	人間健康学部	
初年次教育	教養演習 I・II	入学生 全員	大学理解と大学適応を促し、4年間主体的に学び続けるための人間関係資源の獲得とアカデミックスキルを習得する。																	入学後4月～	L機構
	アカデミック・ライティング I	入学生 全員	学術的文章のルールを学ぶとともに、自ら情報を収集し、論理的な意見を表現する技術を習得する																		入学後4月～

コンピュータ・リテラシー	入学生 全員	基本的なコンピュータ操作に加えて、情報活用、情報発信の技術を学ぶ	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
ベーシック・イングリッシュ	入学生 全員	高校までの英語力を維持するだけでなく、大学での学習に必要な読む・書く力を身につける	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
イングリッシュ・コミュニケーション	入学生 全員	高校までの英語力を維持するだけでなく、大学での学習に必要な聴く・話す力を身につける	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
大学と人生	入学生 全員	学長に加え、多様なゲスト講師による講話をもとに、学生自らが大学で学ぶ理由を自らに問う	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
自然科学特別講義(統計学基礎)	数学力 に困難 を抱えて いる学生	統計学に必要な数学力を身につけるとともに、記述統計を中心とした統計リテラシーを獲得する	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
言語学習センター	希望者	外国語の授業と連携した学習支援、特別講座、チュータリング、自習の環境を提供することで自立した学習者の育成を行う。	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
数理学習センター	希望者	数理系の授業と連携した学習支援、特別講座、チュータリング、自習の環境を提供することで自立した学習者の育成を行う。	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
ライティングセンター	希望者	レポート・論文執筆を課す授業と連携した学習支援、特別講座、チュータリング、自習の環境を提供することで自立した学習者の育成を行う。	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
ICT 学習センター	希望者	ICT スキルを学ぶ授業と連携した学習支援、特別講座、チュータリング、自習の環境を提供する	○	○	○					L 機構	入学 後4 月～
学習支援センター											

点検・評価										
									ことので自立した学習者の育成を行う。	
修得単位数・GPA	全員	入学後の正課教育の進捗度を 確認する								
中間評価(英語)	2年次全 員	全学の英語教育の目標の達成 度を評価する	○							
中間評価(国際学群)	国際学 群2年 次	学群の2年間の教育目標の達 成度を評価する	○							
中間評価(スポーツ健康学科)	スポー ツ 健康学 科2年 次	学科の2年間の教育目標の達 成度を評価する	○							
中間評価(看護学科)	看護学 科2年 次	学科の2年間の教育目標の達 成度を評価する	○							
卒業研究評価	4年次全 員	卒業論文の中間発表や最終発 表会の機会を利用し、学位授与 方針(ディプロマ・ポリシー)に基 づく目標の達成度を評価すると ともに、改善点を学生へフィー ドバックする。	○							

8 カリキュラム・マネジメントの視点から取り組む教育連携型研修会

カリキュラム・マネジメントの視点から今回は、2つの研修を実施した。

「探究的な探求の時間」^{xix}では、教科や科目等の枠を超えて探求する価値のある課題に取り組むことが求められている。現代的な諸課題に対応して探究的な学習や協働的な学習の推進のために、教員が率先して探求学習と向き合うことが重要である。そこで、本研究会では、連携型研修会を企画し北部地域の小・中・高・大学の校種を超えた教員が、今後の指導に活かすことを目標に取り組んだ。

教育連携型研修会① 「探究・STEAM教育」研修会報告書

2022年8月22日(月)、名桜大学 SAKURAUM6階スカイホールAにおいて、北部地区の小・中・高・大学の教員及び高校生、大学生を対象に、「探究・STEAM教育」研修会を実施いたしました。本研修会は、名桜大学高大接続研究会が主催し、国頭教育事務所及び北部12市町村教育委員会の後援を受けての開催です。その目的は、教員が所属する組織に触れ、探究を体感し、主体的・対話的・協働的な学びを醸成することにより「STEAM教育の推進」「探究授業の充実」に資することです。これからの社会を生き抜く力として横断的・総合的な学習を通して、よりよく課題を発見し解決していく資質・能力を育成する教育が求められていますが、これらは、これまで教員自身が体験する機会に恵まれなかった指導内容や指導方法であるため、教員は元より生徒、学生にも戸惑いが見られます。そのため必要な知識・技能を身に付け、校種を超えてそれぞれの教育に資する研修を目指しました。

今回は、探究・STEAM教育の研究・実践者としてご活躍中の森弘達先生(大妻学院大妻中学高等学校探究科主任)を講師にお招きしての研修会でした。

参加者は、午前の部67人(対面45, オンライン22)、午後の部20人(対面15, オンライン5)でした。県内外で多方面の活躍をされている森弘達先生の研修ということで、中・南部や県外からも3人の参加がありました。研修概要は以下のとおりでした。

<午前の部> ①『学習する組織』とは ②「主体的・対話的・協働的な学校・教室」のつくり方

時代の変化が激しい現代においては、課題に対して短期的に対応するだけでは、問題の解決はおぼつかない。全体を見て、相互のつながりに着目し、課題を引き起こしている構造を捉え、中長期的に考え、未来を洞察したり、未来を創造したりする「システム思考」が求められる。このため、子どもから大人までが「学習する組織」の理論に基づく『システム思考』を学ぶ重要性を認識し、対話を繰り返し、協働して課題を解決し、未来を創造することができるように努める。

ピーター・センゲ(マサチューセッツ工科大学教授)やクリス・アージリス(ハーバード大学教授)が生み出した「学習する組織」の概念の紹介、「教える」組織から「学ぶ」組織へ、「学習する組織」の3つの柱「①複雑性を理解する力、②共創的に対話する力、③志を育成する力」と5つのディシプリン「①自己マスタリー、②共有ビジョン、③システム思考、④メンタル・モデル、⑤チーム学習」があり、「学習する学校」や「学習する教室」の説明。ワークショップで様々なツールの紹介

<午後の部> ① 探究学習のはじめ方 ②「探究を体感してみよう」「STEAMって何？」

最初に、大学入試問題の新傾向として、慶應義塾大学入試、京都大学総合人間学部の特徴入試等の紹介本題で、①探究って何を学ぶのか、探究を通して身に付ける資質・能力(知識・技能・思考力:深く考える力・判断力:主体的に考える力・表現力:対話的に考える力・モチベーション・つながる力)についての説明。

大学や企業が求めている「探究」型人材として求められる力として「①問いを持つ、課題を発見する。②人や社会とつながり、対話し、協働する。③さまざまな組織に帰属し、複数の専攻を持つ。」ことが不可欠である。

探究学習は、「人に出会い、刺激を受け、問いをもつことが『探究』の第一歩」であり、世界を、未来を変える。

おわりに、木村堅一学長補佐(大学教育質保証担当)より感想とお礼のことばが述べられました。

1. 社会が急激に変化していることに伴い、大学や高校の教育のあり方も変化している。
2. 大人は、子どもと対話し、「将来のビジョン(Future)」を共に創っていくことが重要である。
3. 子どもたちに必要な資質・能力を身に付けさせるためには、私たち教員も勇気を出して、総合的な視点から探求活動に取り組まなければならない。

本日の研修会で学んだ上記のことを教員間で共有し、子どもたちより1歩先んじて行動し、背中をみせることができればよいと思います。子どもたちとの信頼関係をつくり前進していきましょう。森先生には今後ともご教示いただきますようお願いいたします。本日は貴重な研修会となり、ありがとうございました。



写真 研修の様子 (2022.08.22)

<参加者の感想より一部抜粋>

- STEAM 教育とは何なのか、実践事例を聞く機会がなかったので、とても勉強になりました。
- 今後の「学習する組織」づくりを考える良い機会となりました。学生も含めて、一緒に話し合う、考える場があり有意義な機会でした。ありがとうございました。
- 現場が大変と言っているだけではなく、解決法を探りながら様々なことに挑戦していかなくては行けないと改めて思いました。これからの社会に生きる生徒のために、教師が見せるべき姿は、変革に挑んでいく姿ではないかと思えます。
- 探究学習、STEAM 学習など興味はあったが実践内容について分からないことが多く、今回の研修会を受講しました。森先生の研修の中で、氷山モデルやループ学習など初めて聞く言葉が多く、多くの刺激を受けました。あの場で理解できたことは少ないかもしれませんが、もう少し自分なりに調べて落とし込めるよう努力したいです。
- これからの日本社会に必要な人材、人材育成に向けてどのような教育が必要かを知ることができました。それと同時に、そのような教育をしていくための整備(カリキュラムマネジメント・人材確保・教員の数・家庭や地域の教育力)が全然足りない事も感じました。
- 森先生の豊かな言葉、知見、例え話を通じて『学習する組織』の捉え直しをすることができました。また、森先生自らが学び続けているお姿から、私自身がせっせと勉強していかなければと身の引き締まる思いでした。はるばる東京から訪れましたが、沖縄の先生や学生とも交流する機会があり、大変貴重な時間となり、満足しております。素敵な機会を提供していただき、ありがとうございました。
- 「学習する組織」について興味があり参加いたしました。とても難しいものを非常にわかりやすく、コンパクトに説明していただいたので今後自分で学習する際の手がかりとしたいと思えます。
- 改革の趣旨は世界に通じる科学力技術力の発展のはずですがそのためには大学、高校とも人材不足でございます。大学にあっては研究費の増強、高校にあっては授業作り時間確保のため教員増を望みたいところです。最高峰の頭脳陣は海外に流出しておりますし最新の論文はすべて英語圏です。
- 予算も少ない中で、参考書を購入するのも厳しいと思えます。学校全体の体制を急に変えることも現実的に不可能です。実際に今の沖縄県の状況で実践するには、どのような取り組みから始めたら良いのでしょうか。
- 探究学習や STEAM 学習は学習者に相応の学力が事前に求められることになると思えます。実際の現場では基礎的な学力が不足しているケースも多々みられる中で、そういった生徒のとっかかりになるような教材について研究してみたいと思えます。
- 一般参加も可能なオープンなオンラインでの研修会、教育に関わる多様なテーマであれば是非参加させていただきたいです。
ご参加いただきました皆様、準備・運営にご協力いただきました教員養成支援センター、北部教育研修センター、リベラルアーツ機構の皆様にお礼申し上げます。

教育連携型研修会の二つ目に「英語教育」研修会を実施した。北部地域の課題として地域出身の中学校及び高等学校教員の減少が課題となっており、本学では北部 12 市町村の教育委員会と連携し、教員養成に取り組んでいる。また、本学では中学校及び高等学校の「英語」の教員免許も取得できるものの、北部地域の英語免許取得者は近年ほとんどいない状況が続いている。

全国学力テスト及び県の到達度テストにおいて、特に北部地区の英語の学力低下が課題となっているため、校種を超えて英語教育の研修が必要である。それを地元出身の教員養成にもつなげていきたいと考えている。

教育連携型研修会② 「英語教育」研修会報告書

2022 年 8 月 23 日(火)、名桜大学 SAKURAU6 階スカイホール A において、沖縄県内の小・中・高・大学の教員及び高校・大学生を対象として、英語教育に関する研修会を実施いたしました。本研修会の目的は、「小中高の英語教育は今後どのように取り組むべきか」に焦点を当てて、灘中学校・高等学校の元英語教師である木村達哉先生にご公演いただきました。

参加者は、49 人(対面 26, オンライン 23)で、県内のみならず県外の教育関係者の参加もありました。研修概要は以下の通りです。

<教員の役割>

- ・成績が上がるメカニズムを知っておかなければならず、「授業」→「復習」→「自習」→「質問」→「自習」→「質問」の循環を常に意識することが大切である。また、成績を伸ばすのは「自習」時間であり、英検、GTEC などの資格対策を実施したからといって成績が伸びるわけではない。
- ・教員はアドバイザーであり、成績が上がらない生徒に対しては、その理由を伝える必要がある。また、勉強する理由を「社会的」(勉強の裏には困っている人を助ける役割があること)、「教育経済学的」(勉強すればお金が入ってくる)な観点から説明し、「人生において何をを選んでいくのか」を伝える役割がある。

<英語教育法>

- ・語彙の習得について
 1. スペリングより、発音と意味を重視(教員もしっかり勉強が必要)
 2. 語彙の勉強の際にリスニング強化
 3. Quick Response を意識した単語・熟語の強化
- ・リスニング勉強の手順
 1. 読む(意味)
 2. 真似る(発音) → 音を真似る
 3. シャドーイング(反復) → 音と意味を打ち破る訓練
- ・聞き取るために必要な要素は「単語」「文法」「発音」
- ・話す勉強
 1. どのレベルを目指すのか明確に
 2. メモをとって文法ミスがないよう → ブロークンイングリッシュを許容しない
 3. 型を無視しない
- ・日本の英語教育では Reading を先に学ぶが、聞くことを先に学び、その後「読む」「真似る」を取り入れること

<教育環境と社会的変化>

- ・人口減少による人材と人員の枯渇が進むので、学校教育の抜本的変革が望まれる。また、経済格差による大学選択が顕著化し、国公立大学の人気向上と私立大学の人気低下およびレベル低下が予想される。

事後アンケートの結果、参加者の満足度(5段階評価)は4.8という高い平均でした。

<感想>

- 楽しいお話を交えながらポイントを押さえた講演をありがとうございました。音読指導によりシフトしたリスニング力強化につとめ、それが必然的に語彙力強化につながる教科指導を実践していきたいと再確認しました。ありがとうございました
- YouTube で所々聞いていたところをまとめてガッツリ聞けて、オンラインでも勉強になりました。今日名桜に行けなくて残念。
- 英語を学習する上で、核となる部分が多く、どのように生徒に伝えるか再認識することができました。お話もとても楽しかったです。
- とても勉強になりましたし、大学生としても、勉強のモチベーションアップになりました。
- 学び多い研修会でした。企画運営ありがとうございました！
- 今後の授業づくりにとてもプラスになる講話でした。
- 2時間30分でなく、もっと話を聞きたかったです。
- 学びのきっかけ、モチベーションの高めかたとして、大人がモデルになるというお話が印象的でした。教員一人一人が外国語を習得したモデル、大人という人生のモデルとして見せていく必要があると思いました。
- とてもやる気になりました。授業で、実践します。
- 英語学習だけでなく、沖縄や日本の未来について教育の視点から考えさせられる講演でした。
- 実践的な内容で、語学習得の根本を再確認することができました。受けていて楽しい講義でした。私もこのような教え方ができるように、英語習得を子どもたちと頑張りたいと思います。
- 大変勉強になりました。主催してくださりありがとうございました。
- 人材を育成するために、私たち教員が担う役割が大きいと感じました。人と人とを隔てる壁の大部分が言語だと思うので、生徒たちが将来英語で海外の方々とコミュニケーションを取ることができるよう、英語教育の充実に努めることが大切だと改めて実感しました。
- 4技能それぞれのポイント、とてもためになりました。ありがとうございました！
- 英語を教える上で、教師は子どものアドバイザーとなり、勉強の仕方を教えて力を伸ばすお手伝いをする役割だと学びました。現在の私の授業では不十分な部分が多く見つけたので、木村先生から学んだことを活かして、子どもたちが英語を伸ばしていける環境づくりを頑張りたいです！
- 木村先生、本日は貴重なお話しありがとうございました。なぜ勉強しないといけないのか。これからどう生きていくのか。また今後の日本の状況等にも触れていただきいろいろと考えさせられました。ありがとうございました。
- 事例紹介やワークショップなものなどもあり、内容盛りだくさんでとても楽しく参加させていただきました。「どう生きるのか」を、自分自身にも生徒にも問い続けていきたいと思いました。
- 英語の勉強法だけではなく、子どもたちに動機付けをすることの大切さを学びました。
- 我が国にもこんな素晴らしい考えを持った先生がいらっしゃることに感激しました。木村先生にはまた研修会の講師をお願いしたいです。
- 軽快なトークで惹きつけられる講演でした。
- 私のモチベーションがあがりました。ありがとうございました。
- QuickResponse や、リスニングのトレーニングなど、面白い指導法を知れたので、早速二学期からやってみたいです。
- 学校現場にいと、生徒一人一人の将来や進路に向き合うことが多いですが、なかなか沖縄全体や日本の国力の向上のことまで考えることは忘れがちです。
- 社会で活躍できる人生を育てていかないといけないと、改めて感じました。
- 英語だけの話だけでなく、社会的な事も学ぶこともできとてもためになりました。
- モチベーションを第一に考えることやスペリングにこだわらないことなど英語教育において本質的に物事を考える姿勢が参考になりました。
- 後半は参考になることが多かった。自分の授業スタイルの反省にもつながった。今後の研修会への要望、期待する情報共有内容

- いろいろな教科指導法を勉強したいです。特に観点別評価が導入されて、効率的な評価の仕方等いろいろな実践例を参考にしていきたいですので、ご検討お願いします。
- 教育関係者ではないのに、視聴させていただきありがとうございました。タイミングがあればまた参加したいです。
- 今後もハイブリッド型の研修や講座があれば、受講したいと思います。今日は、とても有意義な時間になりました。英語学習に対して、様々な視点を得ることができました。
- 定期的に開催していただけると嬉しいです。
- とても充実した研修でした。このような研修があれば、また参加したいです。
- 本日は研修の機会を提供いただきありがとうございました。
- 木村先生が、いろいろな大人のサンプルに触れさせることは子どもたちにとってとても大切だと仰っていました。そのような機会が気軽に参加できる地域講座のような感じであるといいなと思いました。
- 小中高等学校の先生のレベルアップにつながる研修会を開催してほしい。
またキムタツ先生のセミナー、講演をお願いします。是非また参加させて頂きたいです。
実践事例や4技能の指導方法等 英語教育×ICT 等



研修会の様子 2022年8月29日（月）（2022年8月23日撮影）

9 「名桜大学高大接続勉強会」及び「入学前特別講座」の実施状況

<p>第1回高大接続勉強会（2018年7月25日） テーマ「本学の初年次教育からみる教育改革の方向性」</p>
<p>2020年度の大学入試改革を控え、高大接続の実質化を図るためには、大学入試改革に加えて、高校と大学の相互理解に基づく一体的な教育改革が求められている。そこで、高校と大学の相互理解の場として、「名桜大学高大接続勉強会」を計画的に開催した。</p> <p>第1回勉強会では、本学の初年次教育の中核科目である「教養演習Ⅰ」の授業を公開し、大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、今後の名桜大学の高大接続のあり方について共に考える機会とした。</p>
<p>第2回高大接続勉強会（2018年10月25日） テーマ「入学前学習プログラム実施状況と今後の取組」</p>
<p>本学の3学習センターを見学してもらい、その後センターの設立の経緯や現状報告を行い、本学の初年次教育の紹介をした。推薦入試等で本学に早期に合格が決まった高校生を対象とした入学前特別講座において、ピア・ラーニングを取り入れた準備学習の計画についてお知らせをした。</p>
<p>2018年度「入学前特別講座（数学講座）」</p>
<p>初めて取り組んだ希望講座であった。高3の進路準備等自宅学習期間に入った直後に実施し、予想を上回る82名の生徒の参加があり、そのニーズはあることが分かった。授業形態は講義形式を想定していたがグループワークで良かったという意見が多かった。数学が苦手な学生の中にも4日間参加し、チューターの支援を受けて苦手分野を克服したいと意欲的に取組む生徒もいた。</p>
<p>第3回目高大接続勉強会（2020年2月2日実施） テーマ「高大接続の実質化に向けて」</p>
<p>高大社接続（高校・大学・社会接続）の全体像における「高大接続勉強会」の位置づけを示して「名桜大学高大接続プログラムの全体像」を説明した。2018年度に実施した「入学前学習プログラム、入学前特別講座」の報告を行った。高校からは、「高校生のための学びの基礎診断」の取組状況の報告があり、意見交換では、新しい入学者選抜の取組について多くの質問や感想が出された。</p>
<p>2019年度「入学前特別講座Ⅰ」：診断テスト・入学前体験・交流プログラム 「入学前特別講座Ⅱ」：ライティング講座・統計学基礎講座・英語ワークショップ</p>
<p>「入学前特別講座Ⅰ」は、①基礎力診断テスト（小論文と数学）を実施し、入学前の基礎力を把握した。②入学予定者と学生団体の交流会を実施した。北部の特徴について紹介するという目標を設定し、各テーマに沿って北部地域の「強み」と「弱み」についてグループワークを行い、その後全体の前で発表する時間を設けた。③大学の3科目の授業（「大学と人生」・「ベンチャービジネス」・「対人コミュニケーション論」）から1科目を選択し学生と共に授業を受講した。翌週は3日間の「入学前特別講座Ⅱ」の「ライティング講座」と「統計学基礎講座」でピア・ラーニングを行った。</p>
<p>第4回高大接続勉強会（2020年11月26日） テーマ「生涯にわたって学び続ける力の育成を目指して」</p>
<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催となった。①全国の高大接続改革の動向、②2025年度までに数理データサイエンス教育について、③大学機関別認証評価について情報共有を図った。高校からは、受験対策として小論文対策講座を実施していること、スタディーアプリを導入して基礎力向上に取り込んでいることなどの報告があった。</p>
<p>2020年度「入学前特別講座Ⅰ」：診断テスト・入学前体験・交流プログラム 「入学前特別講座Ⅱ」：ライティング講座・統計学基礎講座・英語ワークショップ</p>
<p>入学前特別講座Ⅰは、オンライン講座を体験した。 学生との交流会も同じ教室でTeamsを使ってオンライン交流会を体験した。 入学前特別講座Ⅱの「統計基礎講座」の事前調査として、数学基礎力診断テストを行った。</p>

<p>入学前特別講座Ⅱでは、①入学前後の学びのイメージギャップを小さくする。②高校と大学の接点を増やすことで学習意欲を高める。③入学前後の学びの意識改革（大学生からのメッセージと高校生の入学後の決意表明）を目的として、行われた。</p> <p>「ライティング講座」は急遽オンデマンド講座となり、「統計学基礎講座」は、オンラインの自習クラスと対面講座の2クラスに分けて同時に開催した。「英語ワークショップ」は、オンライン開催となった。数学と英語は学習センターのチューターとのピア・ラーニングを体験した。</p>
<p>第5回高大接続勉強会（2021年9月21日） テーマ「名桜大学 高大接続プログラム」</p>
<p>本学から、初年次教育（教養演習、ライティング教育、英語教育 他）の取り組み、及び入学後のピアラーニングについて説明を行った。高等学校からは、「高等学校における中高接続の課題及び高大接続の課題」に関する現状報告があった。</p>
<p>第6回高大接続勉強会（2021年12月6日実施） テーマ「入学前特別講座に向けて」</p>
<p>高校からは今回から参加する教員もいるため、大学入学への目標を明確に持ち、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等を主体的に考え、実りある大学生活を送るための講座であることを改めて共通理解した。入学後に未知の様々な出来事を体験する中で、新たな目標を見つけるためにも、現在の目標を明確にすることの必要性や「入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ」は充実した4年間を送るための準備学習であるという趣旨説明を行った。</p>
<p>2021年度「入学前特別講座Ⅰ」：診断テスト・入学前体験・交流プログラム 「入学前特別講座Ⅱ」：ライティング講座・統計学基礎講座・英語講座</p>
<p>講座の3つの目的（1. 入学後の目標を明確にする、2. 大学の学びへスムーズに移行できるように準備する、3. 入学前の準備学習（基礎力養成）を確認し、評価指標に沿って講座の実施前・実施中・実施後に自己評価を集約・分析した。いずれの項目でも向上が見られ、入学前特別講座の成果が確認できた。</p>
<p>第7回高大接続勉強会 2022年8月16日（月） テーマ「名桜大学高大接続勉強会の目指すもの」</p>
<p>名桜大学の高大接続プログラムの全体像について、入学前教育から新入生学力調査及び初年次教育、専門教育、卒業までの流れを図式化し説明を行った。さらに高大接続の取組として、北部地区県立7高校から2018年度に入学した学生の入学時の成績や入試形態、卒業時の就職状況についての分析結果を報告したが、時間の関係で仮説に基づいた意見交換をするまでには至らなかった。</p>
<p>第8回高大接続勉強会（2022年11月28日） テーマ「大学生と考える高校と大学のギャップ」</p>
<p>第8回の高大接続勉強会は、北部地区7校の高校別にグルー分けをし、出身高校の学生も交えて情報交換を行った。初めての取組だったが、高校と大学のギャップについて、入学後に苦労したことや努力したこと等について、高校の先生方からの質問を受けながら主に学生が大学での様子を報告した。その中で、学生から母校の先生方に伝えたいことや後輩に伝えたいこと等積極的な発言があり有意義な高大接続勉強会となった。</p>
<p>2022年度「入学前特別講座Ⅰ」：診断テスト・交流プログラム・入学前体験ライティング講座 「入学前特別講座Ⅱ」：統計学基礎講座・英語講座</p>
<p>2021年度と同様に3つの目的を達成するために9項目の到達度目標を設定し、4日間の講座の目的、目標を確認して開始した。2月13日（月）の「入学前特別講座Ⅰ」では、「①数学と英語の基礎力診断テスト、②新入生支援団体「ウェルナビ」と北部地区高校出身の先輩学生との交流会、③学習センター見学、④ライティング講座」を実施した。引き続き14日から3日間の「入学前特別講座Ⅱ」では、午前中3時間は「統計学基礎講座」、午後の3時間は「英語講座」を実施した。講座開始前と4日間の講座終了時の5回、講座の振り返りを行い、目標の達成状況を自己評価してもらった。</p>

やんばるとSDGs「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」

高安美智子（Michiko Takayasu） 木村堅一（Kenichi Kimura） 立津慶幸（Yasutomi Tatetsu）

リベラルアーツ機構

国際学群

リベラルアーツ機構

キーワード：高大接続，主体的な学び，入学前特別講座，ピア・ラーニング

【目的】

本学では意欲ある多様な学生を受け入れ，主体的な学びを促進させるための取組みとして，2018年度より「高大接続勉強会」及び「入学前特別講座」を実施してきた。

本研究の第一の目的は，高大接続事業の持続的な実施体制を構築し，北部7校出身学生の学びや活動の変容から，彼らの強みと可能性を見出すことである。第二の目的は，彼らの入学から卒業までの学習活動を可視化し，入学時の課題と卒業後のキャリアとの関連について考察することである。さらに最終的な目的として，将来の夢を描き，高大の教育実践でさらなる具現化を図り，社会で活躍できる北部の人材育成に資することである。

【方法】

- 1) 高大接続プログラムの全体像を明確に表現し，学群・学部・リベラルアーツ機構，入試課等と連携し，効率的な運用システムを構築する。
- 2) 北部7校出身学生の入学前及び入学後の目標や学習・生活に関する調査を実施する。高大接続勉強会及び入学前特別講座の目的および効果指標を明確にする。入学前特別講座は，受講生の大学での学びのレディネス（目標の明確化，意欲の向上，学習習慣の維持）を促進させるだろうという仮説を立て，講座の振り返りから検証する。
- 3) 基礎学力に困難を抱えた学生にピア・ラーニングを奨励し，北部7校出身学生とその他の学生のピア・ラーニングの活用状況や学習成果等を把握する。

【結果】

- 1) 入学前教育から新入生学力調査，初年次教育，学習センターの活用までの取組を有機的に体系化した「高大接続プログラム2021」を作成した。高大接続事業を本学の年度計画に位置付け，今後の点検・評価までの流れを明確にした。さらに担当組織を明確化し円滑な運営に資する共通理解を図った。
- 2) 高大接続勉強会の目的を明確にし，高校教員に主旨説明を行った。また，学習・生活に関する調査により北部地区7校出身学生の状況を把握し，その報告も行った。さらに入学前特別講座の目的および効果指標を明確にし，講座期間中の学習意欲の向上が把握できた。また，講座への参加の有無と入学後の意欲の関係などについて可視化し，高大接続勉強会で現状報告を行った。
- 3) 基礎学力に課題が見られることを明らかにした。学習センターとの連携を図り，基礎力不足の学生へのピア・ラーニングでの学習支援の結果，教科によって，学ぶ意欲や基礎力の向上が確認できた。一部不参加の学生への働きかけが課題である。

【考察】

「高大接続プログラム 2021」の運用により、入学前教育から入学後の教育の関わりを見える化し、点検・評価までの流れを明確にできたことは評価に値する。大学の課題や改革の趣旨等の情報を地域に積極的に発信し大学の教育目標の共通理解を図ることは、双方にとって有意義であることが、高大接続勉強会後のアンケートからも窺えた。

また、北部地区の高校生を対象とした入学前特別講座は、講座前後の自己評価結果から、①入学後の目標を明確にする、②大学の学びへスムーズに移行できるように準備する、③入学前の準備学習（基礎力養成）を達成することができた、と評価できる。なお、入学後の意欲や学習習慣の維持・向上などが継続できているかということについては、引き続き調査・研究する。

最後に、高等教育機関として、地域の教育文化の向上をリードする本学の果たすべき役割は大きく、本研究から明らかになった地域のよさを共有し、北部地区のこれからの教育の在り方について、共に考え、北部地域の人材育成について継続して研究を行う。また、校種を超えた教員間の連携を継続し、今後の「地域連携プラットフォーム」の推進に役立つ基礎的研究と実践を継続して目指していく。

◆ 2021 年度研究実績報告会資料より

高大接続勉強会・入学前特別講座Ⅰ・Ⅱの活動の様子



図1 2021 年度高大接続勉強会及び入学前特別講座の報告資料より講座の様子を紹介

仮説		結果	2021 年度 入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ	成果の可視化
<p>「入学前特別講座」は、受講生の大学での学びのレディネス（目標の明確化、意欲の向上、学習習慣の維持）を促進するだろう</p>				
◆統計学基礎講座Ⅰ	◆入学前特別講座Ⅱ			
①数学診断テスト	<統計学基礎講座>			
②3 学習センター見学	①診断テスト			
③先輩学生との交流会	②演習 ピア・ラーニング体験			
④大学の授業体験	③確認 達成度テスト			
	<英語 ワークショップ>			
	①すべて英語のみで活動を進める			
	② 同級生との学び合いの交流経験			
	<ライティング>			
	①小論文とレポートの違い			
	②チューターのプレゼンテーション			
		<p>1. 入学後の目標を明確にすること 受講前 受講後</p> <p>① 大学生活での目標を明確にする 3.67⇒ 4.52</p> <p>② 卒業後の目標を明確にする 3.67⇒ 4.52</p> <p>2. 大学の学びへスムーズに移行できるように準備すること</p> <p>③ 高校と大学の違いを明確にする 3.53⇒4.84</p> <p>④ 名桜大学の特色を理解する 3.88 ⇒ 4.75</p> <p>⑤ 自らの学習課題を理解する 3.69 ⇒ 4.61</p> <p>3. 入学前の準備学習（基礎力養成）</p> <p>⑥ 高校までの学習を復習すること 2.92 ⇒ 4.41</p> <p>⑦ 大学で専攻する分野の基礎力を身に付ける 2.94 ⇒ 4.14</p> <p>⑧ 大学で学ぶ意義を理解すること 3.76 ⇒ 4.09</p> <p>⑨ 入学までの間、学習習慣を維持すること 3.12 ⇒ 4.39</p>		

図2 2021 年度研究実績報告会スライドより

10.2 2022（令和4）年度研究実績報告

やんばるとSDGs「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」

高安美智子（Michiko Takayasu） 木村堅一（Kenichi Kimura） 立津慶幸（Yasutomi Tatetsu）

リベラルアーツ機構

国際学群

リベラルアーツ機構

キーワード：高大接続，主体的な学び，入学前特別講座，ピア・ラーニング

【目的】

2年目の研究は前年度の課題を引き継ぎ，次の3つの研究目的を掲げた。

- 1) 「北部出身の学生が，入学時に懸念された学力差をどのように克服し，主体的な学びができるようになり，卒業・就職したか」という4年間の学びの変化を可視化し，卒業後のキャリアとの関連性について考察する。
- 2) 「これからの教育上の連携の在り方として高等学校教員及び大学教員は何を目指し，どのような指導方法を身につけていく必要があるのか。」について検討する。急速に変化する社会におけるカリキュラム・マネジメントの視点から，「思考力」の育成という探求学習の指導方法や北部地区の課題となっている英語教育における教員の指導力向上を目的とした研修会を開催し，双方の教員の授業改善に資する研究とする。
- 3) 学生に対して『高大接続の目標達成度』は『ピア・ラーニングの活用』『探求学習の達成度』『自己学修』『大学満足度』にポジティブな効果をもたらすだろう。」という仮説を明らかにすることを目的として調査・分析を行う。

【方法】

- 1) 2018年度入学生の入学から卒業までのデータ集計により，本学の入学前教育，初年次教育，専門教育における学びの中で，学生がどのような課題を抱え，それをどのように乗り越えてきたかを分析する。
- 2) 高大接続における教育上の課題として「探求学習」と「英語教育」研修を行う。
 - 小・中・高・大学教員，生徒，学生を対象とした研修会を開催
 - 研修1 「やる気に満ちた『やさしい学校・教室』のつくりかた
～『学習する組織』によるしなやかに変化し，進化し続ける学校・教室づくり～」
講師：森 弘達（学校法人大妻学院大妻中学高等学校進路指導部長・探究科主任）
 - 研修2 「探究授業のはじめかた～『探究』を体感してみよう，STEAMって何？～」
「STEAMって何？～STEAMによってイノベーションを起こして未来社会をデザインしよう～」
講師：森 弘達（学校法人大妻学院大妻中学高等学校進路指導部長・探究科主任）
 - 研修3 「小・中・高・大の英語教育にどう取り組むか 英語の学習法」
講師：木村達哉氏（作家，元 灘中学校・高等学校・西大和学園中学校・高等学校教員）
- 3) 1年次対象のアンケート実施
 - 全1年次学生対象に，「『高大接続の目標達成度』は『ピア・ラーニングの活用』『探求学習の達成度』『自己学修』『大学満足度』にポジティブな効果をもたらすだろう。」という仮説を立て，アンケートを実施する。

【結果】

- 1) 2018年度入学生の卒業までの学びの可視化を行い、北部7校出身学生の良い点、配慮すべき点、課題などについて分析を行い、学内での報告を行った。しかし、2018年度入学生のみのデータで結論付けるには資料不足もあり、信ぴょう性を高めるために今後も引き続き調査・研究・分析を行い、詳細な分析結果をまとめることにする。
- 2) 高大接続における教育上の課題として取り組んだ「探求学習」及び「英語教育」研修は、事後アンケート結果から適切な学習の機会が得られたと評価できるが、カリキュラム改善に活かすまでの成果には至っていない。カリキュラム・マネジメントの視点から校種を超えた課題として継続的な研究の必要性を認識している。
- 3) 1年次対象のアンケートについては、回答者数が少ないため確たる実態の分析を深めるには不十分であった。次年度は調査方法を検討し直し、当初の仮設検証を実施する必要がある。

【考察】

今年度実施した「第8回高大接続勉強会」では、本学学生と母校の高校教員との情報交換の場を設定したことは、学生及び高校教員双方にとって貴重な交流と情報交換の場となった。例えば、高校教員からは成長した学生の姿を通して、大学の初年次教育に対する関心が高まった。また、高校における総合的な探求の時間の計画や運用において、大学との連携を考えていきたいという感想が寄せられ、高大接続の実質化につながる取組であったと評価できる。学生からは、「高校と大学のギャップ」という視点から、自らの学びを振り返ることで成果と課題を直視できたこと、表現することができたこと、後輩に伝えたいメッセージ等も発表することができたという達成感が報告された。

「入学前特別講座Ⅰ・入学前特別講座Ⅱ」において、昨年度に引き続き講座の目標を明確にし、自己評価を行い、達成状況が可視化された。また、入学前特別講座Ⅱにおいて、「統計学基礎講座」「英語講座」の効果測定を行い、いずれも基礎力向上だけではなく、学びに対する目標設定や意欲の高揚につながったことが確認できた。

また、3学習センターにおけるピア・ラーニングの実施状況については、コロナ禍の前と後では様相が異なっており、直近の3年間の状況からは、北部7校出身学生の学習センター利用率は、その他の学生と比較して若干高い結果となっているが、詳細な分析は引き続き行う必要がある。

本学のIRのデータは未だ十分把握されておらず、データ収集に時間を要し、入学から卒業までの学びの可視化は2018年度のみ止まっていることから、詳細な分析には至らなかったことが本研究の課題としてあげられる。しかし、今回行った調査資料及び分析データは、これまでできなかった貴重なデータであり、継続して詳細な分析ができれば今後の入学前教育、初年次教育、専門教育にもつなげられる重要なものとなることがわかった。学内で報告した入学から卒業までの学びの可視化から捉えた成果と課題については、今回は学内資料に留め、次年度以降の継続調査及び研究分析を行うこととする。

さらに今回の反省点として、データ収集に困難があったことや高大接続事業の実践をしながら2年間で研究をまとめる十分な時間の確保ができず、次年度以降に調査・分析に関する研究成果の検討を持ち越すことになったことである。

11 まとめ（研究の総括）

「教育に関するやんばると SDG s」の研究において、入学前から卒業までの学生の円滑な学習環境の整備に関する高大接続の視点に立ち、様々な取組を企画・運営し、これまで研究を進めてきた。

中央教育審議会答申にも謳われているように、急速に変化するこれからの社会を生き抜くために必要な力を育成する教育の在り方も大きく変わることが求められてきた。

義務教育段階から大学教育まで、また社会人となったその後も、さらに生涯にわたって学び続ける力が求められている。そのためには、受け身の教育ではなく、自ら課題を見つけ、その解決に向けて探求し、さらにそれを表現する力等を身につけるために、主体的で対話的な深い学びが必要である。

これまでの文部科学省の調査結果等から、高等教育における課題等も浮き彫りにされ、様々な施策も講じられている。その中には高大接続の実質化を図り、学力の3要素を踏まえた指導の充実を図ることも示されており、高大接続の取組が最重要視されているといっても過言ではない。そして、改革の根本は基本的にそれぞれの大学の自主性に任されている。そこで、高等学校から大学への円滑な移行を図り、高校と大学における教育のギャップに学生が適応していけるような手立てを講じることが本学での高大接続事業である。

本研究において 2018 年度入学の全学生の動向調査を実施し、全体と比較しながら北部 7 校出身学生の入学前から卒業までの学業成果や就職状況等の調査・分析を行ってきた。その結果に関する詳細な報告は次回の予定である。また、どのような学生をどのように育成するか、そのために何が課題であり、その改善に向けどのように取り組むかについても検討した。高校と大学のギャップの解消について、先輩の経験から学ぶ機会を入学前に設定した結果、入学後も主体性を持って意欲的に多様な人々と協働して学ぶ姿勢を育むことが可能であることがわかった。受講者のこれまでの感想から、「入学前特別講座Ⅰ」と「入学前特別講座Ⅱ」の高大接続事業は、入学後の有意義な学生生活を送るための貴重な体験であることを実感できたことが本研究の成果だと捉えている。成果と課題について以下のよう

●本研究の成果

- ①本学の高大接続事業の持続可能な組織体制・運営体制を確立することができた。
- ②本学と地域の高等学校の教員、地域出身の学生と連携して高大接続事業を継続的に実施できている。
- ③入学前特別講座におけるピア・ラーニングを体験し楽しく準備学習ができ目標を達成できている。
- ④入学前特別講座を体験した学生が、積極的に後輩へのメッセージを届けて激励している。
- ⑤過去 5 年間の本学における高大接続事業を報告書にまとめることができた。

●本研究の課題

- ①北部県立 7 高等学校の生徒の実態が異なり目標設定の共通理解が難しいという意見が出された。
- ②約 2 年で高等学校の参加教員が交代する状況から継続した議論が難しい。
- ③大学内の事前調整の時間確保が難しく、高等学校と事前調整なしで勉強会を実施している状況。

以上のことから、二つの高大接続事業は、本学の特色であるピア・ラーニングを取り入れることにより、「高校と大学における教育のギャップに適応する」ことに貢献していると言える。それが入学前教育、初年次教育、専門教育等を連関させ、相補的・効果的な取組となり、4年間の学びを充実させているのではないかと推察できる。しかし、本学での学びを途中で断念せざるを得なかった学生に関する調査研究は困難であり、検証は未だ不十分である。したがって、本研究「やんばると SDG s 一名桜大学高大接続とピア・ラーニングプログラム」を継続していくことで総括も持ち越すこととする。

名桜大学 高大接続勉強会

2018（平成 30）年度 第 1 回 名桜大学高大接続勉強会報告書

第 1 回勉強会テーマ「名桜大学の初年次教育からみる教育改革の方向性」

去る 7 月 25 日（水）に名桜大学 SAKURAUM 5 階研修室 B にて、第 1 回高大接続勉強会を開催しました。北部地区の高等学校から 6 名の先生と名桜大学から 7 名の教職員が参加しました。

勉強会の目的は、2020 年度の大学入試改革を控え、高校と大学の相互理解に基づく情報収集及び情報共有を具体的に進め、高大接続の実質化に向けた一体的な教育改革を図ることです。

始めに、本学の初年次教育の中核科目である「教養演習 I」の授業（ポスター発表）を参観し、高校の先生方から率直な感想や意見をいただきました。その後、本学の初年次教育改革に携わってきた木村堅一教授に、大学が目指す教育改革の方向性について紹介してもらいました。引き続き、高大接続とは何か、高大接続の現状や課題等について意見交換を行いました。「高大接続って何をしたらいいの？」という戸惑いの声がありました。それは、送り出す高校と入学を許可した大学が、将来を担う生徒・学生をどのように育てていけばこれからの社会で逞しく生きる力を育むことができるかを模索し、双方が同じ目標に向かって教育カリキュラム改善に繋げるための連携を図ることだという共通認識を持ちました。

最後に、今後の勉強会の進め方について意見交換を行いました。高等学校側からは、大学入試改革について具体的な話し合いが行われることを期待する様子が窺えました。取り分け e-ポートフォリオに関する情報が欲しいという疑問点、要望等が出されました。大学側からは、本学の北部出身学生の入学から卒業までの学びの調査研究の紹介ができれば、高大接続の実質化の大きな一歩になるのではないかと提案も行われました。

第 2 回高大接続勉強会は、本学の入試改革の紹介と、双方の今後の具体的な連携についても意見交換を行う方向で開催することが確認され、閉会となりました。

ご多忙の中、本会にご参加・ご協力をいただきました、高等学校の先生方、本学の関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年度 第 1 回
名桜大学高大接続勉強会
「名桜大学の初年次教育からみる
教育改革の方向性」



写真 1 スカイホールにおける発表会の様子



写真 2 ポスター発表の感想報告の様子



写真 3 教養演習の教材展示

2018（平成 30）年度 第 2 回 名桜大学高大接続勉強会報告書

テーマ「入学前学習プログラムの実施状況及び今後の取組」について

去る 10 月 25 日（水）に名桜大学 SAKURAUM4 階研修室 A にて、第 2 回高大接続勉強会を開催いたしました。北部地区の高等学校から 6 名の先生方と名桜大学から 11 名の教職員が参加いたしました。

今回は、開始前に本学のライティングセンター、言語学習センター、数理学習センターを案内し、各センターのチューターにセンターの役割や活動内容について報告をしてもらいました。勉強会では、第 1 回勉強会を振り返り高大接続改革の現状について確認し、次に本学の学習センターの設置当初の状況から現在に至るまでと各センターの様子や学生達の活動について、木村堅一教授（前リベラルアーツ機構長）に説明をしていただきました。続いて、本題の「名桜大学の入学前学習プログラムの現状と課題」について、これまでの実施状況等の情報提供を行いました。さらに今後の具体的な取組として現在の学習プログラムに加えて「入学前特別講座（数学）」の実施について提案しました。

その後の情報交換会では、高等学校側から入学前学習プログラムの取組状況について、高校側にも情報提供をして欲しいという要望が出されました。高等学校の先生方からのコメントから、高大の相互理解に基づく情報収集及び情報共有は、高大接続の実質化に向けた一体的な教育改革に繋がることを実感しました。

今後も具体的な連携についても意見交換を行う方向で開催することが確認され、閉会となりました。

ご多忙の中、本会にご参加・ご協力をいただきました、高等学校の先生方、本学の関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

★ 高大接続勉強会に参加された高校の先生方のコメント 10/25(水)

- ①入学前の特別講座については、ぜひ開催していただきたいと思います。時間についてはもう少し長くてもいいのではないのでしょうか。
- ②北部枠については、特別枠なので、特別な条件をつけることは必要ではないかと感じています。
- ③新大学入試もスタートするので、今後もこのような勉強会を開催し意見交換会ができればいいと思います。もっと基礎学力を向上させた上で大学進学をさせていきたいと思います。高校三年間で、学力は伸びてきています。
- ④本校の生徒は、基礎的な力が身に付いている生徒が少ないので、大学でも苦労するだろうと感じています。高校では“朝学”の時間を通して、小中学校の学びなおしをしていますが、高校内でも学力差が激しいので、学力上位の生徒たちを伸ばしていけないのが現状で、下位の生徒たちを中心にサポートをしているのが現状です。大学進学を目指す上位層の生徒たちをしっかりと基礎的な力を身につけさせていけるように、高校でもサポートしていく必要があると考えさせられました。
- ⑤頑張ったら達成できたという体験があまりにも少なすぎる社会になっていると感じる。あるいは達成できた生徒とできなかった生徒の二極化が広がっていて、投げやりとはいかなくともそこそこやっていたらいいと・・・。
- ⑥第 3 回があるといろいろな話がより多くできると思います。
- ⑦北部の生徒を育てるためにも協力したいと思います。
- ⑧普通教科の学びが不足しています。入学後の学習についていけるのかこちらとしても不安があります。受験の前から、合格しておわりではなく合格からスタートという意識付けを行ってほしいと思います。



第 2 回高大接続勉強会・情報交換会の様子



写真1 言語学習センター



写真2 ライティングセンター



写真3 数理学習センター

◆勉強会の資料より抜粋

○高大接続とは何か

- ◆大学入試改革も含まれているが、それだけではない。
- ◆①「高等学校教育」、②「大学教育」、③両者を接続する「大学入学者選抜」を、連続した1つの軸として、一体的に改革するもの。
- なぜ「高大接続改革」なのか。なぜ三者一体？
- ◆「高等学校教育」と「入学者選抜(大学入試)」は一緒に変わる必要がある。
 - ・大学入試が変わらないと高校教育が変わらない、
 - ・受験圧力の低下と高校生の学修量の低下、等
- ◆少子化・国際競争の進展の中で、大学教育の質的転換(しっかりと学ぶ大学教育へ)
 - ・大学教育を受けるに足る入学者の選抜、多様な入学者とそれに合わせた教育プログラムの必要性等

「高大接続改革」の必要性

- 国際化、情報化の急速な進展
 - 1 社会構造も急速に、かつ大きく変革。
- 知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。
- 社会で自立に活動していくために必要な「学力の3要素」をバランスよく育むことが必要。

【学力の3要素*】

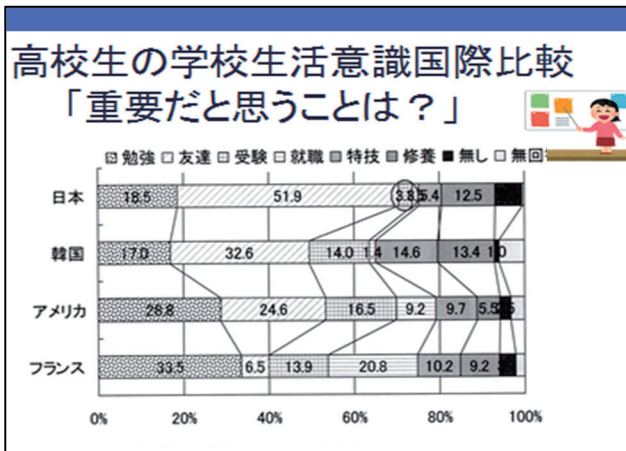
- ① 知識・技能の確実な習得
- ② (①を基にした) 思考力、判断力、表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

大学入学者選抜 (学力の3要素を多面的・総合的に評価する)

高等学校教育 (学力の3要素を育成する)

大学教育 (高校までに習った力を更に向上・発展させ、社会に送り出すための)

高大接続改革 (高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革)



1. 本学のリベラルアーツ機構の中期目標
 - ①基礎学力に困難を抱える学生を対象とした学習支援を行うピアラーニングプログラムを推進する。
 - ②地域のニーズに留意しつつ、高大接続を実質化し、意欲のある多様な学生を受け入れる方法と体制を整備する。

自己推薦・推薦入試合格者対象 「入学前特別講座(数学)」の実施要項

1. 「入学前特別講座(数学)」の目的
 - ①入学前学習の意義や必要性を理解させることで、入学後の主体的な学びに繋げる。
 - ②卒業論文に活用出来る統計学習の準備学習として、統計分野の数学基礎力の向上を図る。
 - ③本学のカリキュラムポリシー*の実現に向けて、数学基礎力に困難を抱える学生を対象としたピアラーニングプログラムの一環として入学前学習を実施する。

*数理的分析能力, ICT 活用力, 現代社会の諸問題を

2. 対象：自己推薦，推薦入試合格者の希望者
3. 実施期間：2019年2月12日～2月15日
時間：14時～16時（1日2時間）
※回数も1～4回の希望制とし，継続希望者にも対応
4. 場所 名桜大学 SAKURAUM4階数理学習センター
5. 講座内容
 - ①「数学基礎力養成講座」
 - ・・・計算基礎力問題及び数的推理問題演習
 - ②「統計基礎力養成講座」
 - ・・・高等学校数学の基礎問題演習

2019年度

第3回 名桜大学高大接続勉強会

「高大接続の実質化に向けて」

日時：2019年12月2日（月）13時30分
 場所：名桜大学SAKURAIUM 4階 研修室A
 主催：名桜大学高大接続ワーキンググループ
 対象：高等学校進路指導担当教諭等・教務担当教諭等・教頭等
 名桜大学高大接続ワーキンググループ関係者・他

第1回勉強会テーマ

「名桜大学の初年次教育からみる教育改革の方向性」

第2回勉強会テーマ

「入学前学習プログラムの実施状況及び今後の取組」

第3回勉強会テーマ

「高大接続の実質化に向けて」



第3回勉強会テーマ

「高大接続の実質化に向けて」

- ◆ 入学前教育から大学教育へ
- ◆ スキルから知の総合へ
- ◆ 社会人として送り出す責任
（就職試験への責任）

大学全入時代
多様化
入試の早期化



「学力の3要素」の確実な
習得とそれによる高校生
の学習意欲の喚起

○ 高大接続改革とは何か

「高等学校教育」・「大学教育」・「大学入学者選抜」を一体的に改革すること。

○ なぜ「高大接続改革」なのか。なぜ三者一体？

- ◆ 「高等学校教育」と「入学者選抜(大学入試)」は一緒に変わる必要がある。
 - ・ 大学入試が変わらないと高校教育が変わらない。
(受験圧力の低下と高校生の学修量の低下、等)
- ◆ 少子化・国際競争の進展の中で、大学教育の質的転換
(しつかりと学ぶ大学教育へ)
 - ・ 大学教育を受けるに足る入学者の選抜、多様な入学者とそれに合わせた教育プログラムの必要性、等

- ・2000年答申「新しい時代における教養教育の在り方について」
- ・学士課程教育は教養教育と専門分野の基礎・基本を重視

【背景】入試の多様化で基礎学力不足が指摘

「大学」は

- ①教育の質を高め、成績評価の厳格化を図り、卒業生の質を保証すること
- ②社会人としての基礎的能力と専門的能力を備えた卒業生を送り出すこと
- ③卒業時における教育の成果を適切に評価し、教育の質を保証すること



2012年の答申 高大接続改革の方向性

- 高等学校として求められる学力を保障して卒業生を送り出すこと
- 大学は自らの入学者受入れ方針に基づき、大学教育を受けけるに足る能力・適性を見極めて入学者を判定することが本来の在り方である。
- 各大学は「リメディアル教育」などを大学の初年次教育に導入してきたが、**高等学校等が残した学習を大学が補う努力には自ずと限界がある。**
- 高等学校等での学習の多様化が進んだ中では「リメディアル教育」が「リメディアル」ではなく「一般教育」化せざるを得ない。

- 「リメディアル教育」は「学習・学修支援」と同義

◆リメディアル教育

1995年「正規の大学の学習についていけない学生達の学力向上のための教育」

2000年「大学入学前に習得していなければならない学習内容を、大学入学前後に学び直す補習・補完教育」

- ◆リメディアル教育は現代の高等教育に不可欠な要素
⇒大学という高等教育機関における新たな学びの提案

2009年「リメディアル教育：補習的な意味合いではなく、卒業までに学生が学業を進めていく上において必要な学習支援とする。入学から卒業までを見据えた学習支援として位置づけた。



2016年 高大接続システム改革会議「最終報告」

身に付けるべき力として特に重視すべきこと

- (1)十分な「知識・技能」
- (2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく「思考力・判断力・表現力」等の能力
- (3)これらの基になる「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

2017年「高大接続の動向について」文部科学省高大接続改革

- 大学として自らの判断で受け入れた学生に対し、その教育に責任を持って取り組むこと、必要に応じて補習・補完教育や初年次教育等の配慮を適切に行っていないかしなければならない。

◎リメディアル教育に向けて、各大学が学習支援環境の整備

高大接続システム改革

- ◆ 大学教育改革 → 2017年度「3つのポリシー」の策定と公表
- ◆ 高等学校は、求められる学力を保障して卒業生を送り出すこと(2019年度実施)
- 「高校生のための学びの基礎診断」
- ◆ 大学入試センター試験 → 「大学入学共通テストの実施」
2021年大学入学共通テストの実施
2017年第1回試行調査 2018年第2回試行調査

★ 高大接続システム改革の具体策がスタート

・3つのポリシーの策定公表(2017年度から)

- ◆ 大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程(略)ごとに、その教育上の目的を踏まえて、次に掲げる方針(略)を定めるものとする。
 1. 卒業の認定に関する方針：学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)
 2. 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
 3. 入学者の受入れに関する方針：入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)



名城大学 全学的な3つのポリシー

アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢をもっていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 入学を希望する学群・学部・学科等の特徴を正しく理解し、その教育課程で学ぶために必要な知識・技能を持っていること。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施)

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合し、グローバルに対応できるコミュニケーション(英語を含む外国語力、母語によるライティング力)、教理的・分析的・批判的思考力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間で育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の實質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組む探索し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力

入試改革

教育改革

測定・評価 (アセスメント)

高等教育改革

大学教育に接続するために、高校教育までに「何を」「どこまで」達成すればいいのかということが明らかにしなければならない。

- ◆ 2019年度から「高校生のための学びの基礎診断」を実施
義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得とそれによる高校生の学習意欲の喚起を図ることが目標である。



高大接続改革の要点「普通教育の再構築」

- ①5教科にわたる「高度な普通教育」達成を目標とする教育課程の改革
- ②知識・技能とともに、思考力・判断力・表現力を中等教育で育む教育課程と教科教育の追求（従来の教育内容の整理も必要）
- ③内発的動機を育む教育環境と制度の確立
（少人数教育、達成度に対応した教育のための教員配置など）
- ④大学への接続に必要な教育内容と達成度を、高校と大学の多様化を視野に入れて明確化
- ⑤適切な評価システムの開発・導入（特にテストで測れない部分の評価）

（進研アド）初年次教育では間に合わない！

初年次教育によって学びの姿勢を転換させようとしても間に合わないことになる。高校の学びから大学の学びへと転換させるには、高校教育と大学教育をつなぐ「高大接続期」、すなわち入試をささむ**入学前の時期の教育が重要**になってくる。

その認識の下、「入学前教育」に取り組む大学は増えている。文部科学省の調査
入学前教育の実施率はAO入試、推薦入試で年々上昇している。高大接続改革の進行に伴って今後さらに拡大すると予想される。

入学前学習プログラムの検討

- 大学は、適切な高大接続を実現する努力を払うべきである。
- 適切な高大接続システムを必要としている。

○学術の変化・変容する中で、「大学の教育と研究」には、高等学校等における普遍的教育と大学における総合的な教養教育・基礎教育が一層必要

○学士課程修了者は狭い専門を越えた教養と知識をもつことが必要
学士課程における幅広い学問と教養の修得が一層必要

○教員養成課程教育の悩み **大学で習わなかった？**
大学入学前に身に付けておくべき知識が大学の出口で問われる

学力の3要素を 多面的・総合的に評価する 大学入学選抜

高等学校教育・大学入学選抜の一体的改革 高大接続改革

学力の3要素を育成して
卒業生を送り出す
高等学校教育

高校までに培った力を
更に向上・発展させ、
社会に送り出すための
大学教育

第3回 名桜大学高大接続勉強会報告書

2020年度の大学入試改革を控え、高大接続の実質化は大学入試改革に加えて、高校と大学の相互理解に基づく一体的な教育改革が求められています。そこで本会では、高校と大学の相互理解の場として、大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けて具体的な方策を共に考えることを目的として、以下の内容で第3回名桜大学高大接続勉強会を開催しました。

場 所：12月2日（月）に名桜大学学生会館 SAKURAUM 4階研修室 A

主 催：名桜大学高大接続ワーキンググループ

参加者：高等学校進路指導担当教諭等・教務担当教諭等・教頭等9名，
名桜大学教職員12名（教務部長，国際学群長，人間健康学部長，リベラルアーツ機構長，
外国語担当代表教員，学生支援・学習支援担当教員，教務入試広報課職員，他）

内 容：《司会：入試・広報課長》

開会のあいさつ 名桜大学教務部長（名桜大学高大接続ワーキンググループ長）から、本勉強会の目的を踏まえ、開会のあいさつが述べられた。その後、参加者一人一人が自己紹介を行った。

①高大接続勉強会の趣旨説明～高大接続改革で求められていること～

高大接続の取組が求められている背景について、文部科学省、高等学校、大学の動向を踏まえ解説された。

今後は北部地区の高等学校と名桜大学との連携協定を締結して高大接続の実質化に向けた具体的な取り組みをしていくことが提案された。

②名桜大学の教育と高大接続の考え方

大学を取り巻く社会状況の変遷、名桜大学における学習支援等の教育実績や実践例、課題等、さらにそれらを踏まえた高大接続の考え方について解説された。特に、名桜大学の単独による教育改革の限界から、北部地区の高校を中心とした高大接続の必要性、北部地区出身者の大学入学後の状況を分析する勉強会の開催について提起された。

③2018年度「名桜大学の入学前学習プログラム」実施報告

2018年度「名桜大学入学前特別講座（数学）」実施報告

2018年度に実施した「名桜大学の入学前学習プログラム」及び「名桜大学入学前特別講座（数学）」のプログラム内容、成果、課題等について報告があった。

◇高大接続に関する意見交換

北部地区高校在校生を対象とする入学前特別講座の診断テストの実施、内容等について提案、調整し、賛同を得た（令和2年1月27日実施）。また、高校側から1日をかけて実施するプログラムを検討いただきたいとの要望を受け、大学の検討課題とした。また、診断テストの結果により、受講生を選定する入学前特別講座（数学、小論文）を開講したいと大学から提案し、賛同を得た。2月12日から開講することを確認した。

④「高校生のための学びの基礎診断」の取組みについて

◇「高校生のための学びの基礎診断」の取組み状況（各参加校）について、各参加校の先生方から、「高校生のための学びの基礎診断」の取組み状況について報告があった。文部科学省、県教育委員会、高校との間に、理解度・実施度に関きがあるという状況が概ね共通する課題であった。

⑤名桜大学からの情報提供

i) 令和 4(2022)年度入学者選抜について(予告)

入試・広報課長から、現時点で発表済である令和 4(2022)年度入学者選抜の予告第 1 報の内容や今後の発表予定について説明があった。

ii) 令和 2(2020)年度自己推薦型試験・推薦入学試験合格者対象入学前教育の実施について入試・広報課長から、2019 年度の入学前教育プログラムを人間健康学部は 12 月から、国際学群は 1 月から実施することについてお知らせし、課題の未提出がでないよう高校側にも協力いただきたいと依頼があった。

iii) 事前の質問事項の回答

2021 年度入試から導入される総合問題の具体的な範囲の早期発表について

→ 早期にお知らせできるように努める。

⑥質疑応答・要望等

・北部枠を維持していくために入学前教育が必要なのか。北部枠の成果が出ないので、北部枠を縮小・廃止するという議論はあるか。

→ そういう議論ではなく、北部枠の廃止も考えていない。名桜大学での活躍を期待しての入学前教育である。

・ウェブ出願の改善依頼（お試し期間の設定、途中での様式変更をしない）

→ ご要望を了解した。

・出願書類のうち実績報告書の改善依頼（該当なしの記入方法、提出の必要性）

→ ご要望を了解した。

・やんばる地域の課題を総合的に理解できる出張講座があると良い

→ 今後の検討課題とする。

・高校の探求学習（人文・社会系）に対するアドバイザーを大学側に依頼できると助かる

→ 今後の検討課題とする。

(閉会)

<所感>

昨年度からスタートした名桜大学高大接続勉強会は、今年第 3 回を迎え、双方の有意義な意見交換の場となりました。公立大学として、北部地区の入学生の入学後の学びへの期待を伝え、学び直しが必要な生徒への支援を行うとともに、地元出身者が名桜大学で活躍することが、北部地域の教育文化の向上に繋がるといことも期待しての高大接続勉強会です。そのことを高等学校の先生方に理解してもらうことが本会のねらいです。会を重ねるたびに、互いの理解不足に気づき、この会の継続的な取り組みの必要性を実感しているところです。さらなる取組の進化を図っていきます。



写真 高大接続勉強会の様子

第 4 回 名桜大学 高大接続勉強会報告書

2020年11月26日に第4回高大接続勉強会を開催いたしました。本勉強会は、高等学校と大学の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることを目的として、平成30年度より毎年開催しております。その内容として、北部地区の高等学校管理職を含めて進路指導及び教務担当教諭と名桜大学関係教職員が連携し、入学前教育の実施や大学の初年次教育、入試改革に関する情報提供等を行ってきました。ただ単に、教員間の交流のみで終わるのではなく、大学入学を控えた高校生の大学体験学習や本学の先輩学生との交流を図ることで、高大接続の実質化をより具体的な取り組みとして実施しているものです。

今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの勉強会となりましたが、新しい入試選抜の在り方やその対応に追われる高等学校からの忌憚のないご意見や要望等が出され充実した勉強会となりました。しかし、時間の関係もあり、直近の課題である入試対策についての意見交換に終わり、高大接続勉強会の本来の趣旨が十分に議論できなかつたという課題も残りました。

次年度に向けて改善を図り、特色ある教育活動のさらなる充実を目指してまいります。

内 容：

1. 全国の高大接続の動向についての報告
 - ①学力の三要素が重要であること、高大接続は、入試改革ではなく教育改革であること
 - ②2025年度までに全大学で数理データサイエンス教育の必修化を目指していること
 - ③大学の大学機関別認証評価では、意欲ある多様な学生を受け入れることが重視されていること
 - ④認証評価では、高校側の意見もヒアリングされたこと等
2. 2020年度新入生学力調査結果の報告（全体と北部地域の学生の比較等）
3. 2020年度の入学前特別講座の計画について紹介・連絡
 - ①入学前特別講座Ⅰの計画について
 - ②入学前特別講座Ⅱ（ライティング・数学・英語）の紹介
4. 今後の入学者選抜についての報告
 - ①R4（2022）年度入学者選抜（予告）
 - ②R3（2021）年度入学予定者に対する入学前学習プログラムについて説明がありました。
 - ③大学HPからの閲覧方法について説明があったこと
 - ④看護学科の変更点について説明があったこと
5. 高等学校における進路指導の取り組み状況について、各参加校から以下の報告を受けました。
 - 受験対策として小論文講座を実施
 - スタディサブリを導入していること。
 - 希望する生徒にはチューター制教員をつけて指導している。
 - 事前提出型小論文・オンライン面接を高校側でサポートした。
 - 面接対策は、国公立希望者には30分の5回トレーニングをしている。
 - 教員もオンライン面接が不慣れなので、これまでの入試は生徒本人に任せた。
 - 学校側のICT環境を強化していること。
 - 情報の先生を中心にICT環境を構築したこと。
 - 事前提出型小論文や入学前学習の対応で大変ではあるが、高校側の努力も必要。
 - 高校生は合格したら終わりという意識があり、これが課題であること。

- 入学前学習は高校2年対象でもよいかもしれないということ。
- 推薦入試の通知表において学力3要素に分けて記述する部分はとても苦労したこと。
- 課題は始動が遅いこと。出願の願書完成がギリギリとなること。
- 一つのテーマで、放課後トークサロンを開催していること。


6. 意見交換

- コロナ禍の入試となり高等学校の対応で大変であったことについて
- 当初は計画になかった三要素の記述には、文科省入学者選抜要項について（通知）にもとづき、調査書の書き方について指導があったこと。（大学）
- 国際学群総合型 オンライン面接がまったく同じ時間で設定されており、通信環境が不具合があると対応できないため、時間をずらしてほしいという要望があったこと。
- その他

配布資料

- ① 発表スライド・入学前学習の日程等
- ② 【最終報(第3報)】令和4(2022)年度名城大学入学者選抜について(予告)
- ③ 令和3(2021)年度総合型・学校推薦型選抜 合格者対象 入学前教育に関するお知らせ (国際学群, 人間健康学部スポーツ健康学科, 看護学科)

<当日の発表資料より紹介>

<p>名城大学 MEIO UNIVERSITY</p> <p>第4回 高大接続勉強会 「生涯に亘って学び続ける力の育成を目指して」</p> <p>1. 進路指導に当たる高校の教員との連携 (1)大学側から入学後の成果・課題・今後の取組の提示 (2)高校側から進路決定までの指導と課題の情報提供 (3)入試に関する情報共有</p> <p>2. 入学前特別講座Ⅰ 高校と大学の接点を増やすことで学習意欲を高める (1)意識改革(先輩と後輩の交流会) ①大学生から現在の目標の必要性 ②高校生から入学後の目標表明 (2)数学基礎力テストの実施</p> 	<p>名城大学 MEIO UNIVERSITY</p> <p>2020年度 入学前特別講座Ⅱ 「ライティング・数学・英語」</p> <p>①ライティング講座 ②数学(主に統計に関する分野)講座 ③e-learningによる英語検定の学習</p> <p>★3学習センターの協働で、学生チューターがサポートしながら「ライティング、数学、英語」の講座を進める。 入学後に課題の多さに戸惑うということがあり、学習習慣を身に付けるという自覚を促すことも目標の一つである。 高等学校からも継続して欲しいという要望が出ている。</p>
<p>名城大学 MEIO UNIVERSITY</p> <p>名城大学の学びのコミュニティー</p> <p>入学前特別講座Ⅰ 「高校・大学における学びの接続」</p> <p>先輩・後輩コミュニティー</p> <p>ピア・ラーニングプログラム</p> <p>ウエルナビ 新入生 支援・加 教養演習</p> <p>LLC 言語学習 センター 英語 外国語</p> <p>MSLC 数理学習 センター 数学 統計学</p> <p>MWC ライティング センター 表現力 論文</p> <p>学生が学生を支援する システム</p>	<p>◆ 高等学校からの要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高大接続勉強会をぜひ毎年開催して、高大の意見交換会を活発にすることがお互いにとって良いことではないかと思います。 ○自己推薦や推薦入試合格者の勉強会は、とても良かったと評価しています。今年も是非継続していただきたいと要望します。生徒もこれに向けて勉強をしたり、意欲的に学習することができて良かったと思っています。 ○小論文講座を今年も是非実施して欲しい。希望者全員を対象にお願いしたい。 ○「北部枠」推薦の継続を希望しますが、個人的には大学入学共通テストを受けずに入学することに、抵抗があります。 ○やはり地元に着着した大学というイメージが強いため、大学の負担はあるかと思いますが、高校では取り組みが限られているので、健康測定会など地域密着型の取り組みを継続して欲しいです。

2021 年 9 月 21 日に、第 5 回 名桜大学高大接続勉強会をマイクロソフト teams を使ってオンラインで開催いたしました。本会は、沖縄県北部地区の高等学校と本学との連携による取組として 4 年目を迎えました。

本会の目的は、高等学校と大学の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることです。

本学からは、副学長、学群長、各学部長等 11 人、高等学校からは 7 校の 8 名の進路指導部主任等が参加し、林優子副学長の司会により会が進められました。

主な内容は、本学から①名桜大学 高大接続プログラムの全体像、②初年次教育（教養演習、ライティング教育、英語教育 他）の取り組み、③入学後のピアラーニングについて説明を行いました。

高等学校からは、「高等学校における中高接続の課題及び高大接続の課題」について、現状報告がありました。

後半では、北部地区出身学生の入学時から入学後の学習成績状況等について、データを元に説明を行いました。続いて、北部地区出身学生を対象として実施した大学の入学前から入学後の学習や学生生活等に関するアンケート結果の中間報告を行いました。

今回の成果は、本学の年間を通した高大接続事業の全体像として高大接続プログラム（案）を提示することができたことです。情報交換の中では、「名桜大学への入学について、高校 3 年生での意識付けでは遅いので、出来れば 1, 2 年生から名桜大学の教育目的・方法について意識付けとして集中的にアプローチした方が良いか、高校現場の意見を伺いたいと思います。昨年度は探究学習、総合的な問題解決型の学習が進んでおり、大学教育の方法等が活用できませんか。」という質問を投げかけました。「大学に進学したいが何をするか分からないという相談があるので、本校としてはニーズとしてあるので検討したいです。」という回答がありました。「北部の高校を対象に実験的な取り組みを進められるか、大学内で検討していきたいと思います。」という話し合いが行われ、今後の検討事項となりました。

下記の事後アンケートから、初年次教育の取組を伝えることができたこと、入学後の学生の様子の一面を伝えることができたことが良かったと思います。一方で、入試に対応する生徒の指導に戸惑っている様子も窺われました。入試に関しては、入試説明会後の意見交換の場が有効活用できるように工夫する必要があると思いました。

高等学校の先生方から「第 5 回名桜大学高大接続勉強会」の感想として以下のようなコメントが寄せられました。

- ① 入学後の生徒の状況を把握および分析して頂き、今後の生徒指導に活かすことができそうです。とても有意義な勉強会になりました。ありがとうございます。
- ② 北部地区学生の学力の現状や、生徒アンケートの分析など、具体的なデータの提示をありがとうございました。特にアンケート結果の資料では、生徒の生の声を知ることができて大変参考になりました。
- ③ 各校の連携の状況や、貴学の講座内容、学生の状況などがわかり、とても有益でした。
- ④ 名桜大学が 1 年生に行っている大学で学ぶ上で必要なことを教える授業に関して、知ることが出来てよかったです。大学生活に関する不安を解消できるだけでなく、より良い大学生活を送ることができるシステムだと感じました。
- ⑤ リモートは発言のタイミングなど難しいと感じました。対面でできると良いですね。
- ⑥ コロナの状況が落ち着いたら、低学年向けの説明会、出前講座、総合的な探求の連携法などについて、色々と情報をいただけましたらありがたいです。よろしくおねがいいたします。
- ⑦ 総合型入試に関して、どのようなプレゼンを大学が望んでいるのか知りたいです。指導する側としては、どのように指導していいかわからず担当する教諭によって合否が決まる気がします。プレゼン指導を担当する教員としてもつらい立場にあります。

第6回 名桜大学高大接続勉強会実施報告書

2021年12月6日(月)に名桜大学学生会館4階研修室にて、今年度2回目となる「第6回 名桜大学高大接続勉強会」を開催いたしました。今回は、対面で行い高校教員7名、本学教員13名が参加し、有意義な勉強会となりました。本会は、第5回勉強会に引き続き、高等学校と大学の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策、特に令和4年度入学予定者に対する入学前特別講座のあり方を共に考えることを目的としました。

入学前特別講座は、本学のリベラルアーツ機構主催で行われます。今回は、小番達リベラルアーツ機構長が司会進行を務め、高大接続の課題を共有し、入学前特別講座への理解と協力を求めました。

内容は、前回に引き続き、「北部地区7校出身学生に対するアンケート結果報告 その2」、「北部地区7校出身学生の入学後の成績・学力調査結果報告 その2」を行い、報告に対する意見交換を行いました。続いて、2022年度入学予定者の入学前特別講座について、「入学前特別講座Ⅰ」(2022年2月14日(月))、「入学前特別講座Ⅱ」(2月15日(火)~17日(木))の予定について説明いたしました。

次に、2021年12月1日から始まる「2022年度入学予定者のeラーニング教育について」の説明がありました。これは、北部地区だけではなく、総合型選抜・学校推薦型選抜等の全合格者対象のeラーニング教育で、規定の点数に達しない学生には入学後も引き続き(2022年11月30日まで)自主学習を課している取り組みであるという説明がありました。

情報交換では、学生の休学、退学の状況や、再入学者の奨学金の復活について等、多岐にわたる質問が出されました。また、留学やワーキングホリデーについても活発な情報交換を行いました。さらに、アンケート結果を通して、入学前から入学後の学びへの高大接続に関する現状や課題について理解を深め、さらなる詳細な分析に期待を寄せる要望もいただきました。

アンケート結果から、入学前特別講座の不参加者ほど、入学後の学生生活にも支障をきたしていることが把握され、入学前特別講座は全員が参加できるような指導を含めて高等学校にも理解を求めました。

意見交換を通して、入学前の目標を堅持し、入学後に主体性を自覚させる方法として、入学後の指導に繋ぐ入学前特別講座の必要性や意義を改めて考え直す良い機会となりました。

事後アンケートの結果(次頁)からは、本会の目的をしっかりと認識し、丁寧に連携の道を探っていきたいというコメントがありました。高大接続勉強会の今後の進め方については、企画の段階から、高校の教員も参加した方が良いという意見も寄せられました。また、卒業生のその後について意見交換が出来るとても有意義な勉強会でしたという感想をいただき、双方にとって有意義な勉強会となりました。



写真 第6回高大接続勉強会の様子

<参加された高等学校の先生方の感想・意見・要望等>

- ①「入学後に特に力を入れて取り組んでいることがない」という9人の生徒の分析で、志望校の決定の遅さとの関連もあると思うが、コロナの影響（家計の困窮化や授業のオンライン化、学校生活における人間関係の希薄化など）との関連はないか？も気になった。
なかなか難しいとは思いますが、追跡調査・分析すると、さらに見える部分もあるかもしれないとも考える。
- ②高大接続の課題として挙げられている「基礎学力の不足」に関して、高校側の認識としては、評定が高い生徒が推薦され、進学している。個人的には、高校での高評価・高評定を取る学習のあり方や獲得されている資質・能力と大学での学習に必要な資質・能力の間に大きな開きがあることに課題がある（結果、生徒自身も学力がないと自己認識する）かとも感じる。その部分で、生徒も大学での学びに混乱しているところや、自分に学力がないと認識する部分もあるのではないかと感じる。そこに、コロナ禍でのオンラインの学習で、友人などとの協同的な学びの部分が増えたことで、さらに混乱が増したのではないかと考える。その部分を埋め、効果的なサポートを行うため、北部学生の実態について大学と北部高校進路担当者が情報を共有して、問題点を意見交換できたことは良かった。
- ③今後の高大接続の効果的なあり方を検討できればと個人的に思った。
- ④学業への取組状況やアルバイトの実態、除籍退学などの状況が分かって、高校での進路指導の参考になります。学生の実態が把握できたので良かったと思います。
- ⑤設置主体である北部12市町村の高等学校と連携を深める点では良かったと考える。
- ⑥具体的な大学での生徒の学習や生活実態をデータをもとに、大まかに把握することができたのでよかった。
- ⑦高校生に対して、大学生活で大学生が持つ問題点や課題点を話すポイントとなるデータとなる。
- ⑧大学進学を希望している生徒へ、今回の情報を還元して、大学生として求められている力をしっかり身につけるように指導していくことができる点が良かったです。
- ⑨客観的なデータをもとに分析されている部分と観察や意見交換からの主観的な分析が入り混じっていて、どの部分をもとに生徒の実態を「客観的に把握するか」の部分で混乱が生じた。
- ⑩休学者の情報や留学・ワーキングホリデーへの参加状況を教えてください。
- ⑪低学力の学生への具体的なアプローチの方法の説明があれば良かったと思います。
- ⑫中々、北部地域の高等学校教員との交流がないので、大学に来てもらえることはありがたいと感じる。
- ⑬大学での学ぶ意義に関して、（その弱さを補うために）、高大連携しながら、出前授業などを活用して、1学年時から意識づけて行けたらと考えた。
- ⑭大学における探求的な学びのスタイルに関して、高校の探求の時間との関連からも、大学側と連携していける側面があれば助かります。探求のテーマの設定・データや文献の当たり方や収集の方法、まとめ方や引用の方法など・・・。
- ⑮確かに、アルバイトの方に力点が置かれてしまって学業が疎かになるのはいけないと思います。それが、「学校生活や授業についていけないことからの逃げ」によるものであれば、丁寧に話をし、サポート体制を整えながら、本人のアルバイトの日数や時間などと学業との両立について厳しく諭す必要があると思います。
その部分での客観的なデータがあれば、高校側の進路指導として、大学進学前に強く注意喚起することができます。他方で、その他の要因がないかも高大で連携しながら探ることができれば（丁寧に探る必要があるかと個人的には思います）、（高大連携した）より効果的な指導ができるかと思っています。
- ⑯この高大連携の目的である、人材育成を目的とした「高校教育と大学教育の相互理解」に基づく「一体的な教育改革」を進めるを、再度、しっかり認識し、そこに立ち返って勉強会ができればと考える。特に「相互理解」、「一体的」なを重視して、丁寧に連携の道を探っていきたい。
- ⑰北部12市町村の観点からすると、恩納村出身の学生も対象に入れてはどうだろうか。

報告 2022年1月13日（金）

2022年8月16日(月)に名桜大学環太平洋地域文化研究所研修室において、リベラルアーツ機構主催の第7回名桜大学高大接続勉強会を開催いたしました。本会の目的は、北部の人材育成をめざして高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について、高等学校と大学が意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることです。今回は、「名桜大学高大接続勉強会の目指すもの」をテーマに情報交換を行いました。参加者は、本学から、副学長、学群長、学部長、リベラルアーツ機構長、入試広報課長等11人、高等学校からは5校から5人の進路指導部主任等、計16人でした。

佐久本功達リベラルアーツ機構長の進行により、まず「名桜大学高大接続勉強会の趣旨説明」を行い、続いて「2018年度入学生の卒業までの4年間の学び」について、本学からの情報提供後意見交換を行いました。

2018年度入学生の北部出身学生とその他の学生との比較において、「①休学、退学、留年の割合は、北部地区が若干高いもののほとんど差はないこと。②入学時の基礎学力は有意に低い結果であったこと。③4年間の成績(GPA)の比較は、ほぼ同じであったこと。④就職率の差はなかったこと。⑤卒業率は若干低かったものの有意差はなかったこと。」等が明らかになったという報告でした。

入学時の基礎力不足が心配されましたが、4年間の学びの結果は、進級や成績、就職率においても大きな差はないことが明らかになりました。そのことについて本学教員からは、入学後は県内・県外の多様な学習履歴や生活環境も異なる学生間の学び合いを通して、良い刺激を受け努力してきたと推察できるのではないかという意見が出されました。4年間で卒業できた学生たちの諦めず努力をした結果だといえると思います。しかし、高等学校からは、卒業後の進路に関して早期離職の実態把握も含めて企業と連携し、詳細な追跡調査を希望するという意見が出されました。

今回始めて実施した本調査は、入学時から卒業までの教育の成果が可視化された貴重な調査であり、継続して実施することや、今回の調査結果において進級及び卒業ができなかった学生のその後の休学・退学等の理由も含めた進退状況及び就職先の分析も行う必要があると考えています。

◆データの結果から議論していきたい3つの論点

論点1：入学者選抜は成功しているか？

- ・北部地域7校に限ると高大接続は成功しているだろうか。
例えば「推薦入試(北部枠)」入学者(48名)の学科別の状況をみると次の通りとなった。
学科別に異なる入学者選抜の課題もあるのだろうか？

論点2：高校教育は大学教育の成果に影響しないのか？

- ・当初、入学時の学力は、入学後の学習や卒業時の進路にも影響すると予想した。しかし、入学時の基礎学力は、休学・退学、成績、進路決定と明確に関連しなかった。なぜだろうか。

論点3：その他

- ・北部地域の学生の学修成果や進路状況を評価するにあたって、データはこれで十分だろうか。
学生たちは新しい社会(例、少子高齢化、Society 5.0)に対応できる学力を身に付けられただろうか。

今回は2018年度入学生の卒業までのデータを収集・分析いたしました。各部署にある休学、退学等の学籍情報や学習成績、進路先情報など多岐にわたる資料の収集と接合に時間を要しましたが、様々な視点から分析が可能となる基調なデータとなりました。本学の高大接続研究会では、送り出した生徒の4年間の学びを高校側と共有する必要があると考え、それらのデータを提示しましたが、その内容を理解するまでには時間を要したため、残念ながら今回は上記に掲げた論点に沿っての議論は十分にはできませんでした。結果についての詳細な分析はこれからですが、本学の今後の教育改革に繋がる要点を見つけることができるのではないかと考えているところです。

最後に、2021年度に実施された入学前特別講座の結果について報告を行いました。受講生にとって、「高校までの学習を復習すること」「大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること」「入学までの間、学習習慣を維持すること」

は、難しい目標であり、かつ評価が難しいとされていました。しかし、2021年度実施した入学前特別講座の自己評価において設定したすべての目標が、講座開始時より講座終了時の評価が有意に高く、4日間の講座の教育効果が顕著であったことを紹介しました。そのため、今後も入学前特別講座を継続して実施することを報告いたしました。

第8回高大接続勉強会は、11月28日（月）の実施予定です。

<事後アンケートから>

1. 今後も継続して提供してほしい情報

- 入学から卒業までの在籍状況（休学、退学、除籍等）、卒業時の就職状況、新入生学力調査の結果
- ワーキングホリデーや留学等に関する情報、その他

2. 今後の勉強会の進め方について

- 参加者の「勉強会の目的(何をしたいのか)」を明確にした方が有意義な時間になると考えます。また、語句の定義(例えば「学力とは・・・を意味します」みたいな共有認識)も最初で共有できたら議論が建設的になると考えます。

3. 学習指導や進路指導で困っていることや負担に感じていること

- 課題もあろうが、しっかりとサポートいただき育てて頂いていることに感謝しています。生徒が進路活動でしっかり頑張っていることが、丁寧に評価されているなら、生徒の成長にもつながるし、負担感を感じません。

4. 今回の勉強会についてのご意見・感想等をお書きください。

- 今後は、視点を拡大し、大学が育てたい人材像と高校側でそのために身につけておきたい資質や能力、体験などを洗い出し、それを大学と高校が連携・協同して育むための取り組みについてアイデアを出して、例えば北部市町村の行政も巻き込みながらの実践を構想できたら、大学の存在意義がさらに高まり、高校との連携、地域創生、小中の学力問題解消にもアプローチできないでしょうか？

5. 大学へのご意見・要望等がございましたらお書きください。

- ①今後、推薦枠を広げるのかどうかの意向、②多様な背景を持った生徒を受け入れる入試制度
- ③観点別評価の取り扱い、④総合問題および共通テストを課す推薦入試導入の影響
- ⑤名桜大学付属中学校の設置は可能ですか、
- ⑥高大接続と中高連携は、意味合いが違いますか？

ある地区の中高連携では、高校の先生が地域の中学校の授業を教えたり参観したりして、高校での授業における生徒のつまづきを発見し高校の授業で活かしていました。高校までの勉強と大学の勉強（学問）は違いますが、従来のような出前講座ではなく、大学の先生が実際に高校の教科書を使って高校生に高校で授業を行い、高校生の現実を考えてもらう（把握してもらう）という意味では、効果がありそうな気がします。それを持ち帰ることで、大学での講義の方法・内容に参考になるんじゃないのかな？・・と考えます（本当の意味での高大接続だと思います）。



第7回名桜大学高大接続勉強会の様子 2022.08.16

第8回名桜大学高大接続勉強会

学生代表体験発表



「大学生活での学びと目標」

人間スポーツ健康学科
2年次 上妻 琉花

私は本学のスポーツ健康学科で、養護教諭の教員免許の取得と現役での採用試験合格をする事を目標として入学しました。

私が養護教諭になりたいと思ったきっかけは、高校生の時に短期留学をした際に、交流先の高校で体調を崩し、スクールナースの方にお世話になったことです。初めての海外で心身ともに疲れと不安でいっぱいの中で、私にもわかる単語で優しく接していただき、安心して休むことが出来たことから私も人に安心感を与えられる養護教諭になりたいと思うようになりました。

本学のスポーツ健康学科で、健康分野だけでなくスポーツに関する知識・技能も身につけることでより現場に役立つ力を身につけることができると考え、志望しました。

大学での教職科目や専門科目といった講義を受ける中で、教員という仕事の責任の重さ、大変さ、教育現場で起きている問題など、今までは知らなかった教員の現実的な部分を知ることになりました。しかし、大変な面だけではなく、子どもの成長に関わる事が出来る喜びや楽しさなどのやりがいについても知ることが出来ました。

高校生の時よりも教員という職業について深く学んでいく中で、これまでお世話になってきた先生方への尊敬の気持ちとともに養護教諭になりたいという思いも強くなりました。

現在は、安心出来る・頼れる養護教諭となれるよう、同じ目標を持った友人と共に切磋琢磨しながら日々学習に励んでいます。

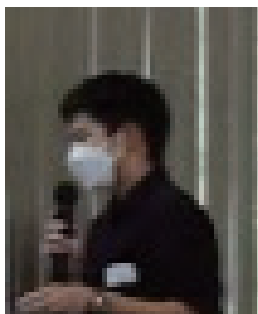
これまで受講した講義では、入学前に考えていた通り、健康分野だけでなく、スポーツに関する講義も受講し、実際に自分自身が経験したり、テーピングの仕方を学んだりすることが出来ました。また、学外の活動では前期の間北部農林高校の生徒への英語塾の講師を勤めました。自分自身の英語力向上とともに授業を通して実際に生徒との交流をはかることができ、本学の建学の精神である国際教養人になるための良い経験となりました。

スポーツ健康学科では、体育教師や養護教諭になるという目標を持った仲間と共に学ぶことができ、その目標達成の為に知識や技術を教え、貴重な経験をする機会を与えてくださる先生方がいます。

自分の進路のために努力するのは自分自身であり、様々なことに真剣に取り組むこと、支援して下さる方・機関を頼ること、目標を持って行動することが必要だと考えています。

次年度からはゼミでの活動を通して実際の学校現場を知り、専門科目での講義を通して必要な知識・技能を身につけ、卒業後即戦力として働くことの出来るように学んでいきたいと考えています。

学生代表体験発表



「目標」を持つことの大切さ

国際学群 国際文化専攻
4年次 上間 瑞樹

自己紹介

私は、名桜大学国際学群国際文化専攻の上間瑞樹です。本部町出身で中学まで本部町で過ごした後に、北山高校理数科に入学し、駅伝部に所属しながら高校生活を送っていました。名桜大学には、AO入試を通して入学しています。

名桜大学に進学したいと思ったわけ

私が高校3年生に進級する前の経験になるのですが、北山高校が姉妹校提携を結んでいるアメリカ・ジョージア州ミルトン高校へ渡航したことが名桜大学に進学しようと思った大きなきっかけです。短期間でありましたが、実際にアメリカの地に足を踏み入れたことで、もっと英語力を向上させたい、そして国籍を問わず、様々な人と交流を持ち、自己の見識を広げていきたいと強く思うようになりました。この経験を機に、幅広い学びの中で教養のある人材になり、将来、学んだことを活かしながら地元貢献したいという意志も持つようになりました。これらのことがきっかけで私は名桜大学に進学しようと思いました。

この経験をするまでの私は、あまり自分自身の将来についてあまり考えず、ただただ日々の高校生活を送っていました。そのため、何かを経験して、何かを感じるきっかけは、ものすごく大事だということを今になって実感しています。そのきっかけを経て、達成したい・成し遂げたいことが実現し、今のモチベーションの維持・向上にも繋がっています。

大学生活での経験

私は、学内で学んでいることに対して、さらに理解を深めることができよう先生や学生との積極的なコミュニケーションをとりながら追求しています。また、英語力向上や地元の観光業に関する知識の理解力向上に向けて、学外においても自ら積極的に交流を持ちながら学んでいます。

大学生活の中で、計画通りにいかなかった経験もあります。私は、入学した当初から留学することも視野に入れていたため、大学在学時に留学をすべく、1年間の休学を選択しました。しかし、コロナの影響により、渡航を断念せざるおえませんでした。この経験で私自身、大学生活において初めて目標を見失いかけて、モチベーションが低下しました。しかし、すぐには復学せず、留学で得られたであろう英語力や異文化への理解をどのようにすれば、深められるか模索しながら、限られた環境で主体的に学びました。

休学中に行っていた勉強方法について

私が意識していたこと

- 1日の中で30分でも生きた英語に毎日触れること。
- ミスをして気にせず、実際に使い続けること。

まず、私が主に活用したのは「YouTube」です。

- ネイティブが日常的に使う英語表現や、ある英単語の使い方について、日本人の帰国子女や、日本語が話せる外国人の動画を見て、Wordにまとめました。
- また、ディクテーションができるようなチャンネルを活用して、聞いたことを書いたり、口に出して話してみたり実践しました。
- その中で、日々の英語の勉強を継続させるためにストレスを感じずに英語に触れることと、モチベーションの維持を兼ねて、英語圏に留学している日本人の方のVlog形式の動画や、アメリカ人youtuberの動画を見ていました。
- 動画を通して、英語に慣れてくると、次はネイティブスピーカーがアップしている英語学習に関する動画を見て学びました。

次は、hello talkというアプリの活用です。

Hello talkは何か簡潔に述べると、無料で言語交換できるアプリで、例えば、日本語を学びたい外国人と、英語を学びたい日本人が互いに学習している言語を学び合いながらチャットあるいは電話を通して交流ができるというアプリです。

- まず、自主学習の中で分からないことや、気になる単語や表現を実際に英語でチャットを通して理解を深めました。
- また、日本にいて英語を聞く・書く・読むことはできても、なかなか会話をする機会はないものです。そのため、時々電話機能も使ってスピーキングの練習や、発音の改善にも努めました。
- 加えて、英語のライティングを添削してもらい、正しい英語の使い方なども教わりました。
- このアプリを活用する中で、文化の違いや国民性などのトピックをもとに会話したことで英語のみならず、間接的に異文化理解に努めました。

参考書は、リーディング練習ができる教材と単語帳を活用しました。

- リーディングは、文字を早く読む力と発音強化に繋がると考え、実践しました。
- また、単語は、1番土台になる部分になるので、高校で活用していたデータベース4500を活用していました。意識していたことは、1つの単語を覚えようと時間かけるのではなく、何度も繰り返し、繰り返しスラスラ読みながら頭に詰め込みました。
 - Because I have dreams, I have been able to study various things continuously toward my goals. After graduating from the university, I will continue to learn and experience many things to improve myself. Then, in the near future, I would like to contribute to my hometown. What I want to say is, it is meaningful to have dreams. And if you have dreams now, you should follow them. Even if you hit a wall, don't give up and keep going.

- (私は目標を持っているから、その目標に向かって様々なことを継続的に学ぶことができています。大学卒業後も自身の成長のために、多くのことを学び、経験していきます。そして近い将来、地元へ貢献したいと思います。私が言いたいことは、目標を持つことは重要だということです。そして、もし今目標を持っているなら、たとえ壁にぶつかってもあきらめずに追いかけて続けるべきです。)

このように大学生活での様々な経験の中で、主体的・継続的に学ぶことが出来たのは、目標や目的を持っていたからではないかと感じています。実際に、自分自身がやりたいことを明確な目標として設定することで、それを達成するために何が必要か、何に取り組むべきかなど、その過程が見えてくると思います。また、目標を実現させる過程の中で、高い壁に当たることもあるかと思っています。その際、モチベーションの維持と、それらを乗り越える強い意志も必要だと感じています。

高校の先生方へ

自分自身の目標を達成するためには全ては自分次第ということもあるかとは思いますが、「その目標に向かって取り組んでいる生徒」「これから取り組もうとしている生徒」あるいは「まだ目標を見つけれない生徒」に対して、十分なサポートも必要だと思います。実際に私も、高校・大学生活を営んできたうえで先生方のサポートというのは心強いものがあり、常に支えられてきました。そのおかげで、私自身も今、自分のやりたいことに向かって取り組むことができています。先生方のお力添えも彼らのこれからの大きな財産に繋がると思います。したがって、先生方の前線的な協力が必要だと強く感じております。日々の業務に追われて忙しいとは思いますが、様々な学びを通して高校生の豊かな人間性を育むためにも、授業面以外での先生方のお力添えもどうか、よろしくお願いいたします。

高校生に伝えたいこと

本日は、高校生はいらっしゃらないですが、私が高校生に伝えたいことは「やらない後悔より、やって失敗」ということです。何かに向かって取り組むうえで、成功だけでなく、失敗することも多くあると思います。しかし、何を経験するにしても、あることに対して、限られた力、限られた環境で懸命に取り組んだ過程というのは間違いなく、今後の彼らの豊かな人間性を形成するうえで貴重な経験になると思います。そのため、私は高校生に対して何か些細なきっかけから、自分自身のやりたいことを見つけ、過程を大事にしながら、全力で励んでほしいということを1番に伝えたいです。生徒自身が「この高校だから成長できた」「この先生方の支えのおかげで乗り越えられた」「地元がここでよかった」と将来どこかで実感し、何らかの形で郷土愛をもって地元へ還元することができれば、この上ないことだと思います。先ほども申し上げましたが、その実現のためには先生方の存在も彼らにとって大きなものなると思います。ご清聴ありがとうございました。



卒業生代表

「後輩に伝えたいこと」

名桜大学 言語学習センター職員
2021年3月 卒業 石川若葉

今年名桜大学国際学群語学教育専攻を卒業しました、石川若葉です。私は名護高校フロンティア科1期生を卒業して名桜大学に入学しました。

高校生の頃は、フロンティア科だったこともあり、周りの仲間と切磋琢磨しながら、また高校の先生方にサポートしてもらいながら勉強に励みました。私の夢は小学校の先生になって、子どもたちに勉強の楽しさを教えることですが、その夢を決めたのも、高校で勉強の「分かる」楽しさを知ったこと、そして、今では私の恩師である高校の担任の先生との関わりの中で「こんな先生になりたい」という思いからでした。今思えば、高校生の出来事が私の中の大きなターニングポイントだったと思います。

大学は地元の沖縄が良いという思いと、留学がしたいという思いから名桜大学に決め、名桜大学で取得できる中高英語の教職課程も取得しました。他にも、長期休暇を利用して留学をしたり、将来は教員になりたいと決めていたので、塾講師や家庭教師のアルバイトをしたり、北部の小中学校に行き英語学習支援をしたりしながら教えることの経験を積みました。

学生時代で大変だったことは学業とアルバイトの両立でしたが、アルバイトがほとんど教育関連だったので、アルバイトの経験が教職にも活かせましたし、反対に教職で得た知識をアルバイトでも活かせたと思うので良かったです。勉強面でも、履修した授業数は多い方だったと思いますが、教師になるという夢があったので、常にそれを意識しながら授業を受けることができたのと、高校生の時に培ってきた勉強の習慣のおかげで、大学は最優秀卒業生として卒業することができました。現在は名桜大学で働き大学の先生方と関わりながら、小学校教諭の資格取得に向けて、常に夢と目標を意識しながら勉強の習慣を崩さないように頑張っています。

私の経験から後輩の皆さんに伝えたいことは、自分の興味あることや好きなことを大事にしてほしいこと、まだそれが見つからない人がいたら、色んなことにチャレンジして、経験を通して自分の目標を決めてほしいなということです。

私も、子どもが好きで教えるのが好きということから今の夢が決まったし、夢が決まれば目標ができて、目標が出来たらそれに向かってコツコツ努力して、私もまだ夢を達成できていませんが、今やっている積み重ねが何かしら自分の将来に繋がるんじゃないかなと思います。

大した話は出来ませんが、皆さんのことを陰ながら応援してます。ご清聴ありがとうございました。

2022（令和4）年度 第8回 名桜大学高大接続勉強会報告書

去る11月28日、第8回 名桜大学高大接続勉強会を、「大学生と考える高校と大学のギャップ」をテーマに、名桜大学学生会館 SAKURAU6 階スカイホール A で開催いたしました。今回は、高校別グループでの情報交換を行い、大学生活全般における率直な意見交換の成果を、高校での進路指導に活かすとともに、本学学生への新たな気づきを促し、さらなる実りある学びに繋がられるよう高大接続の実質化に向けた試みとして実施されました。

今回は、北部7校出身の学生26名、高等学校教員12名、大学教職員15名の合計53名が参加しました。学生達は、この企画に強い関心を寄せて参加を承諾しただけではなく、母校の先生方に会えることを楽しみにしていることや同じ学生同士の先輩や後輩との情報交換を通して、共に学び成長したい、ととても楽しみにしている様子でした。

卒業生の石川若葉さん（現、言語学習センター職員）が司会進行を務め、佐久本功達リベラルアーツ機構長の挨拶に始まり、次に今年度の高大接続事業の報告等がありました。メインプログラムの情報交換会では、最初に各グループで、①高校と大学のギャップについて、②大学生活で苦しかったこと、③大学生活で嬉しかったこと、④大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも併せて）について、高校の先生方も学生も熱気あふれる会話が繰り広げられました。引き続き、各グループで話し合われたことを隣のグループ同士で共有するという発表の時間が設けられ、それぞれの報告があり、さらに情報は深まりました。



ブレインストーミングの共有

隣のグループと情報をシェア

卒業生代表体験発表

次に、代表者として国際学群2年次の上妻琉花さん、国際学群4年次の上間瑞樹さん、卒業生代表の石川若葉さんに、それぞれの体験談を報告してもらいました。大学生活での主体的な努力の姿勢が表れた3名の発表は、示唆に富む貴重な体験発表であり、参加している学生にも大いに刺激を与えてくれました。

学生達から、入学時の苦労話や自分なりに努力したこと、学生生活で頑張っている様子などを聞くことができ、実り多い学生生活を送っていることを知ることができ、本学の教育の成果が感じられる誇らしい発表会となりました。また、高校の先生方からは教え子たちの成長した姿に感動したことや、大学での指導に興味・関心が寄せられたこと、さらに今日の情報交換の成果を高校生に直接伝えたいという感想が聞かれました。この意見は、是非次年度につなげていきたいと考えています。今回は新たな企画で、学生達の素晴らしい体験発表で有意義な会となりました。

最後に、山城智史リベラルアーツ副機構長から閉会の挨拶があり、高大接続勉強会には、学生の姿も必要ですと、述べられ賛同する拍手があり、本会の主役を担った学生への大きな拍手に包まれ盛会のうちに幕を閉じました。



高大接続勉強会の各学校別グループでの情報交換会の様子

第8回高大接続勉強会のアンケート結果（教員の回答）

1. 学生の活動報告及び情報交換の中で、特に印象深かったこと

- ・学生のリアルな声が聞けたこと。自ら動かないと何も成せない、きちんと理解していたこと。
- ・大学での学びで、受動的に学ぶのではなく、自分の考えをまとめることがなかなか難しく、高校生活の課題であったことを聞き、とくにアウトプットを意識して、今まで以上に取り組んで行かねばと思いました。
- ・大学生になって、とても成長を感じました。苦しいこともありながら、がんばっていることを学生から感じることができました。
- ・発表内容にさることながら、卒業生が自分の考えを持って、成長している姿が見られたこと
- ・閉会の山城先生の言葉にもありましたが、高大連携の勉強会には、学生の姿も必要だと、私も思いました。
 - ・高校生から大学生になった彼らの言葉の中に、この勉強会の答えがあるように思えました。
- ・それぞれの学生さんが主体的に参加してくれて、大学での学びを通してとても成長した姿を見せてもらいありがたかったです。
- ・「大学生活で苦しかったこと」について話を聞いている中で、本校（本部高校）生徒の課題が浮き彫りになりました。
語彙力、表現力、読解力、主体性…。
- ・進学した生徒の状況が分かって良かった。また、勉学へのサポート態勢もしっかりされていると知り安心しました。
- ・大学生の学びに向かう姿勢がとても素晴らしい。逞しく成長した姿を見れて感動しました。

2. 今回の高大接続勉強会のテーマ「大学生と考える高校と大学のギャップ」について

- ・高校と大学は、主体性に大きな違いがあることに改めて気づきました。
- ・やはり、このギャップは経験しないと感ぜないものであるが、こうした大学生の生の声に触れる機会を高校生も早い段階で経験したら、大きな変化が期待できないだろうか、と考えた。
- ・大学の授業が能動的なものというのが印象的でした。高校も生徒の活動を促すような能動的なものに変容させていかなければいけないと思いました。
- ・継続して情報交換したい。と思いました。大変良いテーマだったと思います。
- ・自由をどのように活かすか。それが共通していたと思います。
- ・我々教員も元は学生だったという事もあり、身近なテーマでディスカッションしやすかったです。
- ・現役大学生が、何について現在学んでいるのかなど「大学での学び」に関する説明や紹介があったほうが、意見交換がスムーズに行かかと思いました。
- ・やはり、主体的に計画的に行動しないといけない。
- ・大きな違いは、主体的、計画的に取り組まなければ大学の授業にはついて行くことができない。更に授業そのものが成り立たない点。

3. 今回の勉強会の持ち方について

- ・学生がいることで、リアルな現状を知ることができるのでとても良い。皆様お忙しく、時間が限られてくるので厳しいかと思いますが、教員のための接続会も必要だと感じた。
- ・新鮮でよかった。今回の学習会では、学生目線の大学生活を垣間見ることができました。
 - ・先生が同席してくださっていたので、気軽に質問することができよかったです。
 - ・次回も大学の先生が同席してほしいです。
- ・全体的に良かったと思いました。ホームページなどで情報公開できれば、各高校への報告もやりやすいかと思います。
- ・とても良かった。現役高校生も各校2～3名参加できると、高校生にとっては貴重な経験になると考える。
- ・大変良かったです。学生もいて、はじめて高大連携が検討できると感じました。
- ・出身高校ごとのグループ分けをしてくれたので、共通の話題もあり話しやすくてよかったです。
- ・初めて参加しました。良い交流になりました。久しぶりに卒業生にも会って、話を聞くことができ良かったです。
- ・生徒がきてくれたので、状況を直接きけて良かった。ただ、情報交換会の記入は高校の先生はあまり書けなかったです。
- ・とても良い企画だと思いますが、高校生と大学生との学習会の方が更に効果的だと思います。

4. 今後の高大接続勉強会で取り上げて欲しいテーマや開催方法について

- ・お互いの乗り入れなどを含めて、人材育成面でどう協力できるか？
- ・このような場であれば、高校生も同席させたいです。
- ・大学生がどのような存在かを伝える機会に、なると考えます。
- ・専門しぼりの勉強会などあると良いかと思いました。沖縄にある語学を専攻している学科しぼりなど。
- ・開催方法については上記 3 に同じ
- ・今後も、学生はいた方がいいように思えます。
- ・高校生で身につけるべきキャリアについては、ぜひ大学の先生方や学生からもっと深く聞いてみたいです。
- ・卒業生による母校訪問、高校生との交流について
- ・生徒を高校によんで、後輩に直接メッセージを伝えてほしい。
- ・また、大学生が高校生に教えてくれるとか、交流などが持てたら良いなと思います。
- ・現高校一年生の大学入試について。

第 8 回高大接続勉強会のアンケート結果（学生の回答）

1. 学生の活動報告及び情報交換について

- ・多くの意見があって勉強になった。色々、情報交換することができた。事前学習の重要性。
- ・事前学習が当たり前、課題が多いため計画性が重要であるなどの意見が出た。
- ・入学前特別講座は経験上とても良いものだと感じた。
- ・先輩方の話を聞いて、就活に向けてのガクチカやインターンなどを行っているがあり、まだまだ自分は未熟だと思った
- ・残りの 2 年間でどういう目標を持って行動していくかを考えるいい機会になった。
- ・高校の先生方と報告しあうことで、高校と大学の違いについて改めて考えることができたと思います。また、高校生のときに自分自身がどのようなことを考えていたのか、何をしたかったのかといった初心に帰ることができたと感じました。
- ・あまりこのような機会がないので、今回の機会にこのような経験ができて良かったです。
- ・高校の先生とこのような話をするのではないので面白かったです。
- ・色々な学生が大学生生活の中で行動を起こして自分も感化された。
- ・高校の先生方に卒業生として成長した部分を見せることが出来た。
- ・情報交換をする中で、今の高校生に何が足りないのか、何が必要かなど、具体的に討論することが出来た。
- ・このような、勉強会があると私個人的には、高校生のため、先生のため、学生のため全てに意味があると感じるのでとてもいい機会だと思います。また、誘って欲しいし、高校生にも伝えたい！です。
- ・自分が感じていたこと以外の気づきを得ることが出来た。
- ・また、今までの振り返りや改善点などについて学びを深めることが出来た。
- ・高校と大学はまったく違うものなので、情報を提供出来て良かったなと思いました。また、高校の先生方の不安や心配事が多くあり質問がありました。その応答として、しっかり答えられたのではないかと思います。
- ・高校を卒業してから、あまり関わるのが無かったため、関わることでとてもよかった。今回話したことが母校の生徒達にいい影響を与えると良いなと感じた。
- ・自分達の高校と他の高校との違いが分かったといのとどんな考えをしているのか分かった。
- ・学生が話し合いを通して自身が必要な事柄を話し、また理解していると感じた。また、話し合いや勉強会を通して課題点などが見つかっていると感じた。
- ・高校と大学の学校生活を振り返る良い機会になった。他の高校との情報交換をすることで、自分達のグループでは無かった情報や、新たな気づき、発見が得られた。
- ・大学と高校での違いや学びがどうなっていたかグループや先生方の意見を交換して、様々な視点からの意見が出てきて、たくさんの気づきがあった。

・同じ学校を卒業した仲間でも、大学生活で感じたことがそれぞれ違ってとても有意義でした。それでも、ギャップや苦しかったこと、嬉しかったことなど似通った部分もあり、今日のような勉強会の大切さを学びました。

2. 大学生活で嬉しかったことについて

- ・自分の大学生活を振り返ることができてよかった。
- ・自分で時間割を作ることができる。
- ・高校の時よりも校則などが無いので自由にできる。高校の時より、広く人間関係を築くことができる。
- ・レポート課題が多い
- ・友達ができたことという意見が多かった。
- ・長期休みとか自由時間が多いことが嬉しいという意見はみんな同じなんだなと思った。
- ・地元だけでなく、県外の友人ができたこと。
- ・自分のやりたい科目を取る事ができること。
- ・自由な時間が増えたため、自分のやりたい事や興味のあることに時間を使えるようになった。夏休みが長い。
- ・学費が免除されたことや、自由な時間が増えたことでさす
- ・テストや実習の終わりは最高に嬉しい。実習で、実際に患者さんと関わって、学びが活かしているのが嬉しい。
- ・他県の人と交流できること。高校生までは関わることが無かった、県外出身者の友人が多くできたことが嬉しかった
- ・先生方に認められ、学長に名前を覚えてもらったこと。
- ・コミュニティが広がったという点です。今回の勉強会も含めて、大学生活で様々な方々と交流を持つことで自己の見識を広げることが出来ました。
- ・自分の時間が作れるようになったことや人と関わる機会が高校と比べて増えたこと
- ・実習で色々学ぶことが出来た。
- ・実技試験に合格したこと 友達と勉強会をしたこと
- ・検定を受かったことが嬉しかったとか大学で色々学ぶことができるということが挙げられていた。
- ・最も多かった意見としては自由度が高いということだった。やはり自身で講義の時間を決めたり、遊んだらバイトしたりなど、半分社会人のような生活を送ることができるため、自由度が高いことが最も多くなったと考える。
- ・「コミュニティの場が広がる」こと。学内、学外問わず様々な人とのコミュニケーションが取れる。先輩との関係を築くことで、大学生活における有力な情報が得られる。
- ・大学生は、自分で時間割を決められて自由な時間が多いこと。
- ・言語学習の際に分からないことや質問が出てきたら、学習センターに行って理解を深めることができること。
- ・夏休みが長くてやりたいことが沢山出来るとこ
- ・友人が増えたこと(県外・海外) 試験や課題の達成感が大きい
- ・大学は夏休みが長いことや空きコマがあるため自由な時間が多い。そのため、好きなことをたくさんすることができる。グラウンドも人工芝で高校の頃に一緒にサッカーしていた大学の先輩と一緒にサッカーできたことが嬉しかった。

3. 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージ等）

- ・パソコンに慣れておく、タイピングをする。臨機応変に行動する必要がある。
- ・計画性を持って行動する習慣を身につける
- ・語彙力、積極製、計画性を身につけておくべきだという意見が出た。
- ・大学に入るからにはしっかりと目標を明確にすることが必要。常に目標を持って行動することが大学生活では必要。
- ・具体的な目標を持って行動することがなにより大切だと思った。大学に入ってからも、これをやっておけば良かったと思わないようにやりたいと思ったこと興味のあることには積極的に行動しておくべきだと思う。
- ・大学で何が学びたいのか、やりたいのかといった目標を明確にしておくこと。
- ・大学がゴールではなく、学び続ける姿勢を持ち続けること。
- ・自分のやりたい事や目標を作ってほしい。

- ・自由な時間が多い分、その時間をどう有効活用するかで周りとの差ができる。
- ・自分と向き合うことが大切だと感じた
- ・読んで理解する力が大切。自分の考えをまとめて発言する力。学び続けること。
- ・なにか物事を起こす機会を見つけ、意欲的に行動することが大学生活をより良いものにする秘訣だと思うため、意欲と行動力が大事。
- ・なにか小さなことでもいいので、目標を持って取り組むこと。
- ・「やらないで後悔より、やって失敗」の方がこれからの自己形成に大きな意味をなすと思うので、取り組んで欲しい！
- ・受け身だけでなく、物事に疑問を持つ癖をつけることで、自分の強みを深めていくことが出来るので、主体性を持って自分の意見を持てるように頑張ってください。
- ・北農は検定料が返ってくるので、取れる検定は取っておいた方がいい。また、計画性や勉強ぐせをつけることが必要である。
- ・勉強の癖をつけることが必要、自分の意見を持つことが必要
- ・勉強する習慣や最後まで物事をやり抜く、検定を取るなどが挙げられていた。
- ・必要なことからは、多いが話し合いの中では、自身で機会を見つけ、それを逃さずに意欲的に行動することが大事、との意見が出た。個人的な意見としては物事を論理的に理解し、それを説明できるようになることが必要だと考えている。
- ・日々の勉強の習慣、母校での経験や繋がりを大切に
- ・「夢を持つこと！」やりたいこと、興味あること、積極的に取り組んで欲しい。
- ・時間管理が大切。提出期限を守ることや朝早い講義もあるので、自分で考えて管理していかないといけないから。
- ・機会を逃さないことが大切。質問はたくさんして、自分のためになる行動を起こせば大学での成長に繋がると思う。
- ・事前学習しておくことが必要、自主性、積極性をつけておく
- ・主体的に動く力や学び続ける力が必要だと考える。高校の時に進学先が決定しても大学でしたいことなど目標を立てることや検定に向けての勉強や英語の勉強をすることで後々大学生活でより多くの知識を身につけることができると思う。そのため空いてる時間に少しでも勉強したほうが良いと思う。

4. その他、高校や大学への要望等

- ・この会を高校生との交流にした方が良いと感じた。大学生の話聞く機会が欲しかった。
- ・高校生の前で発表の方が効果的だと感じた。大学側への要望は、紙の資料も配ってほしいです。
- ・大学生と話す機会が欲しかった。高校の時は、大学受験の支援が手厚かったからありがたかった。
- ・高校教員と名桜学生ではなく、高校生と名桜学生のこのような交流を行った方が有意義だと考えます。理由としては、高校の自身を振り返ると、教員の言うことより、年齢の近い大学生から話を直接伺うことができるからです。また、人間、直前にならないと焦らないと思います。オープンキャンパスでは大学の様子を紹介するいい機会だと思います。今回のようにディスカッションを行えるブースを設けた方が良くと思います。
- ・高校生と大学生が交流するのも良さそうです。大学生が多いと圧に押されると思うので、高校生数人に大学生 1 人の割合で取り組むのもいいかもしれません。私自身も高校生のこれからのために取り組んでみたくなりました。
- ・ポートフォリオなどを活用してスケジュール管理ができるようにサポートして欲しいです。
- ・名護商工への要望というか提案ですが、大学は課題が多いです。商工は課題が少ないと感じている為、習慣づけるためにも課題を課すべきかと感じます。量的には少量でもいいので、課題を課すといいと考えます。
また、大学は板書、などほとんどしません。高校は板書することも多いと思いますが、ある意味時間の無駄だと考えます。理解するための講義ですので資料を配布し、生徒が授業を理解できるようにすると知識向上だけでなく思考力向上にもつながると考えます。
- ・今日の勉強会は、先生方と学生で話すことで多くの気付きや学びがあったので、交流が大切だと思いました。
- ・大学生、高校生が関わる機会が増えると高校生も大学のイメージが付きやすいと思いました。

2022年度 第8回 名桜大学高大接続勉強会報告書②（高校別報告）

【北部農林高等学校】

報告 リベラルアーツ機構 笠村淳子

参加者：北部農林高校教員 3名・本学生 3名・L 機構教員 1名（計 5名）

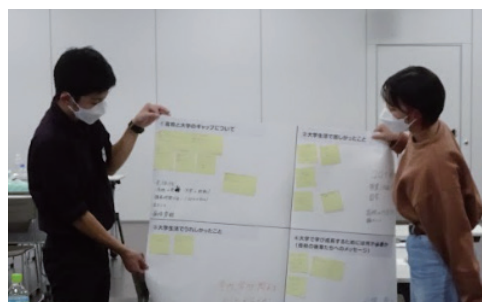
本学生からは、各学科および学群から各 1名の学生が代表で入っていた。それぞれの目標やカリキュラムの違いもありながらも、大学生として感じていることはほぼ一致していた。久しぶりの母校の先生との会話がはずみ、「主体性」「計画」「その他」「先生方の心配事」の 4つのカテゴリに意見をまとめ、発表した。



以下に、話し合った 4つの項目をまとめる。

① 高校と大学のギャップについて
<p>主体性：大学では履修登録を始め、高校と違い自分で決定して物事を主体的に行うことが期待される。</p> <p>計画：計画の立て方は高校と同じだが、（大学で成功するために）効率的な計画を立てて課題をこなし、毎月定期的に計画を見直すことが必要である。</p> <p>その他：高校との大きな違いは、定期的に教員との面談がある（スポ健）ことやレポートおよび論文提出の際は引用文献が必要である、との意見があがった。</p> <p>母校の先生方の心配事：授業時間の延長（50分→90分）や授業スタイルの違い、勉強する内容の多さや主体性が求められる大学で、しっかり主体的に学んでいるかなどの質問があがった。</p>
② 大学生活で苦しかったこと
<p>ここでは、高校との違いによる苦勞が挙がっている。「課題が多い」「レポートの参考文献探しが大変だった」「ゼミでの活動時間調整」「教養演習での連携」など、自主的に動かなければ目的を達成できない事に苦勞したことが見える。</p>
③ 大学生活でうれしかったこと
<p>実習の多いスポ健の学生は「実習を通して学べた」こと、看護科の学生は「実技のテストで合格した」こと、すなわち苦勞しても目標を達成できたことに喜びを感じていることがわかる。国際学群の学生は高校と違い、「自分のやりたい授業を取れること」とし、大学教育（高等教育）を受ける者として専門性を高める科目が取れることに喜びを感じていることがあげられた。</p>
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージ）
<p>後輩たちに伝えたい事を「意識」「勉強」「検定」の 3つのカテゴリに分けて発表していた。</p> <p>意識：「自主性が必要」「計画的に行動すること」「自分の意見を持てるようにしていた方が良い」「嫌なことでも最後までやりぬくこと」と、現役大学生（先輩）として頼もしいアドバイスが挙がっている。</p> <p>勉強：「勉強グセをつける（予習）」ことや「生物・化学は高校の授業でやらないところもやるべき（看護）」など、高校のうちから準備できることについてアドバイスがあげられた。</p> <p>検定：高校では検定受験料の免除もあるので、取れる検定（ここでは特に漢検）を取得しておいた方がよい。検定は取れなくても、英語は勉強しておいた方がよい、という意見があがった。</p> <p>まとめ：母校の先生方は心配ごとについての質問が多かったが、学生たちの適切な回答と成長している姿をとても喜んでいただいていた様子であった。今回のプログラムは、高大接続の大きな一歩となったと感じる。</p>

国際学群 4 年次と看護学科 1 年次の 2 名の学生と母校の教員 2 名の話し合いの場に参加させてもらった。2 名の教員が学生達の高校時代をよく知っているということもあり、教員からの積極的な質問も交えながら、会話が弾んでいた。学生たちは、「主体的に学ぶ姿勢や目標を持って計画的に行動することの大切さ」等を伝えるとともに、大学での体験で得た内容の濃い貴重な学びを、教員を通して母校の後輩にも伝えたいという厚い思いが感じられた。それが自信となって表れており、教え子たちの驚くほどに成長した姿に感動し、満足した高校の先生方の様子が印象的であった。



以下に、その内容を紹介する。

1. 高校と大学のギャップについて

高校と大学の違いとして、「主体性・講義時間が長い・自分の教室がない・空きコマがある・履修登録等」が出された。その中でも二人の学生が特に強調したことは、「主体性」でした。「高校では与えられた教科に受け身で学ぶスタイルが主であるが、大学では関心のある授業を主体的に受ける。授業に向かう姿勢が重要で、講義等の理解度の向上のためには、授業内・外で主体的に学習する姿勢が必要である。そのためには、空きコマを活用した計画的な学習活動でレポート作成などをやり遂げることである。大学では自分でスケジュールの工夫や管理ができるかどうかという主体的な態度の有無でその成果に大きな差がつく。その際、与えられたことをただやって終わるのではなく、自分で考え、自ら工夫し、与えられた以上のことを実行できることが大事である。高校の授業では板書による学習が多いが、大学の授業では、学生同士のディスカッションにより様々な考え方を学ぶことができ、さらに先生の説明を聞いて新たに思考の範囲を広げることができるので学びがより深まる。

2. 大学で苦しかったこと

コロナの影響で留学に行けなくてモチベーションが下がったことが苦しかった。しかし、そこから自分の目標を諦めず、独学でいろいろな工夫とチャレンジをして英語の勉強に打ち込むことができ、自信に繋がった。(学群 4 年次)
高校と大学とはレベルが違うので、最初は勉強が苦しかった。対面とオンラインの授業があり、授業では、Google クラウドや Teams 等、いろいろ多様すぎてついていけなかった。大学の講義は、高校の内容よりも深く難しい。実習活動のレポート課題が多いので、バイトと課題の両立がきつかった。(看護学科の 1 年次)

3. 大学生生活で嬉しかったこと

嬉しかったことは、給付奨学金があること。学内外問わずコミュニティが広がったこと。県外や那覇など、いろんな人と交流できること、ゼミ、サークル、バイト等、学部以外の人とも関わることでコミュニティが広がった。

4. 大学で学び成長するために必要なこと、母校の後輩たちへのメッセージ

- ・やらないよりやって失敗しても、粘り強くチャレンジすることが大事
- ・書くことは大学での学びの基礎となる。苦手なところを高校でやっておいた方がいい。
- ・チャンスを逃さないこと、身近にあるチャンスを掴むこと。

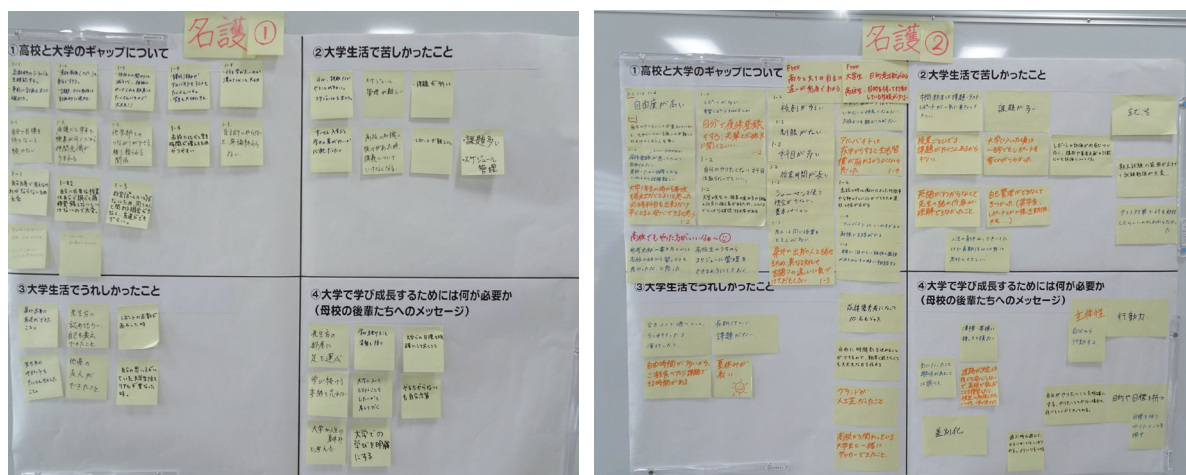
参加者としての感想

「同年代の先輩からのメッセージが高校生には深く響くと思う。是非この思いを高校生に届けたい。勉強も一生懸命している大学生はキラキラ輝いている。」という言葉が印象的であった。学生たちの大学での学びの達成感と自信だと受け止めた。高校教員からは、成長した学生の意欲的な態度から、主体的な学びに導いた大学の「教養演習」に関心を示してくれた。高校での「総合的な探究の学習」の参考にしたいということを知ることができ、今回の高大接続勉強会の大きな収穫であると捉えている。

下の写真にあるように、ポストイットを活用した意見収集の手法を用い、下表にまとめたように多くの意見が寄せられた。表のコメントからもわかるように、「受動的な学び」である高校までの教育に対し、「主体的に学ぶ」大学の教育に慣れずに苦労したといったコメントが多く寄せられたのが印象に残った。これらは、今後の高大接続のヒントになると感じた。また、参加いただいた高校の先生方からは

- ・大学と高校の講義形式なども異なるので、コメントやファシリテーションが難しい
- ・入試前の3年生、担任などが一緒に参加できるとモチベーション向上につながる

などの貴重な意見をいただいた。高校の先生方に円滑なファシリテーションを心がけていただいたおかげで、意見交換が滞りなく実施された。次年度も継続して行うことで、質の高い高大接続の可能性を感じる会となった。



表：高校と大学生活に関する意見収集の時間で寄せられた内容(抜粋)

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	思っていたよりも時間がなく、自主的に行動する必要がある。
	授業の受け方（履修登録，準備学習，学期末試験，レポート・論文）	課題が多く，基礎的な内容を理解していないと授業についていくことが難しいと感じる。参考文献等の記載方法は大学になって苦労したので，高校時から教えてもらえると助かる。
	先生や友人	距離が近いので，質問しやすい。
	課外活動やアルバイト	高校に比べ，自分で時間割編成ができるので，アルバイトや課外活動にも取り組みやすい。その一方，自己管理が難しい。
	進路の決め方	目的意識が必要で，半年に一回ある指導教員の先生と面談時に相談することがある。
② 大学生活で苦しかったこと		試験範囲が広すぎる上，課題も多いので時間の確保が大変である。
③ 大学生活でうれしかったこと		県外からの友人と知り合う機会に恵まれていること。
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも）		主体性と行動力を大事にし，他の人と同じことをしないオリジナリティーを大切にしたい。

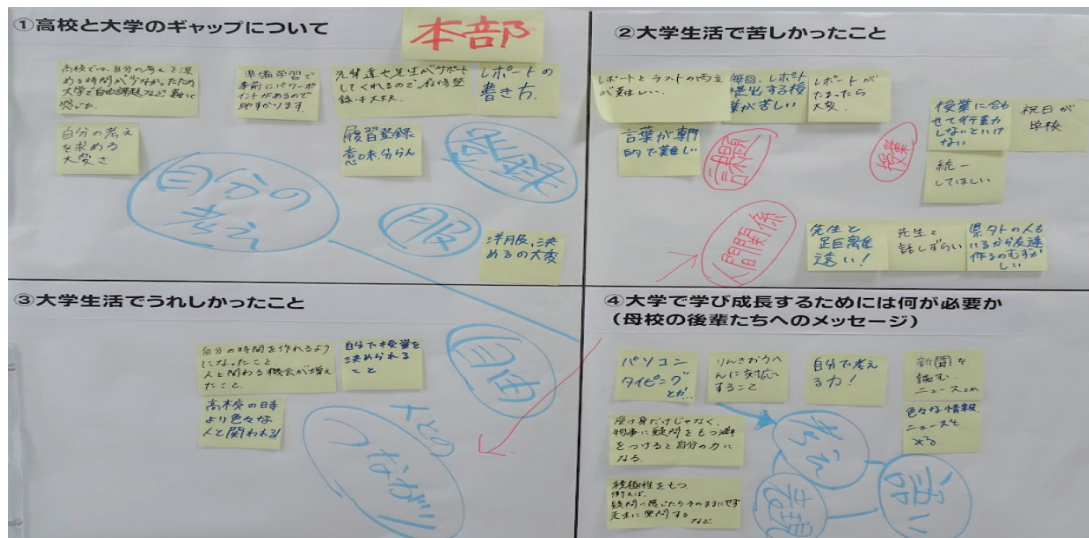
① 高校と大学のギャップについて	
学習の目標や計画の立て方	<ul style="list-style-type: none"> ・高校では教員側が提案していたが、大学では自分でスケジューリングしなければならない（課題、テスト等） ・自由度 ・高校ではクラス内でも学力に差があるため、能動的と受動的に動く差がある。
授業の受け方（履修登録、準備学習、学期末試験、レポート・論文）	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では準備学習が必須（科目による）
先生や友人	<ul style="list-style-type: none"> ・高校では先生との距離が近い。色々
② 大学生活で苦しかったこと	③ 大学生活でうれしかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・中間・期末試験 ・レポート作成 ・学力の差（勉強に対する習慣、基礎力が違う） ・統計学（看護） ・いろんな価値観の同級生がいて、その人たちに合わせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことで集まれるコミュニティ（部活）がある。 ・夏休みが長くて、期間中は課題がなかった。休みを謳歌した。 ・県外の人、いろんな人、知らない世界と触れる ・先輩・後輩の縦の繋がりがあがる ・世界が広がる
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも）	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成の基礎 ・日頃からの勉強習慣 ・高校で身につけた経験も、大学でいかせるので、自信を持って欲しい。高校での時間を大切にしてほしい。 ・放課後講座をしっかり受けておいたほうがいい。



【本部高等学校】

報告 リバラルアーツ機構 玉城本生

今回の高大接続勉強会の特徴は、名桜大学生と出身高校の先生方との交流する場面があり率直な意見交換ができたことが挙げられる。学生がもつ入学前後の本学に対するイメージや実体験を通じた感覚や認識の相違や変容を高校の先生方と共有できる有意義な機会となった。以下に挙げる内容に見られるように、現役学生から本学における学修環境に関する生の声を共有することで、特に高校側における今後の本学への進学を希望する学生への支援の方針に対して多くの指針が得られたように見えた。また本勉強会に参加した学生にとってもこれまで親身になって支援してもらった恩師に会う機会を得て、一つの成果報告会の雰囲気もあり充実した時間になり得たようにも窺えた。今回の勉強会のように「学生」、「高校」、「大学」の双方向で情報共有する機会を定期的を持つことで、高大の接続はより密接になっていく可能性を感じた。名桜大学とやんばる地域との連携をより親密で強固なものにし、地域から支持される大学を目指す上でこの機会は一つ重要な役割を担う可能性を感じた。



表：高校と大学生活に関する意見収集の時間で寄せられた内容(抜粋)

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	課題とレポートの両立が難しい。
	授業の受け方（履修登録，準備学習，学期末試験，レポート・論文）	毎回の講義でレポート提出が求められる。履修登録のシステムが把握できず戸惑った。レポート課題で題材を自由選択する際に困難を感じる。講義で習得した知識を基に発表する機会がある。
	先生や友人	教員に話しかけづらい。本土出身学生との交流に積極的になれない。
	課外活動やアルバイト	高校に比べ、自分で時間割編成ができるので、アルバイトや課外活動にも取り組みやすい。その一方、自己管理が難しい。
	進路の決め方	目的意識が必要で、半年に一回ある指導教員の先生と面談時に相談することがある。
② 大学生活で苦しかったこと		本土出身学生との関わりに積極的になれない。活用するツール (Universal passport, Teams, Goodle) は教員によって違う。
③ 大学生活でうれしかったこと		自分で授業が組める。自分でスケジュール管理ができるようになった。色々な人と関わりをも照るようになった。
④ 大学で学び成長するためには何が必要か (母校の後輩たちへのメッセージ)		新聞を読む。語彙力をつける。表現力をつける。能動的に課題解決に取り組む姿勢。パソコンのタイピング能力。自分で考える。


【宜野座高等学校】

報告 リベラルアーツ機構長 佐久本 功達

2022年11月22日(月)に第8回名桜大学高大接続勉強会が開催された。今回は「大学生と考える高校と大学のギャップ」を大テーマに、北部地区の県立高校7校出身の学生26名、高等学校教員12名、大学教職員15名の合計53名が参加し、高校別グループでの情報交換(ディスカッション)を行った。本報告書は、宜野座高等学校のグループについて報告する。

本グループは宜野座高等学校からの教員1人、学生4人(男子1人、女子3人)の計5人で情報交換を行った。本勉強会は、高等学校毎のグループに分かれたディスカッションではあったが、総合司会がタイムキーパー役を務め小テーマごとに時間を区切って進化した。ディスカッションは各自が付箋紙に意見を記述し、付箋紙に貼り付けてポスターを作成し発表する形式で行われた。以下の表に、本グループで作成したポスターの内容をまとめる。

表1. 宜野座高等学校で作成したポスター内容のまとめ

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	・目標を先に決めて、それを達成できるように履修登録をする
	授業の受け方(履修登録, 準備学習, 学期末試験, レポート・論文)	・事前学習があたり前 ・課題が多いため計画性が重要 ・教科書じゃなくて、配布資料が多い
	先生や友人	・先生に質問する際は、意図を明確にする必要がある。 ・大学では、友達と一緒に計画して勉強することが多い。
	課外活動やアルバイト	・夏休み・春休みが長い ・授業と課題活動とバイトの両立が難しいけど、友人関係や関わりが充実する
	進路の決め方	・所属学部での学びから進路を決めていく。 ・授業で学んだことから興味ある分野に進む ・合説での出会い ・看護を学ぶ上で、自分が看護師になれるか、あうか、なやむ人が多い。
② 大学生生活で苦しかったこと	・レポート課題が多い	
③ 大学生生活でうれしかったこと	・友達が増える ・試験や課題の達成感	
④ 大学で学び成長するためには何が必要か(母校の後輩たちへのメッセージ)	・語彙力 ・積極性 ・計画性	

本グループは、教員のファシリテイトが徹し、付箋紙への書き込みは行わなかった。教員が問い掛けをしてこれに学生が応え、これがヒントになり学生が付箋紙に書き込むというサイクルで各小テーマのディスカッションが進行した。教員も学生も話をしながら和気あいあいとしていた。最初の小テーマ「①高校と大学のギャップについて」での議論での意見が比較的多く出たようであった。最後のポスター作製では教員が立ち上がり、模造紙へ付箋紙を貼り付けるサポートを行った。名護高等学校①のグループと交互に報告をおこなった。

学外からの教員であったためか、例えば、ハイブリッド授業やオンライン授業における不満など、学生たちは教員に素直に語っていた。また、表1には記載はないが、教員からの実験や研究に関する問い掛けに対して、学生が応えている場面もあった。さらに、どの小テーマであったか、学生から論文を読んで暗記して勉強しているとの発言があり、これが印象に残った。

本勉強会は、各グループの議論を観察するだけでも多くの気づきを得ることができた。そのため、本取り組みは本学教員に対するFD研修にもなるのではないかと考えた。

2022年11月22日(月)に第8回名桜大学高大接続勉強会が開催された。今回は「大学生と考える高校と大学のギャップ」を大テーマに、北部地区の県立高校7校出身の学生26名、高等学校教員12名、大学教職員15名の合計53名が参加し、高校別グループでの情報交換（ディスカッション）を行った。本報告書は、名護商工高等学校のグループについて報告する。

名護商工高等学校から教員が出席できなかったため、急遽、本学の教員で旧名護商業高等学校出身の島康貴准教授に出席して貰った。教員1人、学生3人（男子1人、女子2人）の計4人で情報交換を行った。本勉強会は、高等学校毎のグループに分かれたディスカッションではあったが、総合司会がタイムキーパー役を務め小テーマごとに時間を区切って進行した。ディスカッションは各自が付箋紙に意見を記述し、付箋紙に貼り付けてポスターを作成し発表する形式で行われた。以下の表に、本グループで作成したポスターの内容をまとめる。

表1. 名護商工高等学校で作成したポスター内容のまとめ

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に決められる ・計画性が求められる
	授業の受け方（履修登録，準備学習，学期末試験，レポート・論文）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や予習が多い ・コマが長い
② 大学生生活で苦しかったこと		<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理 ・バイトと学業の両立 ・課題が多い。レポートなど。 ・バイトと学業の両立 ・行動をおこす人，おこさない人で差ができる
③ 大学生生活でうれしかったこと		<ul style="list-style-type: none"> ・自由度がある ・友人同士の助け合い ・学習センターで自由に勉強 ・他県との交流
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも）		<ul style="list-style-type: none"> ・課題をこなすくせをつける ・報連相が大事 ・興味がある分野を持つ ・当期繰越 ・機会を自分で見つけて意欲も持って行動する！



本グループは、「次のテーマに進んでもよいですか」との質問が出るほど、各小テーマでの議論が比較的円滑に進んだ。ディスカッション中に笑い声もよく起こった。このため、極めて積極的かつ円滑なディスカッションが行われたと考える。最初の小テーマ「①高校と大学のギャップについて」では、意見が少なかったように思えたが、「探究・研究」と「進路の決め方」以外は他の小テーマでディスカッションが行われたようであった。最終的なまとめでは4つの小テーマを4人がそれぞれ担当し学生主導でポスターを作成し、北部農林高等学校のグループと交互に報告をおこなった。

今回本グループに参加した教員は本学に所属する教員でピンチヒッターとしての参加であったが、これはさらに進んだ高大連携の形を示した事例になるかもしれないと感じた。

入学前特別講座

◆ 2018（平成30）年度 入学前特別講座（数学）の報告資料

<h2>2018(平成30)年度第1回 名桜大学 入学前特別講座(数学)</h2>	<h3>「入学前特別講座(数学)」の目的</h3> <p>★大学生活を有意義に送るための入学までの準備をする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学のカリキュラムポリシー*の実現に向けて *教育課程の編成・実施方針 数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。 2. 数学基礎力に困難を抱える学生を対象としたピアラーニングプログラムの一環として入学前学習を実施する。 3. 大学の学習を理解するため学びの基礎力*を身に付ける。 学習意欲、学習習慣、得手を伸ばし苦手を克服 *学びに向かう力、集中して授業を聞く力、自ら学習する力
<p>日 時：2019年2月12日（月）～15日（金） 場 所：名桜大学SAKURAUM 6階 スカイホールA 3階大講義室A・B 主 催：名桜大学 対 象：名桜大学自己推薦・推薦入試合格者</p> <p style="text-align: center;">名桜大学数理学習センター主催</p>	

<h3><講座内容></h3> <ol style="list-style-type: none"> ①「数学基礎力養成講座」 …計算基礎力問題及び数的推理問題演習 ②「統計基礎力養成講座」 …高等学校数学の基礎問題演習 ③「数学検定対策講座」 …数学検定(2級または準1級)対策 ④「看護のための計算トレーニング」 	<h3><講座の日程> 一日目 2月12日(火)</h3> <p>14:00～14:10 全体会 趣旨説明(高安) 14:10～14:15 木村先生: 激励のメッセージ及びウェルナビの紹介 14:15～14:55 アイスブレイキング(担当: ウェルナビ) 15:10～15:40 診断テスト(25分)及び自己採点(5分) 15:40～16:00 各グループでテストの振り返りを行う。 グループで一日目の振り返りを行い、各自振り返りカードに記入する。アンケート用紙を記入し提出 クラス変更希望の確認</p> <p>※ 一日で終了する生徒には、問題を配布 ・引き続き勉強会を希望する生徒は、その場に残りチューターと一緒に、診断テストの見直しや入学前学習プログラムに取り組む。</p>
--	---

<h3>二日目 13日(水)</h3> <p>14:00～14:10 グループ編成 14:10～14:40 前半 基礎力計算 14:50～15:40 後半 数学活用 15:40～16:00 各グループで二日目の振り返りを行い、各自振り返りカードに記入する。 アンケート記入</p> <p>※ 二日で終了する生徒には、問題を配布 引き続き勉強会を希望する生徒は、その場に残りチューターと一緒に、診断テストの見直しや入学前学習プログラムに取り組む。</p>	<h3>★14日(木)・15日(金)の日程変更の確認</h3> <p>★ 14日(木)の日程 13:00～13:10 グループ編成 13:10～13:40 前半 基礎力計算 13:50～14:40 後半 数学活用 14:40～15:00 各グループで振り返りを行い、各自振り返りカードに記入する。</p> <p>★ 15日(金)の日程 13:00～13:10 グループ編成 13:10～13:40 前半 基礎力計算 13:50～14:30 後半 数学活用 14:40～15:00 各グループで振り返りを行い、各自振り返りカードに記入する。</p>
--	---

学生会館SAKURAUM

<p>外国語力</p>  <p>言語学習センター</p>	<p>数理的能力</p>  <p>数理学習センター</p>
<p>書く力</p>  <p>ライティングセンター</p>	 <p>ウェルナビ</p>

4Fは、協働の場。 新入生支援、言語・数理・ライティングの学習支援の拠点となる。

名桜大学の学習支援



名桜大学学生会館
SAKURAUM 4F

リベラルアーツ機構
数理学習センター

◆ 入学前特別講座（数学）高校別参加者数

表 1 対象者数・参加者数・参加延べ日数

		自己推薦	推薦入試	対象者数	参加者数	参加延べ日数	平均
1	A高等学校	0	6	6	6	20	3.3
2	B高等学校	1	22	23	22	72	3.3
3	C高等学校	0	1	1	1	2	2.0
4	D高等学校	0	3	3	1	4	4.0
5	E高等学校	0	1	1	1	1	1.0
6	F高等学校	0	1	1	0	0	0
7	G高等学校	1	0	1	0	0	0
北部地区 合計		2	34	36	31	99	3.2
北部地区外 合計		21	98	119	51	118	2.3
県外離島					1	4	4.0
合 計		23	132	155	83	221	2.7

[考察]

計画当初は北部地区の高校生を対象に行なう予定であったが、北部地区外にも北部枠推薦入学者がいることから、県内全ての高等学校に、自己推薦または推薦入試合格者を対象に、参加の募集を行なった。募集開始の日から申込が多数届き、予想を大幅に超える結果となった。

しかし、第2回高大接続勉強会において北部地域の高等学校には、高大接続の課題改善に向けて、1日参加でも構わないということで全員参加を呼びかけるよう依頼を行なった。結果は、表1の通り北部地域の対象者36名に対し、参加者は31名であった。遠くは、沖永良部高等学校、久米島高等学校、八重山高等学校等遠方からの参加もあった。

表 2 学群・学科別参加者数・回数

	申込み	欠席	参加者	1日のみ	2日間	3日間	4日間	参加平均日数
スポ健康	13	2	11	4	1	1	5	2.6
看護学科	23	2	21	1	9	5	6	2.8
国際学群	56	5	51	11	10	14	16	2.7
合 計	92	9	83	16	20	20	27	2.7

表 3 学群・学科別出席数

	2月12日	2月13日	2月14日	2月15日	合計延べ日数
スポーツ健康	11	8	6	5	30
看護学科	20	17	12	9	58
国際学群	52	37	29	21	139
合 計	83	62	47	35	227

平成31年2月15日（金）調査

◆入学前特別講座（数学）の受講者アンケートより

1. 講座の日程等について				
(1)実施時期について (2/12～15)	ア：適当であった	イ：もっと早くして欲しかった	ウ：もっと遅くしてほしかった	
	76%	18%	6%	
(2)実施期間について (4日間)	ア：適当であった	イ：もっと短くても良かった	ウ：もっと長くても良かった	
	71%	26%	3%	
(3) 講座の時間について (2時間)	ア：適当であった	イ：もっと短くても良かった	ウ：もっと長くても良かった	長くて期間を短く
	68%	0%	29%	3%
(4) 講座の時間帯 (2～4時または1～3時)	ア：適当であった	イ：午前中が良かった	ウ：もっと遅い時間	
	62%	38%	0%	
2. クラス分けについて (2クラス)	ア：適当であった	イ：同じクラスが良かった	ウ：その他	
	94%	6%	0%	
3. 授業形態	ア：グループワークで良かった	イ：講義形式が良かった	ウ：その他	
	94%	3%	3%	
4. 講座で配布した 問題の難易度について	とても簡単だった	やや簡単だった	少し難しかった	
	3%	50%	47%	
5. 講座の満足度	ア：とても満足している	イ：やや満足している	ウ：イ：満足していない	
	76%	24%	0%	

◆受講生の感想より

- ・4日間で自力では解けなかった問題が解けるようになったり、4月から一緒に勉強する友達とのコミュニケーションを通して、沢山のことが得られたりしたので良かった。
- ・分からない問題があっても諦めず最後まで粘って解けるようになった！大学入学後も初心を忘れずに夢を叶えられるよう頑張りたい。
- ・先輩方から大学生活の話を聞きながら勉強したので、大学でどのようにしてやっていくか知ることができたので、大学生活が楽しみです。
- ・基礎は解けると思っていたが、だんだん難易度が上がってきているので何とかついて行けるように頑張りたい。勉強と思うとテンパってしまったけど、先輩方や同級生が優しく教えてくれたので良かった。」「いろんな人との交流を深められて良かった。苦手な数学の問題も友達に聞いて分かるようになってとても良かった。今回の講座に参加して良かった。

◆チューターの感想より

- ・MSLCのチューターになりたいといってくれる生徒がいたので嬉しかった。
- ・入学前に講座を受けて楽しかったという感想が多かったので良かったと思う。
- ・対話を通して与えられた問題をどのように解くのか、その考えを相手に自主的に見つけてもらえたのが、この活動の中で、何よりもやりがいを感じた。この経験を来期からの活動に活かしていきたい。講座に参加できて本当に良かった。

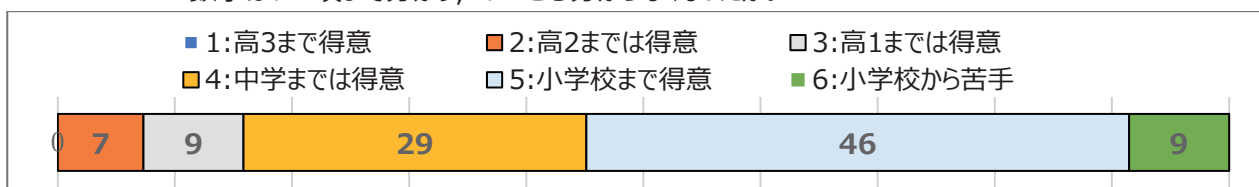
【考察】

1. 実施時期については、高3の進路準備等自宅学習期間に入った直後であったので良かったと思う。
早くすると学校を休んでくることになり、遅くすると入学前学習の取組が遅くなる。
参加者は名護近郊と予定していたので一日2時間の4日としたが、検討が必要である。
 2. クラス分けは、①数学基礎クラス（苦手克服）、②統計基礎（高校の復習）③数研対策（得意者）としたが、数研対策を希望した学生が数学苦手な学生であり本人の希望もあり数学基礎クラスにした。
②統計基礎クラスから①数学基礎クラスへの変更希望者がいた。特に問題はなかった。
 3. 授業形態は講義形式をイメージしていたがグループワークで良かったという意見が多かった。
 4. 教材は、当初の予定を変更し両クラス同じ教材を使用した。前半の40分程度は数学基礎の計算問題（数研準2級程度）、後半は統計基礎問題（文章を読んで高校の統計分野を復習）とした。
 5. 受講者のレベルが分からず試行錯誤しながら進めたが、最後まで受講した生徒の満足度は良好であった。参加者はやはりやる気があって数学得意な生徒もいたが、このような生徒にとっても高校までの復習という目標達成ができる手応えのある教材であったと思われる。
- ※ その他の課題（送迎バスの運行など）もあったので、次年度に向けて検討していきたい。

表4 数学はいつ頃まで得意であったか（できていたと思うか）。

	1:高3まで得意	2:高2までは得意	3:高1までは得意	4:中学までは得意	5:小学校まで得意	6:小学校から苦手	合計
スポーツ健康	0	0	1	4	4	0	9
看護学科	0	0	0	5	10	6	21
国際学群	0	6	6	15	24	1	52
合計	0	6	7	24	38	7	82

・数学はいつ頃まで分かり、いつごろ分からなくなったか。



【考察】小学校から分からなかったという生徒が82名中7人（9%）、小学校まで得意であったが中学から分からなくなったという生徒が38人（46%）、中学校まで得意であったが高1から分からなくなったという生徒が24人（29%）、高1まで得意であったが高2から分からなくなったという生徒が7人（9%）、高2まで得意であったが高3から分からなくなったという生徒が6人（7%）、高3まで得意であったという生徒はいなかった。

【入学前特別講座（数学）のまとめ】

◆成果

- ① 希望講座であったが、当初の予想を上回る生徒の参加がありニーズはあることが分かった。
- ② 苦手な学生も4日間継続した生徒もいたので苦手分野を克服したいと意欲的に取組む生徒もいた。
- ③ 高校レベルはほとんど解けていなかった生徒が解けるようになったという生徒もいた。
- ④ グループに数学が得意な生徒もいたのでグループワークはある程度スムーズに行われた。

◆課題

- ① 職業高校生を含め北部の高校生が5人不参加であったことは大きな課題であると考えている。
- ② 数学基礎力に課題を抱えている生徒には個別プログラムを準備していたが対応ができなかった。
- ③ クラス編成を数学が苦手な生徒と得意な生徒の希望制にしたが習熟度の差があり検討課題である。
- ④ 当初の予定通り北部の高校生のみを対象とすべきであった。

※ 北部以外の生徒にも案内をしたため、次年度に繋がる課題が見つかった点は成果である。



※ グループ4名に1人の学生チューターが入り学習支援を行なった。
中には、文章理解ができず1対1の個別支援が必要な生徒もいた。
このような生徒は入学後、自然科学特別講義「統計学基礎」の履修を進めている。

2019（令和元）年度 入学前特別講座①「入学前体験・交流プログラム」報告書

2020年1月27日（月）に名桜大学学生会館 SAKURAUM 6階スカイホールAにおいて、2019年度名桜大学入学前特別講座①「入学前体験・交流プログラム」を実施いたしました。2020年度自己推薦入試、推薦入試で合格した北部地区の高校生 50名全員が参加しました。初めての取り組みでしたが、参加者の感想より有意義な入学前体験・交流会を開催することができました。特に今回の内容は、12月2日（月）に開催された第3回高大接続勉強会において、参加された高等学校の先生方からの要望を受けて、大学の授業体験も実施するという1日の体験学習を実施することができました。

当日の様子及び結果を写真とともに紹介・報告いたします。

- ◆開講式 開会の挨拶（小番達リベラルアーツ機構長）
趣旨説明（高安美智子数理学習センター長）

①「基礎力診断テスト（小論文・数学）」

目的：大学入学後のスムーズな学習のための基礎力診断を行い、必要な生徒への学習支援に繋げる。

結果：入学前特別講座②の受講対象者：32名
（小論文17名、統計学基礎20名、2科目対象者5名）

- ◆学習センター紹介



ライティングセンター



言語学習センター



数理学習センター

②入学予定者と学生団体の交流会

- 目的： 1)名桜大学は、そもそも北部地域に貢献することが目的であることを理解してもらう。
2)他の同級生と比べたときの自らの強みを理解してもらう。
3)教養演習においてリーダーシップを発揮してもらう。
4)2021（令和3）年度入学予定者との交流会の企画・運営にも興味をもってもらう。

参加者：入学予定者 50名

	国際学群	スポーツ健康学科	看護学科	総計
A 高校	18	5	9	32
B 高校	4	1	2	7
C 高校	4			4
D 高校	3	1		4
E 高校			2	2
F 高校	1			1
総計	30	7	13	50

学生団体 10名

言語学習センター	飯塚竜之介 国際学群 3年
	村川 愛実 国際学群 2年
ライティングセンター	加藤 小春 国際学群 4年
	高橋 怜央 国際学群 4年
数理学習センター	宮川寛太郎 国際学群 4年
名桜ウェルナビ	米澤 南華 国際学群 4年
	池間 大 国際学群 3年
	佐久本稀里 国際学群 3年
	前原 信利 スポーツ健 2年
(※団体推薦)	※花城 悠向 国際学群 2年



アイスブレイキングの様子



入学予定者と学生団体の交流会 司会進行：木村先生

13:00 開会の挨拶（木村先生）

13:02 自己紹介と関係づくり（名桜ウェルナビ）

各グループ内の6名の関係づくりのアイスブレイキング

13:20 グループワーク（司会進行 木村先生）（45分間）

<グループの課題>

入学後、他の同級生に北部地域のことを紹介することになりました。

あなたは自分の地元である、北部地域の「強み」と「弱み」を紹介したい。

話し合い後、担当のテーマについて1分間で発表してもらいます。

<テーマ> ①気象、②食べる、③学ぶ、④移動、⑤働く、⑥育てる、⑦楽しむ、⑧買う、⑨健康、

14:05 発表（1グループにつき1分）…発表終了後に記念写真

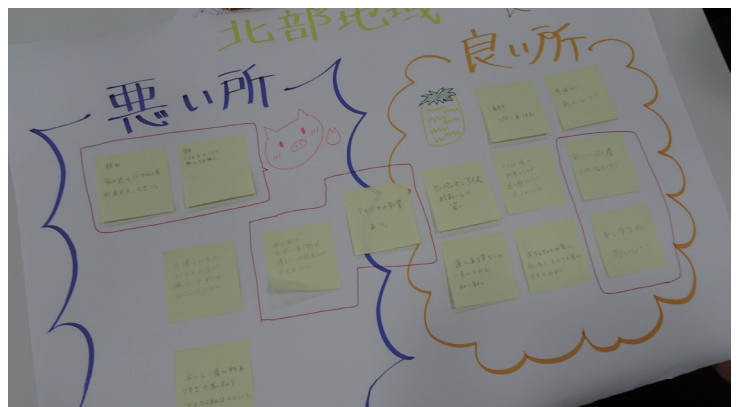
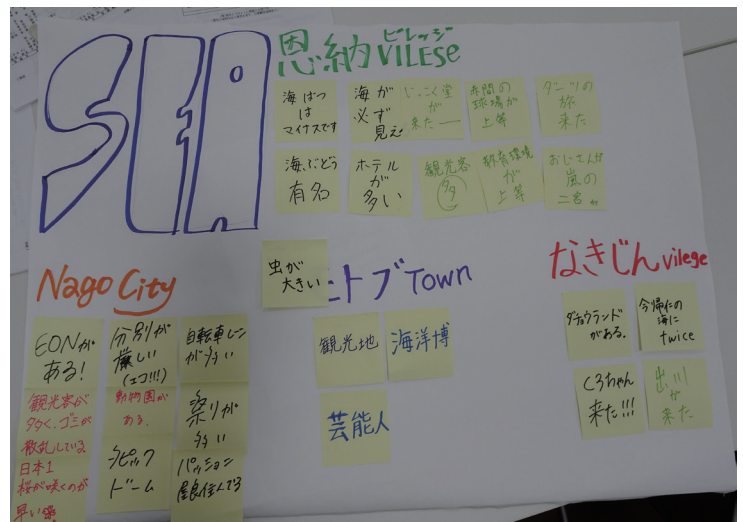
14:20 教員からの講評（木村先生）…今日の交流会の目的と成果



交流会グループワークの様子

★グループワーク 北部地域の紹介

それぞれのテーマで強みと弱みを考える



◆参加者の感想

- 楽しかったです。新しい出会いがありました。
- 大学生の日常を知れて良かった。いろいろな人と触れ合うことができて楽しかった。
- 楽しく、多くの学びがありました。もう少し早めの実施がいいかなと思いました。
- 3限目の交流会がとても楽しかったです。大学の先輩もとてもフレンドリーに接してくださり、「大学に入ったら今日みたいな話し合いを多くやるよ」と教えてくれました。大学に入る前にイメージを少し持つことができて良かったと感じています。
- 大学生との交流会では、大学生に限らず、他の入学予定者とも友達になれて楽しく交流することができました。4月から名桜生という自覚を持って楽しく過ごしていきたいと思いました。

③体験授業「大学と人生」(16人)「ベンチャービジネス」(9人)「対人コミュニケーション論」(23人)

①大学と人生（多目的ホール） 授業担当者：山里勝己学長

講師：石野裕子氏（元今帰仁村歴史文化センター館長）による講話

テーマ：「あっちこっち寄り道しながら働き口を探してきました」

<受講生の感想>

- 日本のリアルな話が聞けて、とても興味深い話でした。また、石野さんが沖縄のことを話してくれて、体験者から聞く直接のお話だったので、とても心に響きました。
- 石野さんの今まで生きてきた内容が濃くて、また自分の生き方にも目を向ける良い機会でした。リストラが大企業で多く行われていると始めて知って驚いた。世界人助けランキングは日本は最下位。外国人が日本に来たときに、財布を落としたとしても手元に帰ってきたという話は良く聞いたことがあるので、人助けランキングは高いのかと思っていた。身近への思いやりの心が大切なんだと感じた。
- 多目的ホールで、多くの大学生の方と講座を受けて、大学の雰囲気を感じました。
- 「何をやりたいか」ではなく、「何をやりたくないか」を見る。見下されないためにも、歴史等を知っていることは大切。
- 石野裕子さんは沖縄を出て内地に行ったときに、沖縄人というだけで偏見があったと言っていた。その時は沖縄県が日本に戻ったばかりでめずらしがられた。話すときもなまりを指摘されたりして、日本語を話せることも驚かれたとわかった。沢山の国に訪れてその国の名産品を見たらその国の人たちのことを考えるようになったと言っていた。海外に行ったことで幸せに生きることはシンプルだと気づき、自分がはたつたつに生きることを目標にしていると言っていた。
- 日本の企業のリストラの話など、仕事のことを沢山聞いてすごいためになりました。今回の講座の話は石野さんの視点からの話だったけど、自分があまり考えないことだったし、すごく考え方が深いと思って楽しかったです。他の人の意見を聞いてそれを自分のものにできたらいいと思いました。
- 損得で仕事を選ぶのではなく、わくわくするほうを選ぶことが人生が豊かになると分かった。
- 「働き口」の講義を受講したが、沖縄の最低賃金が790円しかないということに驚いた。また、世界人助けランキングでは、日本は125位中最下位だという状況にとっても驚いている。沖縄が本土復帰する前はお金も数え方が違うし、差別的なことを言われたりしていたと聞いて少しショックだった。
- 高校とはまた一味違って、授業時間も長いし少しゆるい感じもした。
- 日本は憲法が守ってくれると言っているけど、いまだに部落差別や偏見が残っている。憲法ばかりに頼っているのは現状を変えることができない。だからこそ、自分なりの考えや多様な価値観を受け入れる力が重要になってくると思った。
- 石野裕子さんのこれまでの人生の話聞いて、沢山学ぶべきところがありました。これからの私の大学生活や自立していくための良いアドバイスになりました。



②ベンチャービジネス（108 教室）授業担当者：国際学群 林優子教授（専門：経営戦略）

講師：株式会社シーポイント代表取締役 野澤浩樹氏（ていーだブログ）による講話

- 実際に経営者の方から説得力のある話が聞けてよかった。大学の授業の雰囲気がかめてよかった。
- 一人でなければならないことはない。日本よりも日本が田舎だと思っている国のほうが明確なビジョンを持っていて、発展していることが分かった。もっと世界について知りたいと思った。
- 今日はベンチャービジネスの授業を聞いてみて、高校の授業では学ぶことのできない内容を学ぶことができよかった。自分も将来起業しようと思っているので、大学に入ってからもっと詳しく学びたいと思いました。
- 世界一の電子国家であるエストニアという国を初めて知りました。日本は IT が進んでいる国だと勝手に思っていたけど、世界で見るとまだまだなのだった。また、シーポイントさんがチョコレートを作り販売していることに一番驚いた。
- こんな私たちでも、会社を立ち上げたり、メーカーを作ったり簡単にできると説明もしてくれたり、実際の講師の方は行動力もすごく、説明のお陰で自分も挑戦しようかなという気持ちになりました。
- 世界規模で物事を考える。日本人の考えは、視野が狭い。視野を広く考える。沖縄は、アジアのハブとなっていて、発展に大きく関わることができる。日本パスポートは世界一のパスポート。多くの信頼を得ている。
- 私は、今将来の夢ややりたい職業がありません。でも職について多くのアドバイスがあったのでそれを考えて見つけていきたい。



③対人コミュニケーション論（211 教室）授業担当者：国際学群 木村堅一教授（専門：社会心理学）

- 自分たちでグループワークを通して返報性、一貫性を見つけ出すのがとてもおもしろかった。
- 木村先生の心理学の講座を受けて、人間は目だけでなく心にも盲点がある事を知った。盲点を使ってビジネスを行ったり、自身の脳の負担を軽くしたりなど、様々な活動をしていることが知れた。洗脳は心理学的にも簡単にできるということなので、今後の生活に気を付けようと思った。普段の生活の中で共感できる部分のあり、心理学って楽しいなと思いました。
- 今日は対人コミュニケーション論の講座を受けて、3つの盲点について考えることができました。また高校と違い考え方に深みがあり楽しかった。
- 今まで見たことのない視点から文章を読み取っていくのは面白かった。先輩も優しかった。
- 返報性や一貫性、そして社会的証明についてよくわかった。社会には自分の考えをコントロールする様々なことがあると分かり、それを意識していこうと思った。
- 対人コミュニケーション論を受講して、普段自分たちが気づかない間で行われている返報性、一貫性、社会的証明のような盲点を知ることができて良かった。これからは盲点を少しでもいいから気にしながら日々を過ごしていきたいと思いました。また、人間の性質を知れてとても面白かったです。
- 人間の盲点を利用した洗脳の授業で分かりやすく楽しかった。
- 普段の生活の中で共感できる部分のあり、心理学って楽しいなと思いました。
- 大学では自分で答えを見つけ出さなきゃいけないので勉強とか大変だと思いました。



◆「入学前特別講座①」の満足度について

- ア. とても満足している(28人) イ. やや満足している(19人)
ウ. あまり満足していない(0人) エ. 不満である(0人)

◆ 今回の講座の実施に関して意見や要望等を自由に記入してください。(一部抜粋)

- 大学の授業を実際に多目的ホールで学生と一緒に受講し、大学に入学したら同じ感じで授業を受ける ということを経験できたので、とても貴重な体験ができたなと思いました。
- 今年からこの講座を開講したということだったが、とてもいい機会だと感じた。この機会を伝統にするのもありだと思う。大学に入る前にイメージを少し持つことができ良かったと感じています
- 入学前にこのような講座を受けることで、入学後への意欲が高まりました。また、小論文や、数学のテストで自分のレベルの低さを改めて感じたので、入学までに基礎をもっと固めていけたらいいなと思いました。
- 実際の学生と講座を受けることができたので良かったと思う。
- センター試験を受験したので、小論文の対策が全くできない。時期をあと 2 週間遅らすか、AO 入試合格通知を同時期にこの試験②があることを知らせて欲しい。
- センター試験と日程が近いことが気になります。AO 入試で入学した人は小論文対策に 1 週間しかかけられないため、日程を遅くして欲しいです。
- 今まで習ったことがなかった心理学について学んで、すごく興味深く楽しかった。
- 高校では知ることのできないことを高校の間で体験することができてよかったです。
- 英語の授業も受けてみたかった。入学したら SAKURAUM 会館を存分に利用したい。
- 高校生だけじゃみんな緊張して進めなかったけど、先輩たちが促して進行してくれたので、講座やイベントが楽しかった。
- 自分は内定をもらったから余計に頑張るべきだということを改めて考えさせられました。
- 3 つの中から講座を選べるのがいいなと思いました。大学に入ったら、次は違う講座を聞いてみたいなと思いました。
- 大学生の人との交流や講義を受けて、大学の雰囲気や少しかつつかむことができました。とてもいいと思う。初めてあった人と仲良くなれる。
- 一日中ですごい長いと思っていたけれど、実際はすごく楽しかったです。学カテストから時間が経つのが早く感じていました。
- 4 月から名桜生という自覚を持って楽しく過ごして生きたいと思いました。
- 入学前に他校の人と関わることができるのは、良いアイスブレイクになるのでありがたい。
- テストだけでいいと思ったけど、講座は楽しかった。



アンケートの結果は、ほとんど肯定的な感想で、当初の目的は達成されたと考えています。

2月12日から始まる「入学前特別講座②(小論文講座・統計学基礎講座)」も、楽しく実りある学びができることを楽しみにしています。ご協力いただきました高等学校の先生方、授業を公開していただきました本学の先生方、学生団体の皆さんに心よりお礼を申し上げます。

報告 2020年2月10日(月)リベラルアーツ機構

2019 年度「入学前特別講座②（小論文講座・統計基礎講座）」報告書

2月12日から19日にかけて、名桜大学ライティングセンター及び数理学習センターにおいて、2020年度自己推薦入試及び推薦入試で合格した北部地区の高校生32名が参加し、2019年度名桜大学「入学前特別講座②（小論文講座・統計基礎講座）」を実施しました。

「小論文講座」が「統計基礎講座」の中から1講座を受講する生徒は、12日から14日までの3日間、また2講座を受講する生徒は、12日から14日の3日間は「小論文講座」、17日から19日の3日間は「統計基礎講座」を受講しました。「小論文講座」は、奥本ライティングセンター長の講義や指導の後、実際に小論文を書いてもらい、10名のチューターによるチューリングが実施されました。最終日には指導後の成果としてレポートを仕上げることができました。「統計基礎講座」は、1日目に基礎力診断テストを実施し、高安数理学習センター長の指導を受けた8名のチューターが、チューリングを行い、3日目の最後のテストで講座達成度を確認しました。受講率は、「小論文講座」が90%、「統計基礎講座」が93%でした。

チューターからは、「最初のアイスブレイキングでみんな緊張が解けた感じがして良かった。講座の初日と比べて基本的な問題が解けるようになっていた。3日目の数学力の成長を見ることができて良かった。言葉にして伝えるのは難しいと改めて感じた。」という感想がありました。

高校生からは、以下の感想が寄せられ、3日間の成果と解することができる内容だと思えます。最後は「4月からよろしくお願いします。」というあいさつをいただき、無事終了することができました。

名桜大学におけるピア・ラーニングを体験した学生の感想を紹介します。

★「小論文講座を受講して」

- ・先生の講座もわかりやすく、チューターの先輩方のチューリングも楽しくできたので良かった。
- ・大学ではレポートを書くのが当たり前になる中、大学に入学する前のこの時期にレポートの書き方や要点など理解できたのは自分としてとても満足している。3日間ありがとうございました。
- ・小論文講座を通して、これから大学に入学してレポートをいっぱい書く機会があると思うので、今回書き方がわかったので活かしていきたいです。
- ・チューターの方がとってもわかりやすく、丁寧に教えてくれたため、はじめての小論文を書くことができました。本当に、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
- ・文章力のないこと、大学でのレベルが高いことが分かった。自分もライティングセンターに入れるように頑張りたい。
- ・最初はとても難しく、レポートも自分でやるのはきつかったのですが、チューターの方々が優しく丁寧に教えてくれたので、最後の方にはしっかり書けるようになりました。意味のある講義だったなと思います。

★「統計基礎講座を受講して」

- ・大大大満足！今日は、1日目よりも2日目よりもスラスラと問題を解くことができた。
- ・今後、名桜大学に入学したとき、様々な人たちとの会話を通してコミュニケーションを取りながら切磋琢磨して学習していこうと思った。
- ・この講座はとても素晴らしいものなので、今後もぜひ実施して欲しい。自分に自信が持てるようになり、実力も高めることもできるのでなるべく全員受講させた方が良い。
- ・解ける範囲も広がり、数学に関心がもてるようになりました。理解するまで苦しい気持ちでしたが、自力で解けるようになるのかなり楽しく思えて、この3日間は受講してよかったと感じました。
- ・今まで難しいと思って飛ばしていた問題が、思ったよりも簡単に解けるということ、苦手なことでも克服できるということも学ばせていただいた。
- ・今まで苦手だから避けてきたけど、チューターさんに教えてもらいながらちゃんと勉強できて良かったです。分かるためっちゃ楽しい。ちゃんと復習して理解したいです。



写真1「小論文講座」の様子



写真2 アイスブレイキングと「統計基礎講座」の様子

2020（令和2）年度 入学前特別講座Ⅰ「大学生と高校生の交流会，数学基礎力診断テスト」報告書

【実施日】 2021年2月12日（金）

【参加者】 対象者：北部地区高等学校全7校学校推薦入試及び北部枠推薦入試合格者58人
参加者53人，欠席者5人

【目的】 要項等より

1. 入学前後の学びのイメージギャップを小さくする。
2. 高校と大学の接点を増やすことで学習意欲を高める。
3. 入学前後の学びの意識改革（大学生からのメッセージと高校生の入学後の決意表明）
4. 入学前特別講座Ⅱの「統計基礎講座」の事前調査
習熟度に応じたクラス編成を行うため，数学基礎力把握のための診断テストを実施する。

【実施】

最初に大学で準備したタブレット，ヘッドフォンを使用して，Teams を立ち上げ，「入学前特別講座Ⅰ」を実施した。前半は，①数学基礎力診断テストの実施，②「入学前特別講座Ⅱ」の方法について（英語の e-learning 教材の説明，ライティング講座，統計学基礎講座）の進め方を説明した。

後半は，特に，学生支援団体ウェルナビの企画による「先輩学生との交流会」を実施した。今回は，前年度この交流会に参加した学生を対象に希望者を募り，ウェルナビの皆さんと共に交流会に参加してもらった。交流会も Teams で行い，グループワークでは，「名桜大学で学びたいこと，学生生活で気を付けたいこと，サークルや検定等やってみたいこと」のテーマの下に交流を行い，最後に北部出身の先輩（1年次）が，激励のメッセージを送って激励した。

【結果】

急遽オンライン講座となり，メディアネットワークセンターのスタッフや多くの関係教職員の協力を得て，本講座を実施することができた。参加した生徒の事後アンケートから，貴重な入学前体験ができたことが分かり，講座の目的は十分達成できたと感じることができた。数学基礎力診断テストを実施することで，高校までの復習をして大学入学を迎えるという緊張感も感じ，入学後の新入生学力調を意識している様子も伺えた。

【成果】

- ① Teams を体験することで，オンライン授業のイメージができて良かったという感想が多かった。
- ② 前年度入学前特別講座で大学生との交流会を体験した地元の学生が積極的に協力をしてくれた。
- ③ 先輩から後輩へのメッセージを届け，大学生活への期待が感じられたというコメントもあった。
- ④ 一緒に入学する生徒同士や先輩たちとの交流により大いに刺激を受け，大学入学を楽しみにしているというコメントもあり，有意義な交流会であったことが分かった。

【課題】

- ・大講義室 A に全員一堂に集めて Teams を立ち上げたため，通信の接続不良がありグループワークに参加できない生徒もいた。
- ・参加希望調査を行ったため，参加は自由だと解釈し参加しなかった生徒もいたと思われる。やむを得ない理由がなければ参加必須にした方がよいのではないかと思う。
- ・最初から講座に参加を希望しなかった生徒が6人いた。希望調査の実施で希望しなくてもいいという解釈をしたことが考えられる。数学基礎力テストはメールで google フォームの問題を送信したが，連絡がなかった。

【受講者の評価】 参加者アンケート 回答者： 53 名（100%）

（1）実施時期について「2月12日 金曜日」は、51名(96%)が適当であったと回答。

（2）講座の時間（9:00～12:30）については、全員が適当であったと回答。

（3）基礎力診断テスト(数学)の問題の難易度について、どうでしたか。

①易しかった：0%，②適当であった：49%，③難しかった：49%，④その他(2%)

（4）大学生や高校生同士の交流会に参加して、どう思いましたか。（複数回答）

①入学までの過ごし方について取り組むべき目標や計画を明確にしたいと思った。60%

②学生同士が助け合うことが大切だと思った。45%

③大学生活の話が聞いて良かった。42%

④交流会は楽しくできて良かった。40%

（5）本講座の満足度について

①とても満足している：51%，②やや満足している：45%，③あまり満足していない：4%

満足していない理由：ネット環境が悪くて話に参加できなかったのが残念だった。

（6）振り返りのコメントからの目的別成果

1. 入学前後の学びのイメージギャップを小さくする。

・大学の雰囲気などが少しでもわかったので、入学前にこのような機会があつてとてもよかった。

・入学が楽しみになってきた。次の講座も楽しみだし早くやりたい。

・入学までの期間を大事に使って準備していきたいと思った。

・teams で実際に繋いでこれからの学びのイメージができた。

・大学に進学したら今回みたいにオンラインで講義やゼミを受けたりするというイメージを掴むことができた。

2. 高校と大学の接点を増やすことで学習意欲を高める。

・高い志を持った同級生の意見を聞くことが出来て、いい刺激になりました。

・入学後は学習や部活等を頑張っていきたいと思いました。交流会を楽しめました。

・グループの意見や考えもそれぞれ違うことがわかり、学ぶことも出来ました。

・改めて、自分の目指しているものが明確に出来たと思います。

・自分が何をするためにここに来たのか、言葉にする事でこれから頑張ろうと思えました。

3. 入学前後の学びの目標設定と意識改革（大学生からのメッセージと高校生の入学後の決意表明）

・自分の目指しているものが明確に出来たと思います。自分が何をするためにここに来たのか、言葉にする事でこれから頑張ろうと思えました。

・基礎学力をもっと身につけるべきだと改めて感じた。

・高い志を持った同級生の意見を聞くことが出来て、いい刺激になりました。

・同じ高校生の大学に入ってから目標について色々な意見を聞くことができたのでよかったです。

4. その他

・コロナ禍の中でここまで準備してくれてとても感謝の気持ちでいっぱいです。また、交流できたらいいなと思いました。



基礎力診断テストの受験の様子



英語の e-learnig 教材説明の様子



交流会のグループワークの様子

2020（令和2）年度「入学前特別講座Ⅱ」の報告書

1. 「ライティング講座」報告書

ライティングセンター

2020 年度に実施したライティング講座の成果としては、入学後の必修科目である「アカデミックライティングⅠ」の内容を提供出来た点にある。特に、高等学校で取り組んできた小論文と、大学で求められるレポート・論文との違いを中心に講座を実施することが出来た。入学後の学びに支障をきたさないことを目標に講座を行った。

受講者からは、小論文、レポート、論文との違いについて理解出来たという感想を多く確認することが出来た。盗作と盗用についても理解をすることが出来たという感想もあり、大学で求められる研究倫理の初歩を伝えることが出来たことも成果と言える。

次年度においても、入学前特別講座を受講した生徒に対してアンケートを実施することによって、ライティング講座の効果を引き続き、検証していく予定である。

<講座の成果（受講者の感想から）>

- ・小論文、レポート、卒業論文の違いや書き方をとても分かりやすく説明していたので、よく理解できました。
- ・小論文や論文、レポートの違いや常体を用いる、語句を明確に使うこと、盗作、盗用などはしてはいけないなどを知ることができて良かったです。
- ・レポートの書き方や論文などとの違いについて、先に学ぶことができたので、良かったです。
- ・小論文、レポート、卒業論文の違いや書き方をとても分かりやすく説明していたので、よく理解できました。入学後も学習したことを生かしていきたいです。
- ・高校の小論文とは、違ってレポートや論文の知識をもっと身につけないといけないと思った。
- ・この講座を通して小論文、レポート、論文の違いがはっきりわかりました。
- ・大学では課題でレポートを書く機会が増えるので、この講座で学んだことを軸に文章を書く力を鍛えていきたいと思いました。
- ・高校の小論文とは、違ってレポートや論文の知識をもっと身につけないといけないと思った
- ・小論文、レポート、論文の違いは何か気になっていたもので、わかりやすく教えてくれてよく理解できました。
- ・レポートと小論文の違いを理解することが出来ました（12）。
- ・レポートは小論文と違って、たくさんルールがあるとわかったし、一気にレベルが上がるのが想像できたので、失格とないようにしっかりと学んでいきたいと思いました。
- ・説明も具体的で分かりやすかったです。わかりやすかった（8）。表もあって分かりやすかった（3）。
- ・書き方がわかりました（3）。とてもためになりました（6）。
- ・自分が間違えたところも説明が分かりやすくて、すぐ理解することができた。
- ・難しそうだと思った。違いが難しかったです。論文での言葉の使い方が難しいなと思った。
- ・小論文との違いや、これから書くレポート、論文などのルールなどを知ることができてよかった。（2）
- ・自分は論文とか苦手なので、積極的に書き方を学習しに行こうと思いました。
- ・ライティングセンターも活用していきたいです（3）。
- ・今まで小論文とレポートと論文の違いが分からなかったが、動画を視聴して、大学には論文の書き方を教えてくれるところもあったので安心した。

- ・大学に入ってからレポートの書き方について不安だったけど解消できた。
- ・コミュニケーションとライティングの関連が深いことが初めてわかった。
- ・論文がどんなものが分かり、とても難しいと思い、入学後じゃなくて今から学力や読解力を上げていかないとけないと思った。
- ・レポートや論文の書き方のイメージを付けることが出来ました。大変そうだけど頑張ろうと思いました。
- ・凄く勉強になったし、大学生活に向けて心構えができたので良かったです。
- ・大学のイメージが少し想像できた
- ・入学後も学習したことを生かしていきたいです。

<まとめ>

2020 年度に実施したライティングセンターの成果としては、入学後の必修科目である「アカデミック ライティング I」の内容を提供出来た点にある。特に、高等学校で 取り組んできた小論文と、大学で 求められるレポート・論文との違いを中心に講座を実施することが出来た。入学後の学びに支障をきたさないことを目標に講座を行った。

受講者からは、小論文、レポート、論文との違いについて理解出来たという感想を多く確認することが出来た。盗作と盗用についても理解をすることが出来たという感想 もあり、大学で求められる研究 倫理の初歩を伝えることが出来たことも成果と言える。

次年度においても、入学前特別講座を受講した生徒に対してアンケートを実施することによって、ライティング講座の効果を引き続き、検証していく予定である。

2. 「英語講座」報告書

言語学習センター

<活動目的>

1. 参加者の英語力とコミュニケーションスキル向上の支援につなげる
 2. 参加者が LLC チューター（現役の大学の先輩）と交流する機会を提供する
- * 活動はすべてオンラインによって実施される。

<講座内容>

入学前特別講座（英語）として、継続した英語力向上のために e ラーニング教材である英検 CAT（Chieru 株式会社）を配布し、自主学習の機会を提供した。英語ワークショップは大学の先輩であるチューターたちと交流し、入学後の英語の授業準備としてリベラルアーツ機構教員の指導のもと LLC チューター4 名が中心となり、活動を計画、実行した。

LLC チューター：古我知輝彦（国際 3 年次）・具志堅絢音（国際 3 年次）・ジェイダエドモンドソン（国際 2 年次）・チョイウエンホン（国際 2 年次）

指導教員：タンエンハイ（LA 機構）・笠村淳子（LA 機構）・メーガンクックルマン（国際）

<活動内容>

1 時間（20 分×2）の英語学習活動（オンライン）を毎週水曜日 15:00 から 16:00 の 3 回シリーズで行った。プラットフォームは Zoom を使用し、ワークショップの内容は、4 名のチューターが各 1 件の活動を準備し、それぞれの活動を全員が共有して、同じ時間に同じ活動を各ブレイクアウトルームで一斉に行う方法を実践した。以下は各ワークショップの時間配分である。それに続く表は、担当者と活動内容である。

日程

- 15:00: 開会挨拶
- 15:05: 言語学習センターチューターの自己紹介 (メインルーム)
- 15:15: 英語で参加学生の自己紹介 (各ブレイクアウトルーム)
- 15:30: グループゲーム (各ブレイクアウトルーム)
- 15:55: 閉会の言葉 (メインルーム)
- 16:00: 講座終了

2月24日(水)	3月3日(水)	3月10日(水)
活動 1: スピーキング 自己紹介 + LLC 紹介 担当者: チューター全員 英語での自己紹介および LLC の紹介を英語で行った	活動 3: リスニング Where can you... in Meio? 担当者: Jada Edmondson クイズ形式で本学の支援センターでできることを当て、そこでできる活動を英語で説明	活動 5: スピーキング Circles at Meio 担当者: 古我知輝彦 参加したいサークルを一つ選び、選んだ理由を英語で伝える
活動 2: スピーキング 2 Truths 1 lie 担当者: 具志堅絢音 自分自身のことについて 2 つの真実と 1 つの嘘を英語で伝え、嘘を見破るゲーム	活動 4: ライティング ライティング (先週の出来事) 担当者: Choy Wing Hong 簡単な英文法を用いて、先週あった出来事を英作文する	活動 6: 会話 大学生活について + Q&A 担当者: チューター全員 大学生活に関する Q&A の時間として、参加者がチューターたちに質問できるようにした

<成果について>

- ・ワークショップ当日の学生のフィードバックからは、本学の学生チューターと入学前の高校生が交流する事により、大学の学生や言語学習センターの学生チューターに馴染みが持てた結果となっていた。
- ・当日の参加者のフィードバックからは、英語学習に関するモチベーションの向上とオンライン技術の向上を実感したことが数値的に示された。
- ・入学前講座に参加した新生で、来学期の LLC 新チューター応募に応募した学生が 1 名いる。面談を行った際、入学前講座が楽しかったことと、実際 LLC のチュータリングを受けて、感動し、チューターになりたい、とコメントした (面接官は LLC 専任教員の笠村担当)。
- ・ワークショップの主催者側として参加したチューターからは、オンラインワークショップの実践を通して、オンラインでの対応の仕方の難しさおよび今後どのようにすべきか、学ぶことが出来たというコメントが多く、チューター自身の成長につながった可能性は高い。

<課題について>

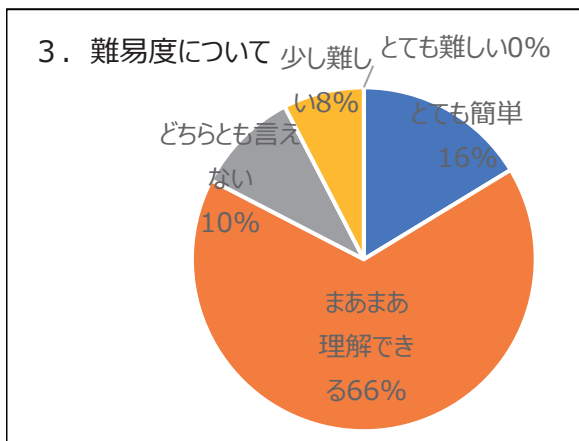
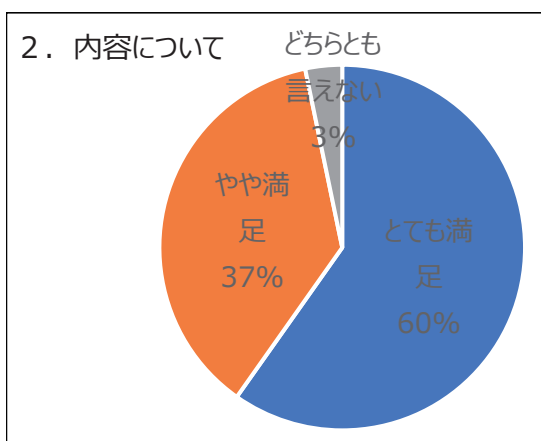
- ・北部対象の入学前特別講座と全員対象の入学前講座 (E ラーニング) の違いが明確でないために、重複部分や不足部分が予想される。
- ・入学前特別講座の受講生の入学後のフォローアップ (例えば、具体的な個人の英語の成績など) がないために、実際の講座の効果やその後の支援が明確でない。
- ・高校の教員と連携して具体的に教科ごとで合同会議などを開催したいが、高校側が忙しいために、具体的な生徒の実態や大学に求められる講座にふさわしい内容にすることが難しい。

- ・LLC 入学前講座に参加した学生の LLC 利用者数を調べた結果、4月から7月初旬までで8名の利用者にとどまった。その中の1名を除く全員が課題で LLC を一度だけ利用している。ワークショップの目的として、新入生が自主的に LLC を利用する目的は達成できていないようである。
- ・「継続的な支援」につなげる工夫は、個人レベルも考慮しながら行う必要性を感じる。（例：神田外語大学のよう
にチューターによる長期的個人の進歩プログラムなど。）

<付録 事後アンケートの結果>

1. ワークショップ参加状況

2月24日	3月3日	3月10日	延べ人数
35名	27名	30名	92名



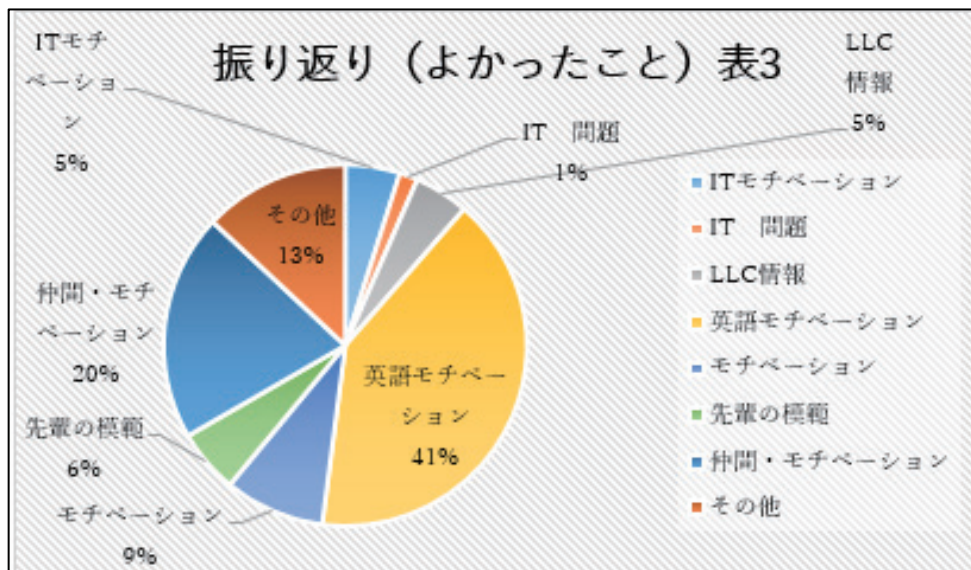
3.1 受講前と受講後のあなたの英語学習に対するモチベーションはどのくらい変わったと思いますか。

[5段階自己評価の平均 3.9]

3.2 このワークショップはどのくらいオンライン講義に参加する方法や技術を学ぶ機会になりましたか。 4.7

[5段階自己評価の平均 4.7]

次の円グラフは、コメントの似通ったものをグループ化し、数値化したものである。



3. 「統計学基礎講座」の成果と課題

数理学習センター

<目的>

- ①入学後の学習が円滑に進められるよう、高校までに学習した統計分野の復習を行う。用語の意味や定義を理解し、データやグラフの読み取りができるようになることを目標に、文章問題をじっくり解かせ、読解力、集中力、思考力の向上を意識させる。
- ②統計基礎の学びを通して数学基礎力の必要性を理解させた上で、大学生活をスタートさせる。
- ③入学後の学習センターの活用を促し、ピア・ラーニングと入学後の主体的な学びに繋げる。

<内容>

- ①数学基礎力の向上と統計基礎の学習を 90 分間集中して取り組む体験をする。
- ②諦めず自力で解決する学習を行い、筋道よく説明する体験をする。
- ③ 講座受講後も、主体的に読解力、思考力、判断力、表現力を高める努力を続ける。

<数学基礎力診断テストの結果> 2月12日に実施

出題範囲：義務教育レベルの基礎的内容から高等学校の必修科目「数学Ⅰ データ分析」

問題形式：選択問題 18 小問 記述問題 7 小問

結果：受験者数 53 人 受験率 91.4% (53/58)

(1) 「自習クラス」は、遠隔授業（オンデマンド）で講座を行った。

Teams で問題を配布し Google フォームで解答を送信する。その後、解答・解説の動画と PDF ファイルを添付し、自習を行う。休憩後、追加問題をアップし、同様に自習を行い、Google フォームに振り返りを入力して終了する。

(2) 「授業クラス」は、対面授業とオンラインを行う予定であったが、オンライン希望者の2人が授業クラスに変更したため、オンライン配信も行ったが、実際は対面授業のみとなった。最初に小テストを実施し、演習問題は MSLC チューターのサポートを受けながら理解を深めた。

<3日間の講座>

【出席状況】全体 58 人に対する受講率 83.3% 145/174 (58×3)

	2月17日	2月18日	2月19日	合計
授業クラス	25	24	24	73
自習クラス	25	25	22	72
合計	50	49	46	145
受講率	86.2%	84.5%	79.3%	83.3%

<成果>

- ・事前に診断テストを実施し、授業クラスと自習クラスに分けて実施したのは、双方にとって有意義であったと思われる。3日間の講座では、すぐに知識量や計算力の成果が表れるものではないが、入学前学習の必要性や、入学後の抱負などが述べられ、講座の満足度は予想より高かった。
- ・高校生同士またはチューターの学習支援を受けて学びが深まったことや、本学のピア・ラーニングを体験することができモチベーションアップに繋がったと思われる。

- ・今後に向けた抱負を述べた記述もあり，入学前の学習環境を与えることの重要性を知ることができた。入学後の学習意欲につながるコメントも多く，入学前特別講座の学習成果が感じられた。
- ・入学前学習(eラーニング)教材「数学」の内容を考慮したうえで，単なる計算ドリルではなく，文章読解と表やグラフを読み取る問題を取り入れ，講座内容を検討したことが満足度に結びついていると考えている。
- ※入学前学習(eラーニング)「数学」の内容は，小学校からの「基礎・基本」の学び直し教材であるが，SPI 数的推理等の問題を解くために必要な内容であり，リメディアル教育を必要とする新入生が例年 3 割程度いることから，本学の入学前学習として適切な内容であると判断している。しかし，eラーニング教材であるため，基礎力のない生徒には内容理解と知識・技能の定着には至っていないと判断している。

<課題>

- ・講座の事前調査で 9 人から「3 日間欠席します。オンラインでも参加不可」という回答があった。
- ・実際はその中の 5 人はオンラインで参加した。しかし，連絡なしで 3 日間欠席した生徒が 4 人いた。
- ・参加の可否の希望調査があるということで，参加が自由であるという判断をしたのではないかとと思われる。
- ・参加の可否については，高等学校の先生方と連携して事前指導が必要である。
- ・日程的な件も考慮して自習クラスはオンデマンドでも可能であるとしているが，参加できない理由について，高等学校側で事前に把握することはできないのか連携する必要がある。
- ・授業クラス内でも習熟度に差があり，その対応も検討する必要があるが難しい課題である。
- ・連絡のない生徒に個別にメールを送信しても返信がなく，対応ができなかった。
- ・事前にデータの送受信ができるアドレスの入手が必要である。



<受講者の事後アンケートより，目的別成果につながるコメント>

① 文章問題をじっくり解かせ，読解力，集中力，思考力の向上を意識させる。

- ・考えないと解けない問題が多くて，忍耐力が身についたと思う。
- ・授業クラスは対面で受けるので，集中力も高まるのでいいと思った。
- ・考える事が楽しいと思った！この 3 日間で，数学力が上がったと思うので来て良かったです。
- ・読解力やグラフを読みとる力が身につくと思うので良いと思う。
- ・統計学の基礎について，いままでより理解を深められたので参加して良かったです。

② 数学基礎力の必要性を理解させた上で，大学生活をスタートさせる。

- ・3 日間の講座を通して，数学をもっと勉強しようという意欲が高まりました。
- ・もっと頑張ろうと思えるいい機会になった。
- ・入学前に自分の実力を知って，モチベーションも上げることができて良かった。
- ・数学の苦手意識を無くし，勉学に励む大切さを学びました。
- ・入学前に自分の実力を知って，モチベーションも上げることができて良かった。
- ・数学は苦手だけど大学でも頑張れそうと思った。
- ・入学までにしっかり復習などをして，入学後に備えていきたいと思いました。
- ・入学後も学習したことを生かしていきたいです。



写真 解き方の説明をしている生徒

- ・入学する前に自分がどれだけ勉強できるのかを知ることができて良かった。
- ・楽しく勉強することかで出来た。復習を怠らずこれからも頑張っていきたいと思いました。
- ・大学の授業についていけるようにもっと勉強頑張りたいです。高校の数学を復習して実力テストに臨みたい。
- ・自分が苦手なところが沢山あったので，入学までにしっかり復習などをして入学後に備えていきたいと思いました。

2021（令和3）年度 名桜大学入学前特別講座Ⅰ 報告書

2022年2月14日から17日までの4日間、学生会館 SAKURAUM において「2021年度 名桜大学入学前特別講座」を実施いたしました。本講座は、2022年度総合型選抜入試や推薦入試等で合格した北部地区7校の高校生49名を対象としました。「入学前特別講座Ⅰ」は、①入学後の目標を明確にすること、②大学の学びへスムーズに移行できるように準備することを目的として、「本学への入学予定者同士及び先輩学生との交流会」、「大学授業体験」「数学診断テスト」等の内容で2月14日（月）に行いました。引き続き行われた「入学前特別講座Ⅱ」は、③入学前準備学習（基礎力養成）を目的として15日から17日まで「統計学基礎講座、英会話ワークショップ、ライティング講座」の内容で行いました。諸事情によりすべてのプログラムには対面では参加できない生徒もいましたが、オンライン（Teams）を活用し、49名全員が講座に参加することができました。

今年度は特に、昨年度の実態を踏まえ入学後の目標を明確にすることを目指して取り組みました。4日間の講座で、入学後は卒業までの自分の成長を視野に入れながら、新しいことに積極的に挑戦し、主体的に学びに向かう力、目標達成に向けて学び続ける力を身に付けるために努力することなどを、それぞれが主体的に考える機会となったようです。「入学前特別講座Ⅰ」の交流会や授業体験、各講座等の実施後の自己評価結果が、表1に示したようにすべての項目について上昇しており、当初の目的は概ね達成できたと思われまます。

表1 目標達成の自己評価結果

	開始時	1日目 終了時	2日目 終了時	3日目 終了時	4日目 終了時
①大学生活での目標を明確にすること	3.67	4.25	4.24	4.40	4.64
②卒業後の目標を明確にすること	3.53	3.82	3.83	4.20	4.32
③高校と大学の違いを理解すること	3.53	4.59	4.52	4.73	4.84
④名桜大学の特色を理解すること	3.88	4.34	4.33	4.70	4.75
⑤自らの学習課題を理解すること	3.69	4.16	4.33	4.45	4.61
⑥高校までの学習を復習すること	2.92	3.45	3.95	4.10	4.41
⑦大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること	2.94	3.41	3.69	3.80	4.14
⑧入学までの間、学習習慣を維持すること	3.12	3.80	3.95	4.15	4.39

〔※ 引き続き入学後の指導が重要となってきます。〕

◆ 交流会の感想から目的に沿った内容をいくつかを紹介いたします。

目的① 入学後の目標を明確にする

- ・目標を持って学習することが重要だと分かった。
- ・大学のイメージがあまり出来ていませんでしたが、先輩方から色々聞いて具体的にどう頑張りたいという目標を自分の中で立てることが出来ました。
- ・一人一人が目標を明確にしている、それを達成するために頑張っていました。学業、部活、バイトを両立している先輩もいてすごいなと思いました。大学に入ったら先輩みたいに目標を明確にして頑張っていきたいです。
- ・他の高校の人と話したり、レクを通して楽しく大学生の方々と関わったり、楽しみながらこれからの大学生活の見通しや目標を決めることができました。



目的② 大学の学びへスムーズに移行できるように準備する

- ・大学生から話を聞けるので入学前に準備していた方が良いことなど事前に知ることが出来ました。
- ・大学と高校は違う、ということをより知ることが出来た。また、勉強すること、楽しむことは大学生活の中ですること、夢実現に近づけると気づいた。先輩方と話したりして大学のイメージが持てたので良かったです。

①「偏見・差別を乗り越えろ！」 授業者 木村堅一（国際）

偏見・差別を乗り越えろ！
（社会心理学入門、プラス大学入門）



高校と大学の違い

	高校生活	大学生活
学生生活	与えられた時間割 決められた部活動の時間 先生が引率するイベント 指定された登校時間 制服や持ち物など指定 集団行動 他学年との交流が限定	時間割は自作する 課外活動は制限なし イベントは自主的に 登下校は自由・自己管理 指定制服・髪型なし 個人行動 他学年との交流自由
学 習	幅広い領域・一定の知識 正解があり回答する宿題 先生を選択不可 授業仲間は同学年	専門知識の吸収 正解がない課題レポート 授業の選択可 他学年と一緒に学ぶ
社会との関係	青少年の扱い 親や保護者が責任を負う アルバイトの制限	大人として扱われる 行動は自己責任 働く時間の拡大

↓
誰かが世界を改造してくれる
↓
世界改造計画をつくるのは自分だ

- ・心理学について知りたいと思いました。今まで差別や偏見の事を学んできたけれど今までとは違う学びだった！
- ・内集団と外集団のふたつの集団が出来上がれば無意識のうちに差別・偏見をしてしまっていることをしれた。とてもためになる講義だった。例え話とかあってとても分かりやすかった！
- ・講演会に似ていると感じました。とても興味のある内容だったので、楽しかったです。
- ・差別と偏見は人間誰しもが無意識にしていることだとわかった。個人から集団になると一気に立場が変わることも知ることができたので良かった。大学の授業のしかたやイメージができたから良かった。
- ・答えが一つだけでなく内容に沿っての自身の意見を書きあげることが必要だと知った。根拠のものを探すのが思ったよりも難しかったので4年間のうちに上手になりたい

②「科学入門 疑似科学」 授業者 立津慶幸（リベラルアーツ機構 上級准教授）



そもそも科学とは？

論理構築、検証を行い、自然現象を理解し一般化をすること。
学問的な価値の「真偽」しか決められない。

一般の人たちの考え方
「役に立つから」（人の価値観）行われているわけではなく、
あくまでも「妥当かどうか」（真理の追求）が判断基準である
科学者の考え方

（科学を学んでいない）一般の人と科学者の間には
温度差は確実に存在する

（もちろん科学者間でも）

- ・古い信じないから関係ないと思ったけど、身の回りは疑似科学が沢山あるなと思った。
- ・偉い人が話しているから正しいとかではなく、根拠は何なのか明確にしようも思った。疑うことは大切だと思う。
- ・高校では習わないことが習えてよかった。面白かった。大学での授業のイメージが持てた。
- ・不確かな情報を鵜呑みにするのではなく、正しい情報なのかをちゃんと調べる必要があるということを学ぶことができた
- ・疑似科学というものを初めて知り、世の中には疑似科学で人を騙す人がいるということを心に留め、大学生になり、自分で色々なことをする時に、簡単に騙されないような気をつけたいと思った。
- ・難しそうなお授業だと思ったけど、実際授業に参加してみて、高校で習ったことよりも深いことで、とても興味深かった。
- ・疑似科学は思ったよりも、自分たちの近くにある事に気づき疑似科学の詐欺にあわないように、少し冷静になって考えてみる必要があるとわかった。

◆ 大学の体験授業（最終日の感想より）

- ・入学前特別講座を通して、大学入学前に身につけておきたい学力や入学後の目標を考え直すことができた。
- ・いろいろな学習センターを見れて良かった。大学生活を有意義に過ごせるように今からコツコツと勉強を始めていきたい。
- ・最終日の今回、大学生活をより豊かにしようと決意した1日だった。

4日間の振り返りから、充実した学びができ達成感が伝わってくる内容に企画者としての達成感も味わえる講座となりました。

報告 2月21日 リベラルアーツ機構

2021年度 入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ 教育効果の分析結果

n=35(全5回の評価をした受講生のみ分析)

- 講座開始時に、受講生にとって「高校までの学習を復習すること」「大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること」「入学までの間、学習習慣を維持すること」は、難しい目標と評価されていた。
- しかし、設定した9つの目標全てにおいて、講座開始時より講座終了時の評価が有意に高く、1～5点の範囲で1点以上も改善しており、4日間の講座の教育効果が顕著であったことがわかる。
- 「高校と大学の違いを理解すること」は、講座Ⅰ（学習センター見学、先輩との交流会、大学の授業体験）だけでも十分達成できた目標といえるが、それ以外の目標は講座Ⅱが不可欠だったといえる。

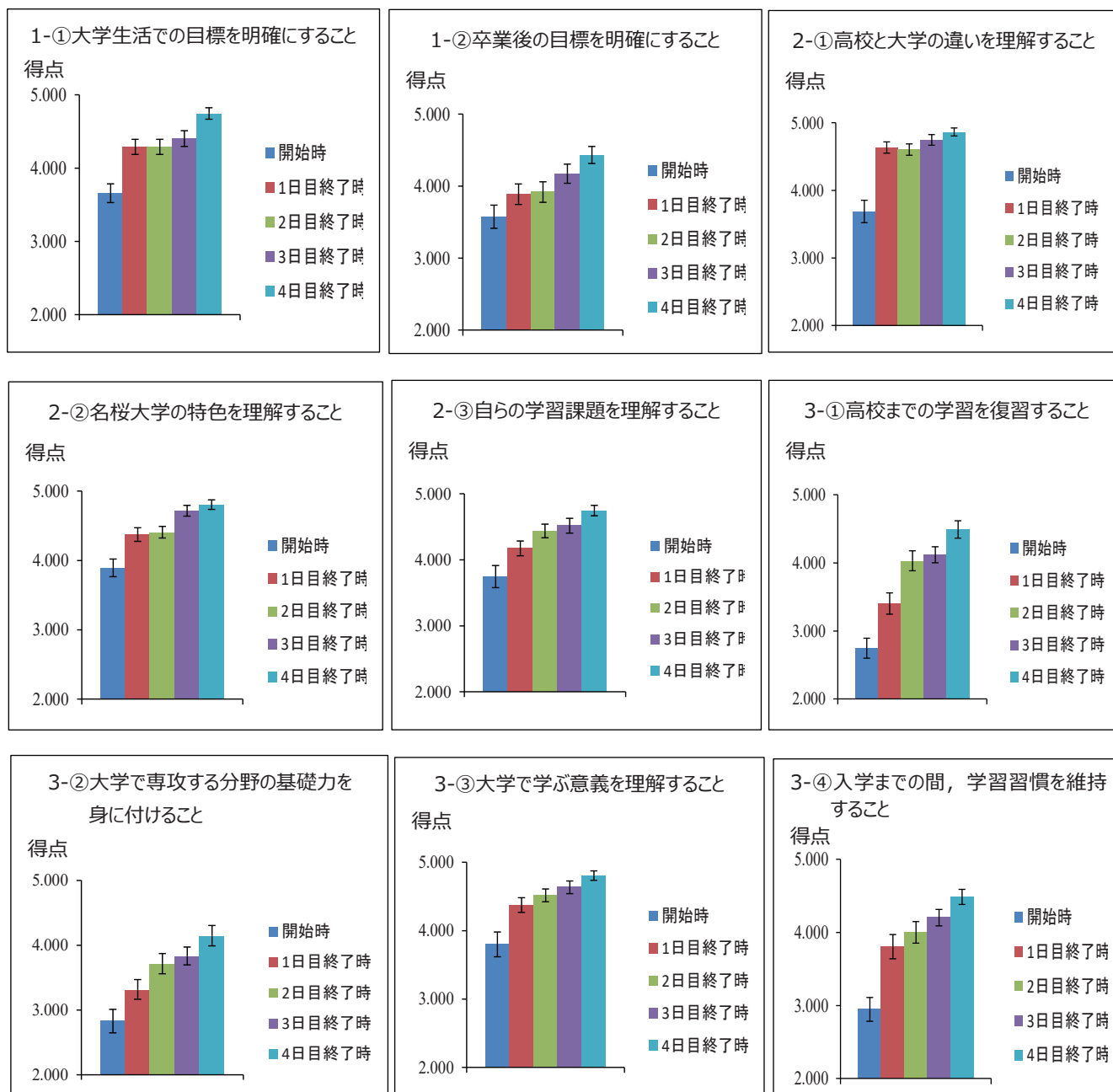


図 目標達成の自己評価 ※エラーバーは標準誤差

注) グラフの縦軸「得点」は、5段階評価の平均値（1=全くできていない,2=あまりできていない,3=どちらともいえない,4=まあできている,5=かなりできている）である。

2021（令和3）年度 入学前特別講座Ⅱ「統計学基礎講座」報告書

「統計学基礎講座」は、「入学前特別講座Ⅰ（2022年2月14日実施）」で数学診断テストを実施し、引き続き2月15日から17日までの3日間、午前9時から12時まで「入学前特別講座Ⅱ」を実施しました。

本講座の目的は、「①学習に取り組む意欲を喚起し、入学後の自律的な学習態度の高揚に繋げる。②入学後の学習が円滑に進められるよう、予習・復習の大切さを理解させる。③ピア・ラーニングを体験させ、入学後の学習センターの活用を促し、主体的な学びに繋げる。」の3点でした。講座では、12グループにそれぞれ1人のチューターが入りグループワークを行い、数学を得意とする生徒は互いに教え合いながら、チューターと同じ学習支援の体験をしました。

数学に対する苦手意識をもっている生徒も少なくない中で、振り返りの自己評価の結果には、学習意欲の高まりや予習・復習の大切さを実感する記述などが多くあり、日々学習意欲の高まりを感じる事が出来ました。2日目以降は開始30分以上も前から講座の復習や予習をしている生徒もおり、積極的に講座に参加している姿も見受けられました。欠席者には、Teamsで教材を配布し対面とオンラインのハイブリッドで対応し、結果として49人全員が講座に参加し、3日間の教材を解くことができました。一方、数学に対する苦手意識の強い生徒の学習方法の課題も見付き、入学後の指導法や学習支援の必要性を実感することもでき、担当者としても有意義な講座となりました。受講者の感想や14日の診断テストと最終日の達成度テストの比較も合わせて、目標は概ね達成されたと評価できました。

【講座の出席状況、意欲、目標の達成状況等】

（1）出席状況(16・17日は届出欠席)

	対面	遠隔	合計
2月14日	44	5	49(100%)
2月15日	41	8	49(100%)
2月16日	40	8	48(98%)
2月17日	42	6	48(98%)

（2）診断テストと達成度テストの平均点比較

診断テスト：14日，達成度テスト：17日	対象者	診断テスト	達成度
①対面で受講し達成度テストを受けた人	41	44	77.1
②オンラインで受講しテストを受けた人	7	39.9	56.6
③1日目の復習と二日目の予習をした人	15	41.6	78
④予習復習をこれからやると回答した人	25	44	73
⑤予習復習をしない、または解答なしの人	8	45	69

（3）講座最終日の5段階自己評価(n=44)

今後の目標設定	3.67	4.52
高校までの復習ができて良かった	2.92	4.81
学習習慣	3.12	4.20
予習・復習の大切さがわかった	3.12	4.77
学ぶ意欲		4.66
学び合い		4.30
質問する力		4.12
読解力		4.48
集中して問題を解く		4.72
数学基礎力の向上		4.45
統計学基礎講座の満足度		4.60

※予習をした生徒の伸び率が高く、次は対面受講者が高くなっています。



グループで講座の振り返り

〔考察〕初日の講座開始前と統計学基礎講座最終日の自己評価を比較すると、「大学生活での目標を明確にすること」は3.67⇒4.52、「高校までの復習をすること」は2.92⇒4.81、「学習習慣を維持すること」は3.12⇒4.20と向上していました。「予習復習の大切さがわかった」は4.77、「集中して問題を解く」は4.72、「学ぶ意欲」は4.66、「満足度」は4.60でした。集中して問題を解くことができたという評価も4.72と高く、統計学基礎講座は実施期間が長かったが、講座参加者の8割以上は3日間の統計学基礎は適当な期間だったと回答し、約1割は3日間は長い、残りの約1割は4日間でもよいと回答していました。

◆学習内容（教材）について

- ・苦手な分野もあったけど就職などで必要になってくるのでいいと思う。
- ・言葉の意味が分かっていないと解けない問題だったので、読解力が上がって良かったです。
- ・文章やグラフを読み解く力が必要だと感じました。
- ・最初に練習問題を解いてから始めると、自分のできなかった問題がはっきり分かってからその後の学習に取り組めたので良かったと思う。文章の読解力や自力で考える力がついたから良いと思う。
- ・パワーポイントが手元で見れたのであとから復習も出来るし、言葉の説明もその場で見てわかるので良かったです。
- ・方程式の問題よりもこのような数学の知識は身につけたいと思いました。
- ・いい割合で問題が作られており、復習したりするには最適でした。難易度の高い問題もあり、解けた時にはスッキリし気分と達成感でいっぱいになる教材でした。
- ・年齢算や損益算など同じ問題でも様々なパターンで出題されていて、それに対応する力が身につく教材だと思う。
- ・すぐわかりやすく、予習や復習にも役立てることができました。
- ・分散や確率等、基礎や応用問題が多くあって、繰り返し解いていくうちに、やり方を見ずに解けるようになりました！
- ・年齢算の問題を解くのは初めてだったけど、解説動画や練習を繰り返して解けるようになったので良かったです。
- ・公務員試験や就職試験、大学生活での数学講座の流れを考えながら学ぶことが出来た教材が多く、解くことに対してより意欲的になれました。
- ・初めは、自分 1 人で問題を解くことが出来なかったけど、この 3 日間に集中して勉強していくことで、分散や標準偏差、損益算など解ける問題が少しずつ増えました。この 3 日間、統計学を学んで良かったなと思いました。
- ・2 日間は家で問題を解いたのですが、解説がとても分かりやすく勉強しやすかったです。
 - ・説明も分かりやすく、躓いた問題も理解することが出来て良かった。

◆チュータリングについて

- ・紙に書いて分かりやすく説明して下さったので理解できました。入学後、どのくらい統計学基礎や知識が必要か知ることができてよかったです！
 - ・とてもわかりやすく教えてくれてやりやすかったし、歳が近いということもあり話しやすいし聞きやすかった。
- ・入学前に大学生と一緒に勉強できることが楽しかったわからないところもしっかりと教えてくれて良かったです。
- ・ノートにまとめて教えてくれたりして分かりやすかったです。
- ・好きな分野でもあったので、もう少し難しい問題とかもやってみたかったです。
- ・気軽に質問できてよかった。丁寧に解き方を教えてくれてとても良かったです。
- ・先生よりも気軽に質問しやすくてわからないことがなくなったので良かった。
- ・チューターの皆さんは何回質問しても優しく丁寧に教えたので、とても良かったです。
- ・わからない問題を質問して解決することができるのでよかった。名桜大学入学が楽しみになった。
- ・入学後は積極的に MSLC を利用したいと思いました。1 問 1 問分かりやすく解説がされていて分かりやすかった
- ・自分一人で解けなかった問題を質問して、先輩方とても分かりやすく優しく教えてもらって、解けるようになりました。
- ・チューターの方が優しくわかりやすく教えてくれるので分からないものも質問しやすかったです。
- ・問題も分かりやすく教えてくれたし、大学生活についても教えてもらったので良かった。
- ・分からないところを、とてもわかりやすく教えてくれて、この三日間ですごく成績を伸ばすことができました！



① 統計学基礎講座 2/15 の感想

- ・家で予習復習に取り組みたい。難しくついていくのに精一杯でした。
- ・難しかったけど、チューターのおかげで楽しく学べた。知識が深まった。

- ・わからない問題を今まで諦めてたけどチューターさんに教えてもらって理解することができ、数学の楽しさを知ったのでよかった。
高校の授業と違ってチューターもいるのでわかりやすかった。
- ・数学は得意じゃ無いけど、チューターの先輩が教えながらやってくれたので出来た
- ・数学とか計算は少し難しかったけど、グループの人と話し合いながらやったり、学生の方に教えてもらったりしながらだったので楽しかった。解ける問題が増えたので良かった。予習が必要なことが分かりました。
- ・自分の苦手な問題を見つけることが出来た。チューターが1対1で教えてくれるので、とても分かりやすかった。
- ・内容が難しく理解するのが大変でした。ですが、前よりかはできることが増えたので良かったです。復習や予習を頑張ってみようと思いました。

② 統計学基礎講座 2/16 の感想

- ・わからない問題が解けるようになった。今日は昨日よりついていけた気がします。
- ・たくさん計算して答えが出た時にとても嬉しかったです…家でも予習、復習を継続できるように頑張ります。
- ・昨日帰ってから予習をしたので、今回の内容がよく分かったと思う。年齢算も苦手だったけれど、朝の復習やチューターの方々に教えてもらい、自分でなにが分からなかったのか、どのようにすれば解けるのか理解することができた。
- ・昨日よりもできることが増えたので良かったです。復習予習頑張ろうと思いました。
- ・少し難易度が上がったが、置いていかれないように予習復習をしっかりしていきたい。
- ・昨日より難しかったけど、言葉の意味を理解して解くことでより解くことが出来ました。
- ・復習することが大切だと思うので今日は家に帰って復習や予習を行いたいです。
- ・講義が始まる前に復習をしたのである程度わかった。次回は総テストがあるので復習してくる。・共分散や四分位数、相関係数について学ぶことが出来て良かった。また、自分の課題が年齢算であることに気付くことが出来た。チューターの方がわかりやすく教えてくれて楽しかった。
- ・今日の項目は少し難しかったけど、できた時の達成感はずごかった。
- ・初日にできなかった問題ができて、達成感が味わえたのでよかった。
- ・昨日出来なかった、共分散や年齢算が解けるようになりました。
- ・今日やる講義の予習をしていたから、授業をスムーズに受けることができたので、予習復習を続けたいと思いました。



③ 統計学基礎講座 2/17 の感想

- ・テスト①は自分が思っていたよりも解けたと思います。②は応用の部分ができませんでした。でもこの講座で習った基礎はできたので良かったです。みんなの前で感想を言うのは緊張しましたがいい経験になりました。
- ・テスト前の自習の時間に、苦手だった年齢算をチューターに教えてもらい、克服することが出来たのでよかった。
- ・今まで勉強してきた内容のテストをして、最初にやった診断テストの時より解けたと思っています。でも、2回目の応用問題はまだまだ理解が足りなかったなと思いました。この3日間で教わった年齢算や損益算、分散、標準偏差の内容をまた復習して4月の初めのテストに向けて勉強したいと思います。学習に対する意欲がとても高まった。
- ・テストの内容は難しかったが、自分で勉強する力や考える力が講座を受ける前よりはついたと思う。
- ・この三日間で学んだことの集大成としてテストを行なって、初日に行ったテストよりも、自分の点数が格段に上がり、最初の自分よりも成長していることがわかって、嬉しかった。チューターの人たちの教えがうまくて数学が楽しかった。
- ・4日間の総まとめで、1日目分からなかったもの、できなかったものを今日解いてみてできるようになっていた。それが今回の講義の1番の収穫でした。また、それに加えて勉強に対する意欲が増すのを感じた。
- ・先生やチューターの説明や解説がとても分かりやすく、分からなかった所が意味を理解して解けることができた。

◆ チューターの振り返り

1・教材について

- ・短時間で行わなければならないため、どうしても内容が多く感じてしまうが、自主学習をすることを前提に考えればちょうどいい問題数だと思った。人によっては基礎的な知識が乏しい人もいたため、レベルも優しめで良かったと思う。ある程度できる人でも初めて目にするような問題が多かったと思うので、有意義な内容であったと思う。
- ・内容が多く、チューティングの時間が足りないと感じました。しかし、予習や復習といった自己学習を行う際に、利用出来るといった点は良いと感じました。
- ・演習問題が多かったので、基礎問題と応用問題の両方をアプローチできたと思った。
- ・問題数が多いと感じた。しかし、家での自宅学習に活用している高校生もいた。
- ・取り扱う分野が多く、十分なチューティングが行えなかった。

2. チューティングの感想

- ・複数対1人という形でのチューティングは、あまりしたことがなく、学生の能力に差があったりもして、難しかった。質問してくれるチューターに関してはやりやすさを感じるが、聞くことを恐れ、こちら側からアプローチをかけなければ支援できない場合はかなりしんどいと感じた。ただ、話しかけたら返事や質問をしてくれるため、そこに関しては良かった。
- ・グループによって学力差があり、グループに差が生まれていたのではないかと感じた。また、1人で3~4人を担当するというのは難しかったが、とてもいい経験になったと思った。生徒自身から質問してくる事がほとんど無かった(生徒自身がどこを理解していないのかを理解していない)から、自分から相手の考えを引き出すことの大切さと難しさを感じた。
- ・積極的に質問してくれる学生と、質問したりしないと話してくれない学生もいた。積極的に声かけを行ったり、合っている部分で褒めるような声かけをすることで、生徒も質問してくれるようになったため、声かけの大切さを感じた。
- ・人と一緒に問題を解くことが苦手な学生もいたので、1人だけ個別にさせてあげるか、どうか戸惑うこともあった。
- ・高校生と適切な距離を保ちながら、高校生が自主的に学んだり、ピアラーニングしたりなどをチューティングを通して促すことが重要だと思いました。また、相手に応じたベストなチューティングをすることは難しいが、それができるように工夫し、レベルの高いチューティングを目指すべきだと改めて感じました。
- ・上手な時間の使い方ができず、ファシリテーションスキルが全然足りてないと感じた。今後のためにも、チューティングスキルのみならず、そのような部分も高めていく必要がある。
- ・1人で4人をみることはとても難しく感じた。学力の差や性格などによって対応を少しずつ変えていくのも難しく苦戦したところもあった。

3. 高校生の意欲や態度等で気になる点

- ・意外と分散や標準偏差、相関係数といった高校で学んだ知識を忘れていた生徒が多いと感じました。また、計算ミスといったケアレスミスをしている生徒が多いと感じました。
- ・教えられる範囲に限度があった。人と一緒に問題を解くことが苦手な学生もいたので、1人だけ個別にさせてあげるか、どうか戸惑うこともあった。タメ口が当たり前のような子がいて少し気になりました。
- ・質問した時に積極的に答えてくれる学生と答えない学生の差が結構あった。また早く解き終わって、できている学生に隣の子に教えてほしいという、積極的に教えて学び合うことが出来ていた。
- ・意欲的に質問してくれる学生と、わからない問題があると黙って固まっている学生がいて、注意深く見ることの必要性を感じた。また、高校で学習していないSPI問題に関しては、理解度に差がみられた。

2021（令和3）年度 入学前特別講座Ⅱ「英語ワークショップ」報告書

報告者：笠村淳子・タンエンハイ・渡慶次正則

2021年2月15日(13:00～16:00)・16日(13:00～16:00)の二日間にわたり、令和3年度入学前特別講座英語ワークショップを対面のみで開催した。以下はその報告である。

1. 目的：英語ワークショップは以下の3つの目的をもって実行された。

- (1) 新入生の必修科目であるベーシック・イングリッシュおよびイングリッシュ・コミュニケーションに備え、実際に英語だけを使用する活動を提供する。
- (2) 在学生である言語学習センター（LLC）チューターが中心にワークショップを実践することで、先輩後輩の関係を構築し、ピア・ラーニングの経験を提供する。
- (3) 活動内容を本学の情報を得る機会とすることで、入学前の知識と心構えを支援する。

2. 計画と参加者：在学生を起用することで、先輩と後輩とのつながりを確保し、入学後の支援体制を強化することを意図した。

(1)指導教員：タンエンハイ准教授・笠村淳子准教授・渡慶次正則教授（LLC長）

(2)学生チューター：LLCチューター5名

(3)計画および実践

(ア) 活動内容準備

(イ) 前回と異なり、活動はすべて教員が準備し、チューターが実践できるように彼らにトレーニングおよびリハーサルを実施した。

(ウ) 昨年度の特別講座英語ワークショップで実際に応用した活動に変化を加え、さらに英語コミュニケーションを活性化させる活動に修正した。

(エ) 目的1にあるように、活動はすべて英語で行うため、今回の活動に運用するチューターは事前にそれを可能にできる人材を厳選した。

3. 結果

高校生参加人数：

1日目（2/15）：41名

2日目（2/16）：39名

*すべて対面で参加



写真
講座の様子

アンケート結果：

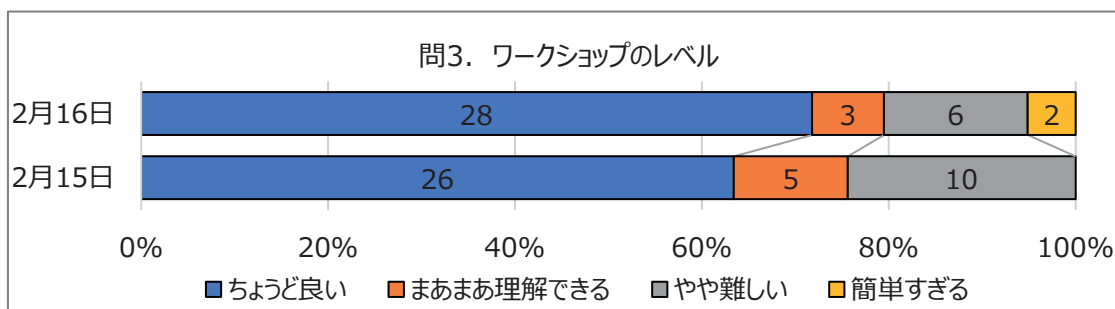
問1. ワークショップの時間の長さについて、両日とも約80%の参加者が「ちょうどよい」と回答し、「短すぎる」あるいは「ちょっと短い」と回答した参加者は12～15%であった。このことから、ほとんどの参加者は、活動に楽しく参加できたことが伺える。

	短すぎると感じた	ちょっと短いと感じた	ちょうどよい	ちょっと長いと感じた
2月15日 (n=41)	4人 (9.8%)	1人 (2.4%)	33人 (80.5%)	3人 (7.3%)
2月16日 (n=39)	4人 (10.3%)	2人 (5.1%)	30人 (76.9%)	3人 (7.7%)

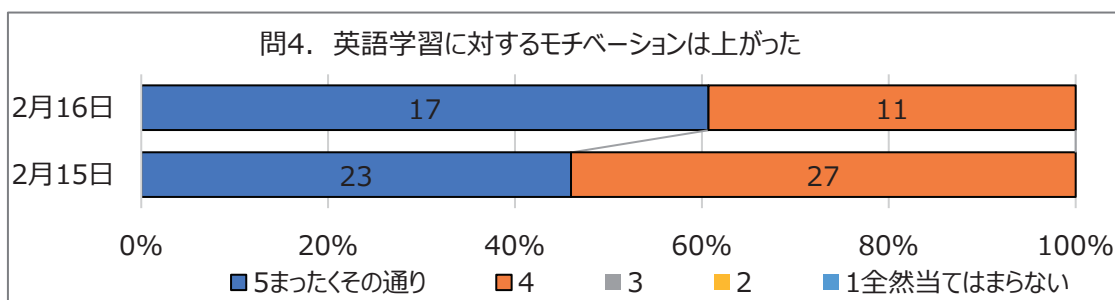
問2. ワークショップの内容について、両日ともほぼ全員が「とても満足」あるいは「やや満足」と回答し、全体的に高評価な結果となった。

	とても満足	やや満足	どちらとも言えない
2月15日 (n=41)	36人 (87.8%)	4人 (9.8%)	1人 (2.4%)
2月16日 (n=39)	33人 (84.6%)	6人 (15.4%)	0

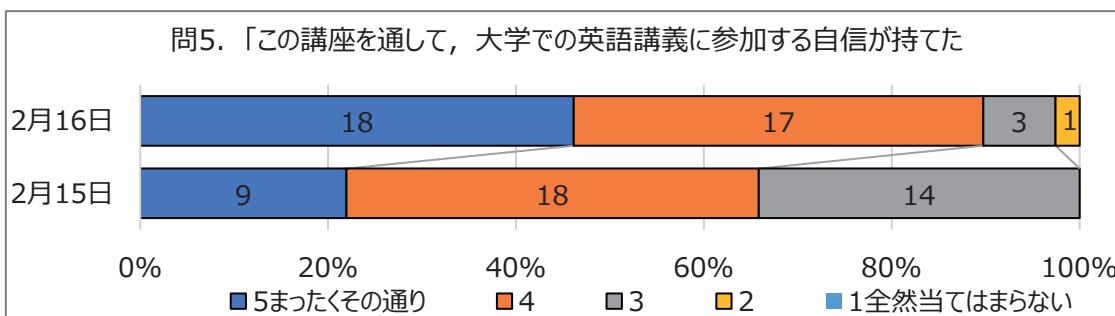
問3. ワークショップのレベルについては、67.5% (54名) が「ちょうど良い」、10% (8名) が「まあまあ理解できる」と回答しており、2.5% (2名) が「簡単すぎる」と回答し、20% (16名) は「やや難しい」と回答した。参加者のレベルに違いがあることが見える。



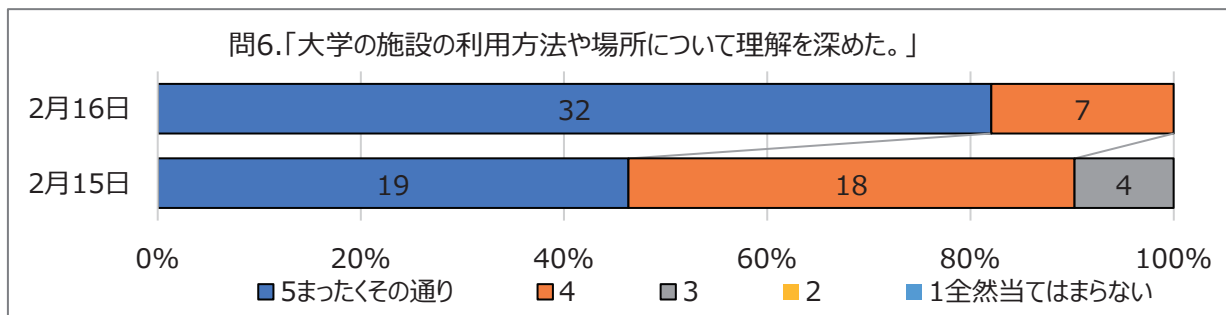
問4. 「受講前と受講後のわたしの自身の英語学習に対するモチベーションは上がった。」に関しては、ほとんどの参加者が英語学習に対してモチベーションが上がったと回答した。



問5. 「この講座を通して、大学での英語講義に参加する自信が持てた。」については、2日目に英語講義参加への自信を増した回答が増えた結果となった。こちらの回答についての否定的な回答は無かった。特に2日目に自信を持つ学生が増えているが、同時に自信を失ったかもしれない参加者が1名いた。



問6. 「この講座に参加して、大学の施設の利用方法や場所について理解を深めた。」この質問は、活動目的3についての効果を図るための質問であるが、2日目の活動に大学内の施設について知るゲームを用いたため、特に2日目はほぼ全員が理解を深めたと感じている。



問 8. 「LLC チューターとの交流を通して、大学生活に対する自身の見方に影響がありましたか。」という問いに関しては、記述式を設定した。全体的に、楽しく活動に参加し、英語を学ぶことは実は楽しいという実感を得られたコメントが多数（34 件）あった。また、学習センターが設置されていることで、学業で困ったことがあれば利用したい（15 件）や英語を使いこなすチューターたちを見て感動した（8 件）ことおよび他の学生と学び合えたことがよかった（6 件）との回答があった。その他に英語で会話する価値を見出したり、入学後の不安が軽減したとのコメントがあった。

問 9. 「自身の振り返りとして、参加してよかった（あるいは学びになった）と思うことは何ですか。」のコメントには、間違ってもコミュニケーションをとろうと積極的に努力することの大切さに気づいたとのコメントが多くあった。また、一緒に入学する他の学生と交流できたことや実際に英語で会話する機会が持てたことが学びとなったとのコメントがあった。

4. 考察

ここでは主に、ワークショップの3つの目的の達成度について考察する。

目的(1)に関しては、実践者となったチューターたちに自己評価として「どのくらい日本語を話しましたか」という問いの回答を求めた。1名のチューターは、完全に英語のみで対応したと回答し、残り4名は日本語を全体の20%ほど話したと回答した。その理由として、参加者が英語の理解に困っていると感じた場合、日本語の説明を加えることがあったとのことであった。「すべて英語のみで活動を進める」ことが目的だったことから、こちらの目的は100%達成とはいいがたいが、80%は達成できたのではないだろうか。今後は、すべて英語で対応するためのトレーニングとリハーサルが必須であると感じる。今回はそれらの時間確保が難しい状態であった。

目的(2)の先輩後輩の関係構築およびピア・ラーニングの経験については、問8コメント結果からわかるように、多くの参加者がチューターに親しみを覚えると同時に、ロールモデル的な役割を果たしているコメントも見られた。ピア・ラーニングについては、同級生との学び合いの交流を経験し、もっと頑張りたい気持ちが増したことがわかる。こちらの目的もほぼ果たしている。

目的(3)の大学の施設を知ることで、入学前の知識と自信を増すことについては、アンケート回答結果からもわかるように、ほぼ全員が活動で提示された施設を知ることができ、そのことで入学前の不安が軽減したようなコメントも見られる。それらのことから、こちらの目標もほぼ達成できていると考える。

今回のワークショップは、全体的に参加者の英語に対するモチベーション向上と大学の施設、特に学業における支援を受ける場所について情報を提供することで、入学後自信を持って英語学習に臨める心構えを備えることに重点をおいて実施した。その点からは、成功だったと言えるのではないだろうか。

5. 今後の課題

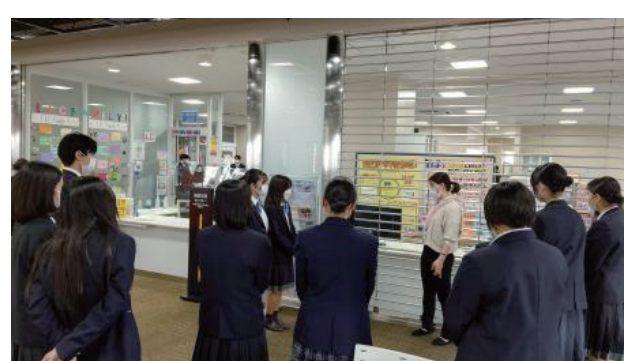
今回は、英語に対するモチベーションや学内の学生（学習）支援の環境を知ること、参加者が入学後、安心

して意欲的に語学学習に取り組むきっかけを与えることが主な目的であった。数学のように、事前事後の確認ができるような講座にするためには、一つの単元、例えば「関係代名詞」を取り上げて、それについて英語で説明する、などの方法を用いるべきかと考える。次回は、集中した言語学的な側面の英語学習体験を組み入れた活動を準備することで、入学後、参加者がさらに自信を持って実際の講義に臨む支援を考える必要があるだろう。それを踏まえうえて、今回の「会話」中心の活動を導入し、参加者が英語を学ぶ意義について実体験できるワークショップの実践を工夫する必要があるだろう。

参加者のコメント（抜粋）

- 今まであまり英語に興味を持たなかったが、LLC で色々教材があったり、英語で名桜のことについてより知れたのでよかったです！
- すべて英語で会話していてカッコよかったです。日本にいるのに色々な人と交流できたり、いろんな言語をきくことができるのがいいと思いました。
- 勉強とか追いつけるか不安があったけど、LLC などがあるおかげで頑張れると思いました。
- 英語は苦手意識があったけど、チューターの人達と英語で会話したりすることで、とても楽しめました。
- 学生同士で助け合うのがいいなと感じましたし、気軽に分からない所とかを聞けるのはとても気が楽になりました。
- 参加していなかったら、英語を話すことにとても抵抗があったと思います。2日間参加して、英語を通して人と話すことが楽しいなと思えました。
- 英語では自分から積極的に行動して英語を喋ることの大切さを学んだ
- 知らないことを知ることができた上に、自分で少し文を考えることができた。続けることで大いに実力向上に繋がると思った。

以上



2021（令和3）年度入学前特別講座Ⅱ（ライティング講座）報告書

1. ライティング講座の概要

ライティング講座の概要	
日時	2022年2月17日（木）13:00～15:00
目的	① 高等学校で取り組んできた小論文と、大学で求められるレポート・論文との違いについて理解する。 ② ライティングスキルを磨く意義について理解する。 ③ ライティングセンターでの支援内容について理解する。
内容	① 小論文・レポート・論文の違いについて ② レポート・論文作成の基本ルールについて ③ 剽窃・盗用・盗作について ④ ライティングスキルを磨く意義について ⑤ ライティングセンターの支援体制について

2. ライティング講座の成果と課題

ライティング講座の成果としては、入学後の必修科目である「アカデミックライティングⅠ」の内容の導入を提供出来た点にある。特に、高等学校で取り組んできた小論文と、大学で求められるレポート・論文との違いを中心に講座を実施した。その他、レポート・論文の基本ルールや剽窃、さらには、ライティングスキルを大学で磨く意義について説明を行った。今年度より、理解度テストを〇×方式で実施し、結果は以下の通りである。

<理解度テストの結果 〇×で回答>

	質問項目	正解率
1.	レポートは、敬体（です・ます調）で書くことが望ましい。	97.7%
2.	レポートでは、こそあど言葉を極力避ける必要がある。	100%
3.	レポートでは、読み手の関心をひくため、体言止めを使用することが望ましい。	97.7%
4.	教員が書いた本や論文をレポートで用いる場合には、失礼のないように敬称・敬語を用いる。	93.2%
5.	レポート・論文では、剽窃・盗用を絶対に行ってはいけない。	100%
6.	ライティングスキルとコミュニケーション能力は、関係がない。	100%
7.	これまでの時代と比較して、ライティング能力が求められる時代になった。	100%

【考察】

レポート・論文では敬体を用いないこと、体言止めをしないこと、敬称を用いないことを資料を用いて説明したが、数名の生徒は理解していない点が浮き彫りになった。一方で、多くの生徒は7問すべてに正解した。

今年度より、センター長がライティングセンターやチュータリングの説明を行うのではなく、チューター学生に役割を担ってもらった。受講生にとっても非常にわかりやすく、工夫をこらしたプレゼンテーションであり受講生からも好評であった。

<受講者の感想>

- ・大学に入ってライティングの技能を頑張っていきたいと思いました。
- ・今まで胸を張れるほど努力してきてないので、もっと頑張ろうと思いました。
- ・大学でのレポートの書き方などについて少しだけわかった気がする。自分はレポートとか文章を書くのが苦手なのでライティングセンターを利用したいと思った。
- ・自分自身、文章化する事が苦手なので基本的なルール等を知れてよかったです。
- ・小論文とレポートの違いを理解することができ、今後の大学生活で活かしていきたいと思いました。・あまり覚えていない。
- ・ライティングは努力すればするほど報われる事がわかりました。
- ・レポートの書き方や小論文との違いなど、詳しく知ることができてよかった
- ・これから必要になってくるライティング能力がどれだけ大切か理解することができました。・レポートを書いて課題提出するためだけでなく、社会にでていくなかでもどんな場面でも必要になってくることがわかった。"
- ・文章はしっかり学べば、書けるようになると分かったので、ライティングセンターなどを活用していきたい。
- ・これから大学生になって書くレポートや論文のイメージができた。
- ・ライティングの大切さを知った。努力に勝るものなし。
- ・努力して恥ずかしい思いをしないようになりたい
- ・自分自身でレポートを書き上げるのはとても難しいので、ライティングセンターに通って少しでもいいレポートをかけるようになりたいです。
- ・大学のレポートや社会にでてでもライティングスキルは必要になるので身につけていきたいと思った。小論文は苦手なタイプだけどレポートなどはしっかり力をつけていきたい。
- ・大学生活が始まるとレポートや論文を書く機会が増えます。その時に書き方がわからないままだと単位を落としてしまったりいい文が書けないことになります。そうならない為にもライティングセンターを活用するなどして、自分のライティングの力をつけていきたいです。
- ・印象に残ったことは、コミュニケーションスキルとは、自分から話しかけるしゃべりがうまくなるのではなく、人が話しかけたくなるようなスキルということです。社会に出たらとても重要になってくるスキルなので、大学生活を通してしっかり身につけていきたいと思いました。
- ・高校で習った小論文と今からやるレポートの違いを知ることができた。入学後はライティングセンターを積極的に活用して、自分の文章力を高めていきたい。
- ・書くことに関して自信がないのでライティングセンターなども利用しながら自信をつけたい。
- ・小論文とレポートの違いを知ることができたので良かったです。自分は文章を書くのが苦手なので困った時とかは、ライティングセンターを活用したいと思います。
- ・プレゼンが面白かった！
- ・ライティングは大学で大事なことだと改めて知った"
- ・レポートや論文の書き方について、あまり知らなかったので講座を通して書く時のルールなどを知れて良かった。自分のためになったと思う。
- ・正直自分自身ライティングには自信はないけど、ライティング努力すれば報われると聞いたので、これから入学後も頑張っていきたいと思いました。
- ・大学に入ると、レポートや論文があるが、小論文とは全然違うことを学びました。看護ではレポートや論文を書くことが多いと聞きますが、文章書くのは苦手なのでライティングセンターを利用して、自分の意見を言葉で書けるようになりたいです。
- ・ライティングの力はこれからの社会で重要になる力の一つだと感じた。まだライティングがコミュニケーション力にもつながることに驚いた。ライティングセンターも入学後は利用していきたい。
- ・文章力とかに自信がないので恥ずかしがらずに MWC を利用して努力していきたいと思った。

- ・文章を書く力はどんな仕事でも求められると思う。大学 4 年間でしっかりみにつけたい。
- ・みんなここからの努力次第で上に行けると聞いてやりがいを感じた。
- ・私は文を書くのに自信があまりないのですが、この講座を受けて努力すればするほど上手くなっていくんだと知りました。
- ・自分は文章を書くことが苦手だけど、大学入学後にライティングセンターで自分のライティング能力を伸ばしたいと思いました。
- ・大学に入って書くレポートと小論文の違いについて知ることが出来た。また、論文では常体を使用することや敬称、敬語を使用しないなど論文の基礎的な知識を知ることが出来て良かった。
- ・小論文とレポート・論文の違いを知ることができ、レポートや論文の難しさを理解することができました。
- ・文を書くことが苦手なため、積極的に利用していきたいと思った。ライティングセンターの役割も理解することができたので良かった。
- ・今まで書いたことのないレポートに対して、大学生活が不安でしたが、基本ルールをしっかり教えていただき、ライティングはコミュニケーションにつながる、努力した分だけ上手になると知ることができたので、大学生活の為にも社会人生活の為にも今後も習得していきたいと思いました。
- ・小論文とレポート、論文の違いを学びました。大学では必ず出されるレポートや論文ですが、行ってはいけないこととルールを学んだので、忘れずに課題に取り組んでいきたいです。
- ・レポートの書き方は全然わからなかったので今回書き方や引用の仕方を知ることができて、良かったです。語彙力がないので入学後、本を読んだり、チューターのみなさんに教えてもらいながらライティング力を高めていきたいと思いました。
- ・レポートや論文を書くことは、色々な決まりもありとても難しいのかなと思ったけれど、大学入学後に、自分でライティングセンターを積極的に利用するなど、書く能力を上げるために、自分から動いて、他者が納得できるようなレポートを書こうと決めた。
- ・高校よりも大学で求められるライティング力は格段と上がっていることが分かった。今日学んだ内容を理解して、入学後は MWC 等を活用してライティング力のスキルアップに取り組みたい。
- ・ライティング＝コミュニケーションスキルだという発想は今までなかったので大変勉強になったし、私たちが社会人になった時にますます書くことが必要になってくると聞いて、大学入学後は、積極的にライティングセンターを利用して自分のスキルを磨きたいと思った。

多くが肯定的な回答であったが、1 名の受講生から「あまり覚えていない」という回答があった。次年度はさらに、受講生が理解出来る内容に改善する必要がある。



写真 1 当日の講座の様子



写真 2 MWC チューターのプレゼンテーションの様子

報告：ライティングセンター長 大峰 光博

2022（令和4）年度 入学前特別講座Ⅰ 報告書

2023（令和5）年2月13日（月）、名桜大学学生会館 SAKURAUM3 階大講義室Bにおいて、2023年度名桜大学推薦型入試合格者（北部地区県立高等学校の在學生）57人を対象に「入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ」を開催いたしました。本講座は、高大接続の取組として、2018年度から開催し今年5回目を迎えました。Ⅰ・Ⅱの講座は本学のリベラルアーツ機構主催で、「①入学前後の学びのイメージギャップを小さくする。②高校と大学の接点を増やすことで学習意欲を高める。③入学前後の学びの意識改革を促す。④入学前の準備学習と学習習慣を維持する。」ことを目的として行われています。

高校教育から大学教育への接続において、①入学前後の学びのイメージギャップを小さくすることがより重要だとされています。4月から始まる学生生活を有意義に過ごすために、現在の目標を明確にすることは極めて重要です。そのことを実感している先輩学生との入学前の交流は貴重な体験となります。本学の学生団体「ウェルナビ」が交流会を企画し、北部地区出身の先輩学生も加わりゲームや情報交換等の交流会を行いました。その中で、③先輩学生たちが経験した高校と大学のギャップについてアドバイスをを行い、大学生活に向けての期待や目的意識を高めるという成果が期待できます。また、大学の準備学習も必要であり、引き続き実施される「入学前特別講座Ⅱ」の基礎資料として診断テストを実施し、数学と英語の講座で入学前の準備学習をし、その学習習慣を維持させることがねらいです。

さらに、大学の授業体験（ライティング講座）は、入学後の初年次教育の先取りとして「小論文とレポート作成の違い」について講座で学ぶというメリットがあります。13日は54人の参加（参加率94.7%）があり、入学前の大学での有意義な学びができたようです。4つの目的とその目的を達成するための目標を共有してスタートいたしました。



写真1 リベラルアーツ機構長による講座の主旨説明



写真2 交流会の様子



写真③ 学習センターの紹介

◆ 受講者の感想より

- ・大学の特色などについて知れたと共に、安心して入学の準備を進められると感じた。
 - ・自分の知らないことや大学のことについて、学ぶことができたのでよかったです。交流する機会もたくさんあり楽しかった。
 - ・大学入学後の目標を立てることの必要性、どのような大学生活を送っていくかを考えるきっかけになった。
 - ・大学生になるためにどうしたらいいのか、大学と高校の違いも知れたので、入学してからスムーズに出来るようにしたい。
 - ・仲のいい先輩の姿が見れて4月からの学校生活が楽しみです！
 - ・知ってる人も少なく、不安が大きかったけど、交流会を設けてくれてすごく肩が軽くなりました。大学生活の楽しそう。
 - ・基礎学力テストを通して、自分の基礎学力の課題を見つけることができた。参加してよかったと思う。
 - ・参加してなかったら先輩方との会話もなかっただろうし、同級生との繋がりも難しかったと思う。
 - ・数学・英語の基礎力診断テストを通じ、たくさんの課題点を見つけることができました。次はこの課題点を明日からの三日間で、または自己学習でどう解決していくか、克服するかを考えて勉強していきます。
 - ・これからの大学生活において、積極的な声かけ、コミュニケーション能力はとても大切になっていきます。私も受け身ではなく、この方を見習ってたくさんの方々とコミュニケーションをとるようにします。
- 明日から実行していきます。

◆ライティング講座



写真④ ライティング講座の様子

ライティング講座の受講者の感想より

- ・これから大学でさらに書く機会が増えるから、ライティングスキルを身に付けていきたいと思いました。
- ・小論文とはまた違ったものを1から作るとなると、違った勉強も必要になるので頑張ります。
- ・高校までで習えなかったことが端的にかつわかりやすく述べられていてとても良かったです。
- ・あまり成績が良くないけど、書くことを求められている時代らしいので、レポートのルールとかを学んで、レポート力をつけたいです。講座を受け教養がついた気がしました。
- ・学力が低くてもライティングは努力すればするほど伸びると聞いて頑張ろうと思った
- ・これから大事になってくる論文やレポートのことについてためになることを沢山聞けたので良かったです。
- ・高校での小論文と、大学でのレポートや論文の違いを知ることが出来ました。難しそうだなと思いましたが、努力したぶん上手になると聞けたので、頑張りたいと思いました。
- ・書くことが苦手だけど、やっていく事でできるようになると知って良かった。
- ・レポートを書く時に何が良く何がダメなのかを知ることができ、今後活かしていきたいと思った
- ・ライティングは努力が実りやすいという言葉を教えて下さってとてもやる気になった。
- ・今までレポートや論文の書き方等を学んだことがなかったのでとても学びがありました。今後活かしていきたいと思えます。とても分かりやすく、入学後の講座が楽しみになりました。
- ・高校の時の小論文とレポート、論文は全然違うものだとなりました。大学入ってレポートとか書く機会があると思うので今日のことを意識して書いていきたいです。
- ・レポートや論文は努力した分だけ上手になると知り、安心とやる気が出てきた。

◆ 交流会に参加した北部出身学生のコメントより

- ・新入学生の不安な点は、勉強についていけるか分からないと言っていました。高校と大学ではやっぱり、何かしら違うことは把握してる様子でした。あと、今日は北部の学生だけでしたが、中南部や県外の学生と交流することへの不安も見受けられました。まだ入学してないせいか、何が不安で、疑問点か分からなそうな感じの生徒もいました。終始緊張してる人もいれば、意外と打解けるの早い人もいました。
- ・入学した時期は、ウエルナビの学生などのサポートが必要だと思います。今日の不安要素を踏まえて授業の組み立て方を中心に細かく指導していく必要があると思います。後は、なるべく学生同士触れ合える時間を授業以外に作ってあげると後々の大学生活楽しくなるのかなと思います。いい交流会でした。継続していけるとすごく新入生は心強いと思います。

いつも協力していただいている新入生支援ボランティア「ウエルナビ」の皆さんや北部の先輩学生のご協力で、充実した時間を共有することができ、講座の目標は達成できました。入学後のサポートもよろしく願いいたします。

報告 2023年2月2日(月) リベラルアーツ機構

2022（令和4）年度入学前特別講座Ⅱ 報告書

2月13日の「入学前特別講座Ⅰ」に引き続き、2月14日から3日間「入学前特別講座Ⅱ」を、名桜大学学生会館6階スカイホールAで開催いたしました。「入学前特別講座Ⅱ」の目的は、「①入学後の学習が円滑に進められるよう、入学までの準備学習を行う。②学習に取り組む意欲を喚起し、入学前・入学後の自律的な学習習慣を維持させる。③ピア・ラーニングを体験させ、入学後の学習センターの活用を促し、主体的な学びに繋げる。」ことです。

講座は、13日に実施した診断テストと最終日16日の達成度テストの結果を比較し、基礎力の向上、苦手意識の改善に繋がることを目指した学習計画の下、3日間とも午前の部「統計学基礎講座」、午後の部「英語講座」の日程で行われました。生徒同士や学生チューターとの貴重な交流や情報交換により、その後の主体的な学びと、自律的に目標を立てて学習を習慣化させることができるようにと願っています。

以下に講座Ⅰ・Ⅱの振り返りを通して、4日間の成果と課題を見ていきます。

表1は4日間の出席状況です。未だコロナ禍でありインフルエンザの感染による欠席者も多いのではないかと懸念もあり、オンライン対応の準備も進めていました。体調不良による欠席者もいましたが、全て欠席した生徒は一人もなく、4日間で実施した3科目7講座への皆出席者が50人（87.7%）となり1回以上の出席率は100%でした。

表1 参加状況：参加数（参加率）3日間皆出席者：50人

	ライティング講座	統計学基礎講座	英語講座
13日(月)	54人(94.7%)		
14日(火)		56人(98.2%)	57人(100%)
15日(水)		57人(100%)	55人(96.5%)
16日(木)		55人(96.5%)	52人(91.2%)



写真 閉講式の様子

入学前特別講座Ⅰ・Ⅱの目的を達成するために4日間の目標として3つの柱を設定し、さらに9つの評価項目（表2）を設定し、初日の①開始前・②終了時・③二日目終了時・④3日目終了時・⑤4日目終了時の5回の自己評価を行いました。表2は5回の評価を行った受講生49人の分析結果です。

表2 2022年度入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ 教育効果の分析結果（n=49）

到達度目標		開始時	1日目	2日目	3日目	4日目
1. 入学後の目標を明確にする	①大学生活での目標を明確にすること	3.29	4.00	4.06	4.31	4.55
	②卒業後の目標を明確にすること	3.57	3.76	3.94	4.20	4.29
2. 大学の学びへスムーズに移行できるように準備する	①高校と大学の違いを理解すること	3.29	4.57	4.47	4.55	4.76
	②名桜大学の特色を理解すること	3.71	4.39	4.39	4.47	4.71
	③自らの学習課題を理解すること	3.27	3.98	4.37	4.41	4.59
3. 入学前の準備学習(基礎力養成)	①高校までの学習を復習すること	3.00	3.41	4.10	4.18	4.43
	②大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること	2.76	3.53	3.90	3.90	4.24
	③大学で学ぶ意義を理解すること	3.57	4.35	4.37	4.53	4.78
	④入学までの間、学習習慣を維持すること	2.96	3.78	4.04	4.18	4.43

[考察] 開始時より最終日の自己評価が高くなっているのが分かります。初日に最も高かったのは名桜大学の特色を理解するとなっており、受験の際に本学を理解する努力をしていたことが窺えます。その後もさらに上がっています。最終日に最も高くなっているのは、大学で学ぶ意義を理解することとなっており、今回の入学前特別講座の成果と言えると思います。最も大きな変化が見られたのは、大学で専攻する分野の基礎力を身に付けることでした。

2022 年度入学前特別講座 I・II 教育効果の平均値の分析結果 (n = 49)

自己評価 5:かなりできている, 4:まあまあできている, 3:どちらとも言えない, 2:あまりできていない, 1:全くできていない

※グラフは平均値, エラーバーは 95%信頼区間を示している。

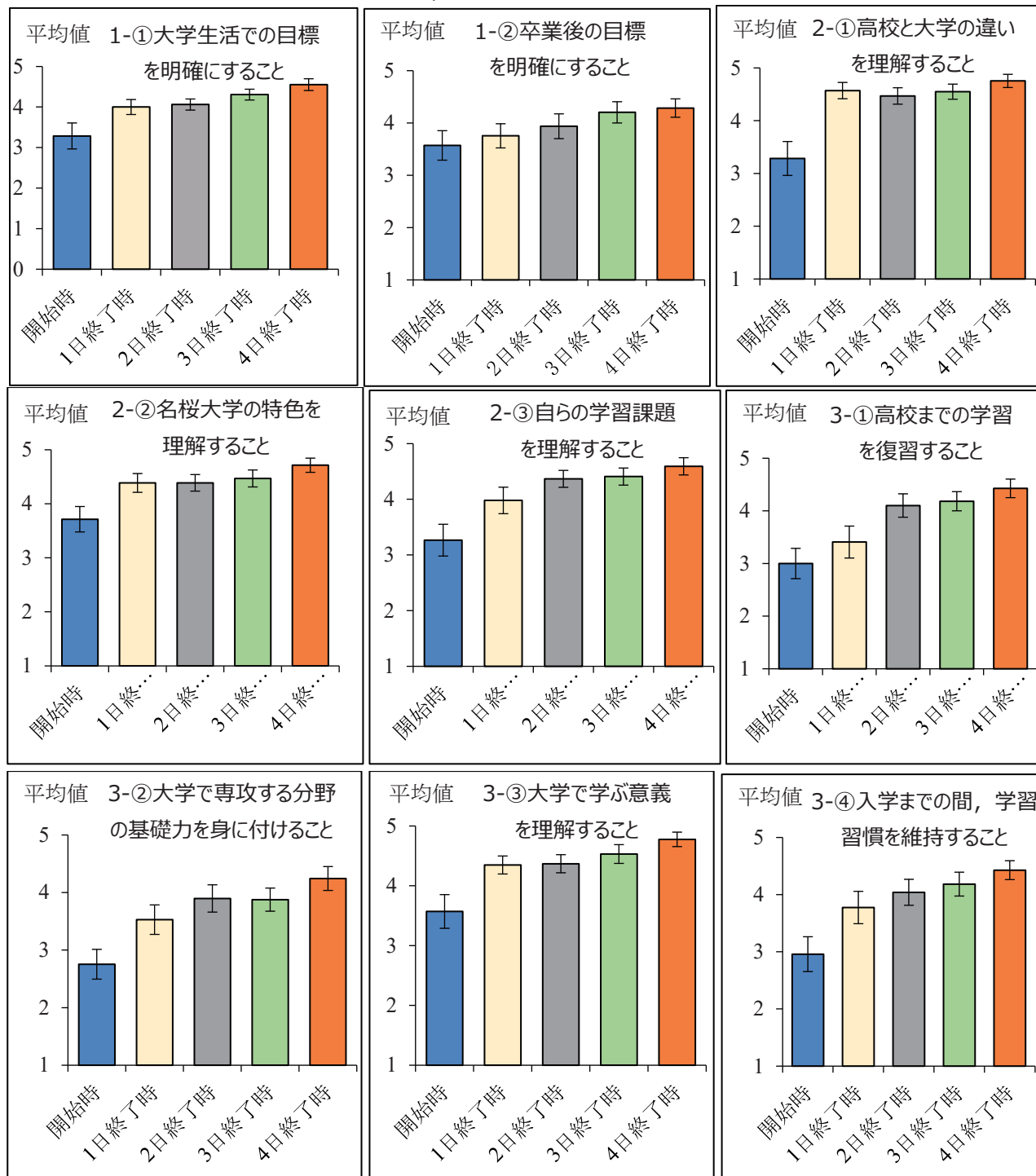


図 目標達成の自己評価

この4日間は、長時間に亘る学習が続く慣れない環境のため緊張の連続だったと思います。終了後の感想には、「楽しかった。参加する前よりも勉強に対する意欲がわいたと思う。」という意欲や主体的な学びの契機となるコメントや、「まだ難しいところもあるけど、少しだけ楽しいと感じてきた。」等のコメントがあり、本講座を肯定的に受け止め、最後まで頑張ったことが受講者の自己評価に表れていると思います。今後も「入学前特別講座 I・II」を今後もしっかり取り組む必要があることを再認識することができました。

報告 2023年2月21日(火) リベラルアーツ機構

2022 年度入学前特別講座Ⅱ「統計学基礎講座」報告書

2022 年度名桜大学入学前特別講座Ⅱは、講座Ⅰに続けて2月14日から2月16日の3日間の日程で実施しました。講座Ⅱは、学習に取り組む意欲を喚起し、入学前・入学後の学習が円滑に進められるよう、自律的な学習習慣を維持させることが目的です。そのため、ピア・ラーニングにより苦手な科目にも向き合う体験を通して、やればできるという自信をつけさせ、自らの課題改善に取り組む姿勢を培うことを目的としています。さらに、入学後も学習センターの活用を促し、主体的な学びに繋げることをねらいとしています。

「統計学基礎講座」では、表1の5点の到達度目標を挙げて取り組みました。特に数学の苦手な学生にとって、この5つの目標を達成するためには主体的な学習への取組が必要不可欠となります。そこで、講座Ⅱの初日に、3日間の学習教材「復習・講座・予習・自習問題」のワークシートを冊子にまとめて配布し、学習サイクルの確立を促しました。講座では、何を学ぶのか、一般社会において統計はどのように使われているのか、なぜ入学前学習で統計学基礎を学ぶのか、大学の学びとどのような関係があるのか等を説明して大学の授業のイメージを膨らませ、入学までの準備学習の一助としました。さらに、「平均値、分散、標準偏差、共分散、相関係数」の用語の意味を理解しこれらを求めることができること、さらに説明できることを目指して、一緒に努力して取り組むことを確認しました。

診断テストと達成度テストの結果及び受講者のコメントから、講座の成果と課題をまとめていきます。

表1 「統計学基礎講座」の到達度目標

1. 1次方程式、連立方程式、2次方程式を活用して問題を解くことができる。
2. 代表値、五数要約、箱ひげ図、分散、標準偏差、共分散、相関係数の用語を理解し求めることができる
3. グラフや表を読み取り理解し課題解決に活用することができる。
4. 統計基礎の課題文を読み、与えられたデータを解釈し、解法を思考し解を導き出すことができる。
5. 大学入学後の専門分野を学ぶための基礎力を身に付けることができる。

1. 講座の取組状況

(1) 3日間の出席状況

1日目 56/57人、2日目 57/57人、3日目 55/57人、出席率は98.2%の高い出席状況でした。

(2) 予習・復習の実施状況

表2 予習・復習の実施状況（回答者56人 98.2%）

表3 （テストの正解率%）

実施状況	人数(人)	割合 (%)		診断テスト	達成度テスト
①全体的にできた	30	54.4	①	42.8	63.8
②やったけど全部はできなかった	20	36.8	②	43.8	57.3
③やらなかった or やる時間がなかった	6	10.5	③	37.6	55.0

[考察] 15日の振り返りアンケートの結果から、予習・復習の実施状況について調べたところ表2のようになった。

①予習復習を「全体的にできた集団」は「やったけど全部はできなかった集団」より診断テストの平均正解率は1ポイント低かったものの、達成度テストの平均正解率は6ポイント高くなっている。「②やったけど全部はできなかった」の中には、わからなかったからという理由を挙げている生徒もいたが、解答解説動画も配信しているので、時間をかけて理解をする努力をして欲しかった。また、「やらなかった・やる時間がなかった」と回答した集団は、診断テストでは得点の低い集団であり、達成度テストも低い正解率であることがわかった。基礎力に課題を抱えている生徒は、学習習慣が身につけていないことが予想されるとともに、入学前特別講座は、このような集団の対応が課題であると考えている。

2. 診断テストと達成度テストの結果

表4 診断テストと達成度テストの基本統計量の比較

	受験者数	最小値	最大値	中央値	最頻値	平均値	標準偏差
診断テスト	54人	8点	76点	38点	28点	40.6点	17.9点
達成度テスト	55人	17点	100点	58点	75点	59.0点	21.2点

表5 単元別正解率比較 (%)

	①確率	②方程式の活用	③統計基礎	④2次関数と微分積分
診断テスト	48.6	21.9	52.3	34.4
達成度テスト	60.4	55.3	74.9	32.5

(1) 講座の診断テストと達成度テストの正解率分布の比較

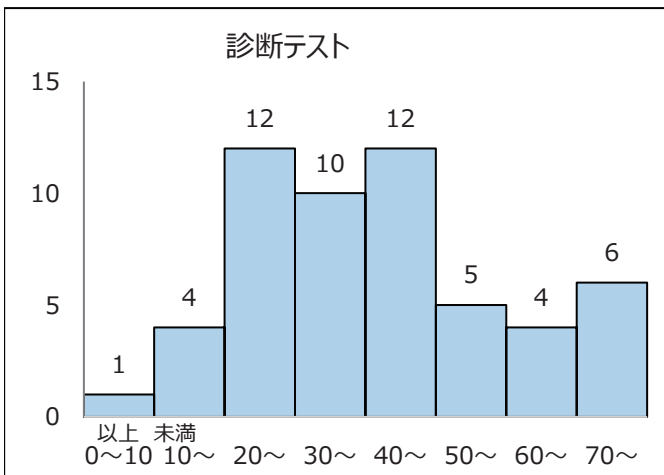


図1 診断テスト2月13日実施

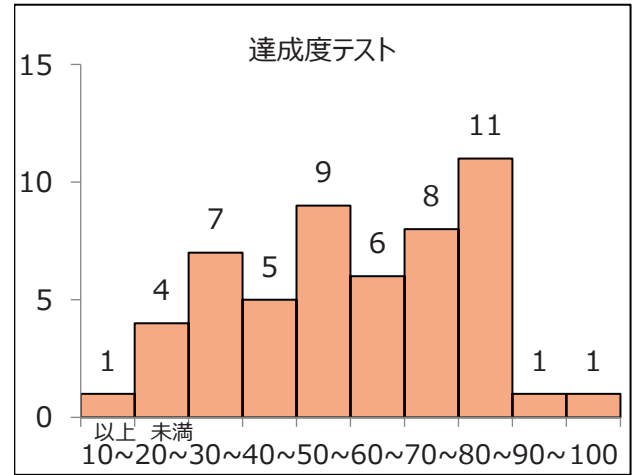


図2 達成度テスト2月16日実施

(2) 診断テストと達成度テストの共通単元を比較

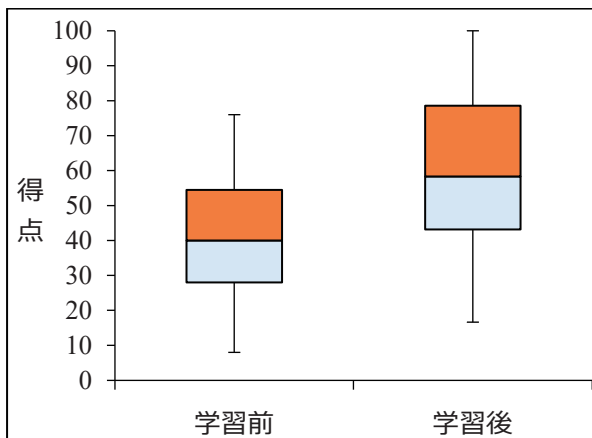


図4 学習前と学習後の得点の箱ひげ図

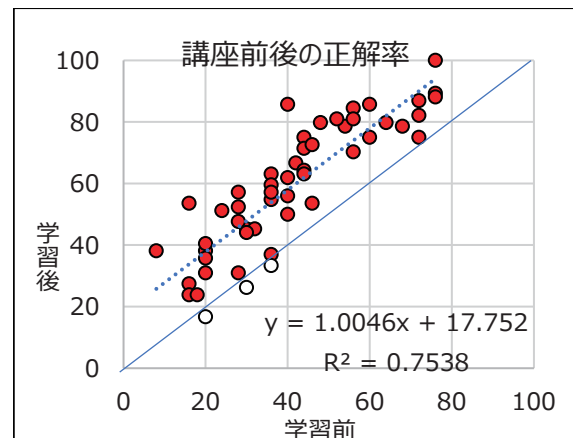


図5 講座前と講座後の正解率散布図

[考察] 上記の表及び図は、学習前の診断テストと学習後の達成度テストにおいて、同じ単元の問題のみを比較した結果である。図6の散布図において●印は講座前よりも学習後に正解率が上がった生徒であり、○印は学習後が若干下がっている生徒である。得点差には有意差があり講座の成果が伺えた。しかし、この成果を定着させるためには、対象学生に用語の理解ができていないことと再復習が必要であることであり、入学後の新入生学力調査でさらなる実態把握に努め、比較分析を行い、さらなる実態把握に努める予定である。

3. 受講者の事後アンケートより

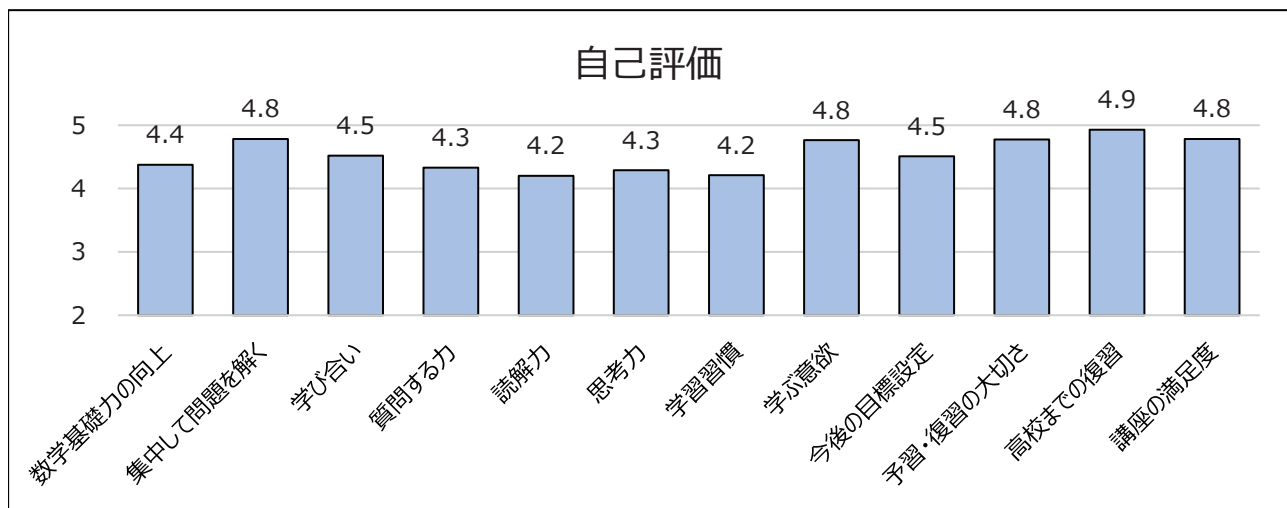
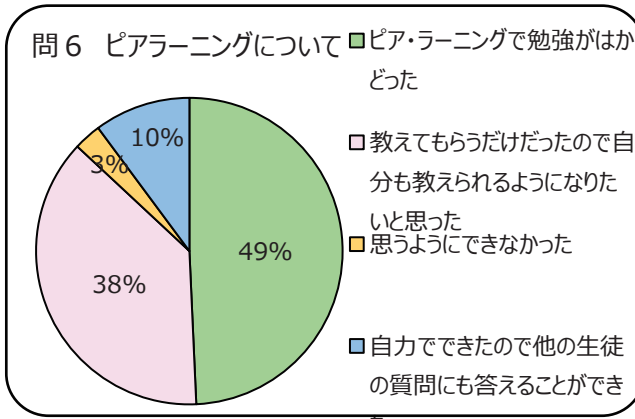
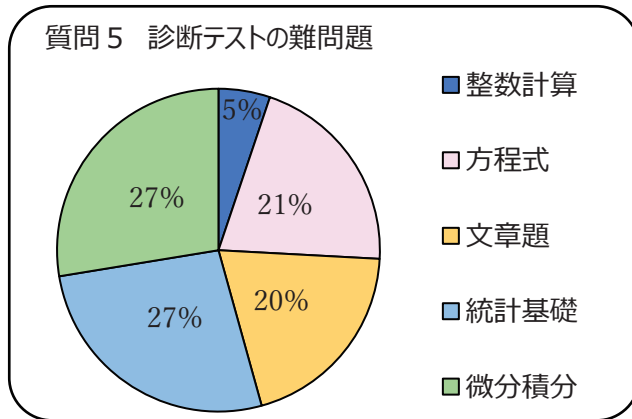
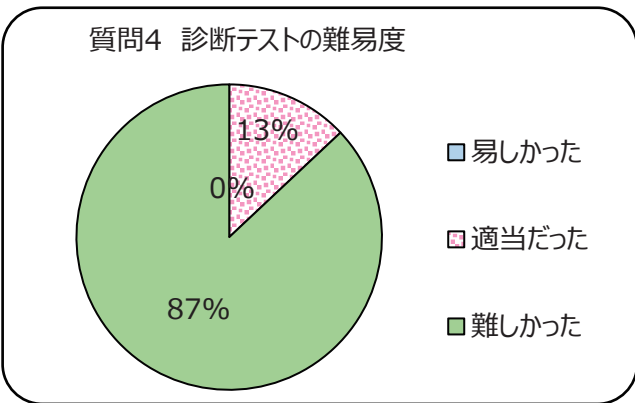
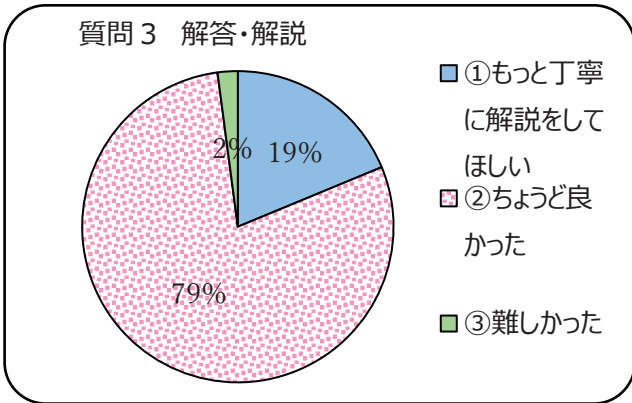
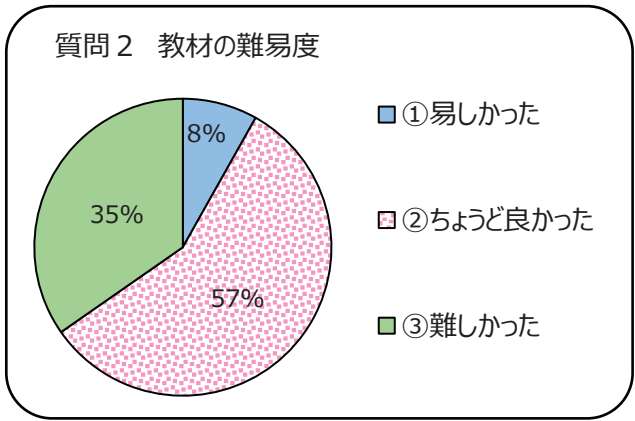
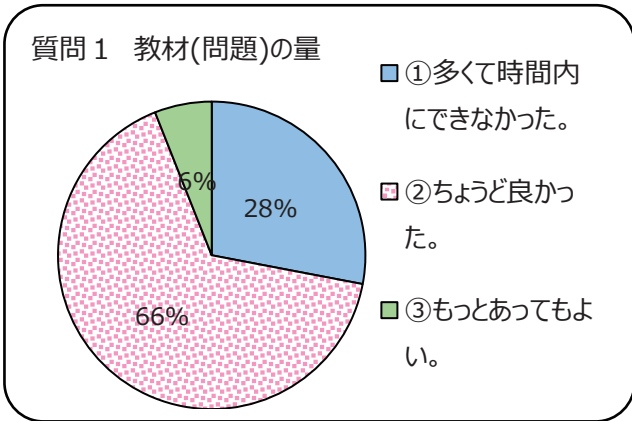


図7 事後アンケートの結果

[考察]

初日に実施した基礎力診断テストの結果から、数学の習熟度に大きな差があることがわかり、その結果がアンケートにも表れている。そのことを考慮すると、教材（問題）の量、難易度、解答・解説はちょうど良かったと判断している。基礎力診断テストの難易度については、「難しかった」が 87%と高く、解答解説の動画を配信したが、実際に動画を視聴したのは、半数程度であった。単元ごとに分析すると 2 次関数と微分積分は正解率が下がっている。その要因として、情報学科以外は、大学の専門科目と直接関わることは少ないので、講座内では扱わないと説明したことが影響していると思われる。また、基礎力診断テストで「難しかった」と回答したのは、2 次関数と微分積分の他に、文章題と統計基礎の内容であったため、講座では主にこの 2 単元に重点を置いて学習した。

ピア・ラーニングについては、「ピア・ラーニングで勉強がはかどった」は 49%で、「自分も教えられるようになりたい」は 38%であった。これが、本講座におけるピア・ラーニングの成果だと受け止めている。本講座は、聴講するという方法ではなく、専門用語の説明に留め、質問をしたり説明できるようになるというピア・ラーニングの手法を中心に進めた。その際、個に応じた指導を心掛け、声掛けにも配慮したが、質問をすることもなく声をかけられるまで待ち続ける、積極的に欠ける生徒もいた。しかし、多くの生徒は友達同士またはチューターに積極的に質問をしながら学び合いを楽しんでいる様子が見られた。

(2) 記述回答

4 日間での講座の振り返りには、多くのコメントが寄せられたので、ワードクラウドからまとめると以下のようになった。

(ワードクラウドとは、出現頻度が高い単語を選び出し、その頻度に応じた大きさで図示する方法)

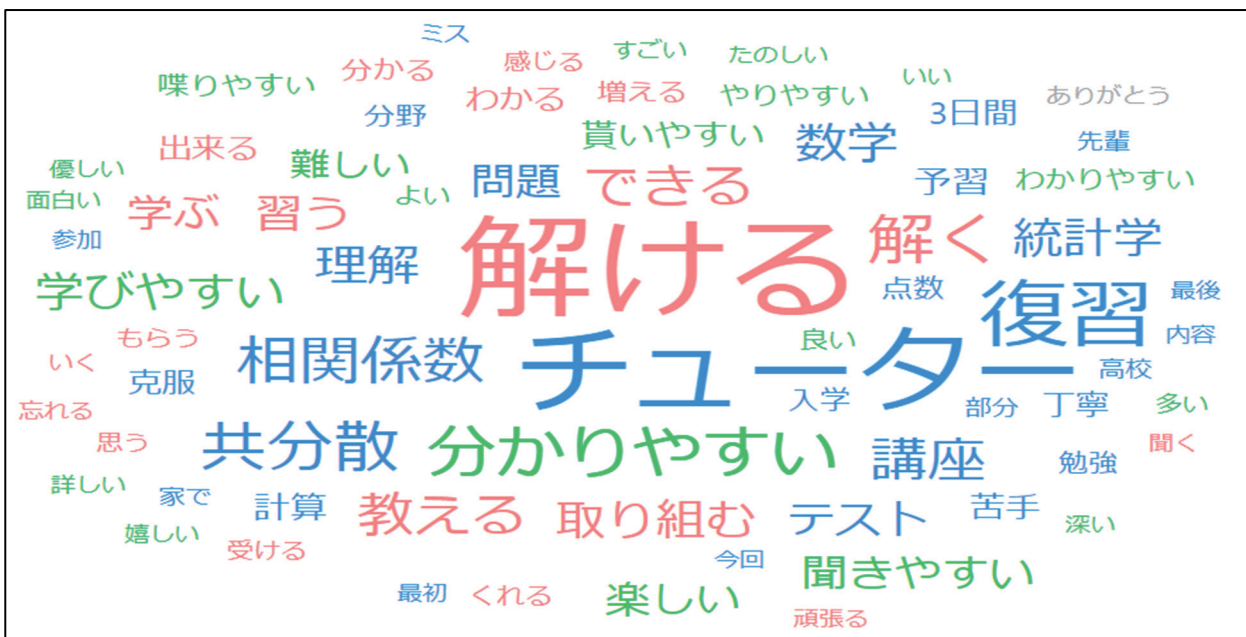


図 8 3 日間の振り返りコメントのワードクラウド

表 6 自由記述の頻出語

抽出後	回数	抽出後	回数	抽出後	回数	抽出後	回数
①できる	181	⑦解く	58	⑬難しい	28	⑲多い	21
②教える	94	⑧分かりやすい	54	⑭数学	26	⑳優しい	19
③わかる	87	⑨くれる	52	⑮勉強	25	㉑感じる	16
④問題	84	⑩復習	50	⑯苦手	25	㉒習う	14
⑤よい・良い	77	⑪理解	50	⑰もらう	25	㉓嬉しい	8
⑥楽しい	58	⑫チューター	45	⑱丁寧	23	㉔面白い	3

◆ 4日間の感想より

できる・苦手・頑張る・良かった・よい・楽しく・嬉しい・数学・問題・解く・復習

- ・統計学を学んで、数学の楽しさを知ることができました。分からないところは聞いたら解けるようになったし、解けると次も頑張ろうという気持ちにもなれました。これからも数学を続けていきたいと思いました。
- ・参加することで自分が今どんな立ち位置にいるのかがわかるためよかったです。
- ・今まで苦手だった分野を講座で克服することができたのですごくよかったです。また、自己紹介をしたり人を覚えることもできたのでよかったです。
- ・楽しく勉強できて楽しかった！
- ・今回の基礎講座を終えて、受ける前とは見違えるほど頭の回転や数字に対する強さ、理解力が高まったと思います。僕は数学が苦手なのですが、これだけ支援してくれる人がいると、疑問を解決できるので不安なく問題を解くことができました。それを通して、自分が数学が苦手だった理由はわからないところをそのままにしていた事が原因だとわかりました。良い経験になりました。
- ・この3日間、最初は不安だったけど、問題をたくさん解いて、振り返って繰り返していくうちに、高校の時にできなかった内容もできるようになって、すごく嬉しかったです。
- ・最初は数学があまり好きじゃなくて行きたくないなと言う気持ちもあったけど、今日の講座を終えて勉強が少し楽しく感じてきて本当に参加して良かったと思った。
- ・難しい。でも、できるようになったら楽しそうだった。
- ・今回で数学が好きになった訳じゃないけど、忘れてた公式とかを思い出せて解ける問題の幅も広げられるこのような機会はありがたいです。好きになれるように頑張ります。

教える・ピア・ラーニングの環境・講座の進め方

- ・丁寧に教えてくれて頭は疲れたけど、楽しい授業でした。
- ・丁寧に説明してくれたので、わからない問題が多くあったけど、解けるようになったので良かったです。みんなで学習することで周りや相談しながら勉強ができたので1人で勉強するより進んで勉強できました。分かりやすく教えて貰えて楽しかった
- ・普段ならぜんぜん解けない数学も、チューターさんのおかげで解くことができました。もっと学んで数学が得意になりたいです。
- ・わからないところを全体でも個人でも教えてくれて助かりました。
- ・頭をずっと使ったのですごく疲れたけど、数学の面白さが少しわかって、みんなで解いたら教え合いが出来ていいなと思いました。
- ・教え合いの空気が流れて話しやすい環境でした。
- ・個人で解いて、友達に聞かれたら教えるという進め方が良かった。
- ・周りの人々と教え合うことで問題を理解しながら解くことができました。
- ・わからないところを丁寧に教えてくださったおかげで次に問題を解く時はスムーズに解けそうです。
- ・問題を解きながら分からないところを聞いたり教えあったり、交流出来たところがとても良かった。
- ・先生じゃなくても年も近い先輩だから聞きやすかったし、グループ活動だったから勉強しやすかった
チューターの方や高校生同士で勉強して、1人でやるよりも分からない問題が分かるようになったので楽しく勉強をすることができました。
- ・難しかったです。疑問に感じたところは教えてもらいながら解きました。
- ・チューターの方がとても優しく分かりやすかったです。それでも、できないところがあったので自己学習します。
- ・チューターの先輩達はできてるか見てくれたり解き方のアドバイスとか基礎的なことも教えてくれたので楽しかったです。

高校の復習・4日間の成長・入学後
<ul style="list-style-type: none"> ・入学したら、数理学習センターにいっぱい行きたいです。 ・今回の内容は自分の苦手な分野が多かったのでこの機会に苦手を克服したいです・昨日の診断テストで全く分からなかった問題の解き方が分かるようになって、最後には解けるようになったから良かった。 ・4日前の自分と今の自分を比べて、少し数学ができるようになったので、復習を忘れずに頑張りたいです。 ・数学が苦手で、わからなく無いものが多いし、時々何から始めたらいいのかわからない時もあるけど、諦めていましたがチューターのおかげで大学ではセンターに通うと数学にも自信が出るかもしれないと希望が見えた！！ ・高校の復習などをしてみて、意外と忘れていたことが多く感じました。これからも復習をしっかり続けていこうと思った ・忘れていた公式を思い出すことができました。昨日テストをしてわからない問題をしっかりできました。 ・分散や、標準偏差の意味を曖昧なまま理解していたことに今日気づいて、ちゃんと理解できるようになったので、また今日のような授業を受けたいです。 ・昨日の確認テストでできなかった問題も説明をきいて、分かるようになったのでよかったです ・今まで数学がそんな好きじゃなかったけど、この3日間で問題を解く楽しさを実感して、数学が少し楽しいと思えるようになったのが一番成長できた点だと思った。 ・3日間長いなと思っていたけど、自分が分からなかった問題がどこなのかを理解することが出来る問題も増えたのでとても有意義な時間でした

チューターの感想から
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生とコミュニケーションを取ったり、教えたりするのは凄く楽しかった。みんなが数学に対する苦手意識を少しでも減らしたり、楽しいと思ってもらえるように明日も頑張りたい。 ・比較的コミュニケーションは円滑に進んだ。学習の進捗には個人差が大きいように感じた。特に、式を作るところまではできても、その後の計算ができないチューターが多かったように感じる。 ・理解度はみんなそれぞれバラバラなので、それぞれに合ったチューティングをするのがやはり難しかった。久しぶりにしっかりチューティングした感じがして楽しかった。1年前より、TRをはきはきできるようになったことを実感しました。 ・最初に「分散」の求め方を聞いた時に知らない人が多かったが、最後の確認テストや口頭でも答えることができていたので、標準偏差や分散、偏差、平均値等についてはしっかりと理解できていたと思う。 ・わからない問題は質問してきたり、他の生徒が教えていたり教え合うまでに理解できている人もいたので良かった。 ・分かっている人がその問題を他の人に教えている様子があり、グループワークの良い所が出ていた。 ・こちらが全力で教えるのに対して生徒が全力で答えてくれたため、非常に気持ち良かった。チューターとしての自分自身の成長にもつながったと思うのでよかったです。

4 まとめ

講座受講中は「難しい、数学は苦手だ」と言いつつも時間を惜しんで問題を解いている姿が印象的であった。一方で、数学が苦手な生徒にとって、数学の問題を立て続けに解かないといけない状況を苦痛に感じる生徒もいるのではないかと、例年気にかけている。ところが、講座終了後の感想には、「集中して問題を解くことができた。高校までの復習ができてよかった。学ぶ意欲が高まった。予習・復習の大切さがわかった。」と自己評価が高く、講座の満足度も4.8と高い結果となっており、講座の目的・目標は達成できたのではないかとと思われる。

ほとんどの生徒が、数学を「できる」ようになりたいと願っている。そのためには、「教える」という環境があることは、入学後の安心感にも繋がっている。また、振り返り調査の結果から「できるようになって自分も教えられるようになりたい」という希望ももっていることから、入学後のピア・ラーニングも積極的に関わらせる環境づくりを継続していきたい。

2022 年度入学前特別講座Ⅱ「英語講座」報告書

「英語講座」では、英検 2 級(高校卒業程度)レベルの文法 6 項目(助動詞、仮定法、不定詞・動名詞・分詞、関係詞、名詞・代名詞・冠詞、形容詞・副詞)と英作文(essay writing)能力の向上を目的とした内容で取り組みました。第 1 日目に「講座前実力診断テスト」を実施し、第 2 日目と第 3 日目までの 2 日間、LLC の英語チューターによるピアチューティングで文法講座(項目別で 40 分のセッションを 6 回実施)、及び第 4 日目にライティングのミニ講座(30 分)及びそれに係るチューティング(60 分)を行いました。第 4 日目の後半には「講座後実力診断テスト」を実施し、その比較を通して本講座の成果を以下に示していきます。

1. 3 日間の出席状況

1 日目 57/57 人(出席率 100%)、2 日目 55/57 人(出席率 97%)、3 日目 54/57 人(出席率 95%)、三日間を通じた平均出席率は 97.3%の高い出席状況でした。

2. 実力診断テストの内容と結果及びその考察

高校卒業程度とされる英語検定試験(以下、「英検」と記す)2 級程度の 6 文法項目(助動詞、仮定法、不定詞・動名詞・分詞、関係詞、名詞・代名詞・冠詞、形容詞・副詞)についての空所補充問題(各 4 問で合計 24 問)と指定された題材に対する 100~150 words の英作文問題を実施しました。「講座前実力診断テスト(以下、「事前テスト」と記す)」の結果と、第 2 日目から第 4 日目までの 3 日間の講座を経て実施した「講座後実力診断テスト(以下、「事後テスト」と記す)」結果の比較表は以下の通りです。なお、事前事後テストでは、文法項目にかかる問題は同等レベル(英検 2 級)の別問題を使用し、英作文問題は同じ内容の問題を実施しました。

表 1-1 : 事前・事後テスト結果比較(文法項目別及び合計得点<24 点満点>)

文法項目	助動詞	仮定法	不定詞 動名詞 分詞	関係詞	名詞 代名詞 冠詞	形容詞 副詞	合計
事前平均点 ()は達成率	1.5	0.9	1.2	1.0	1.0	1.9	7.5 (31.2)
事後平均点 ()は達成率	1.8	2.0	2.0	1.6	2.4	1.8	11.6 (48.3)

表 1-2: 事前・事後テスト結果比較(英作文 word 数) ※100 words~150 words の指定に対して

	最低 word 数	最高 word 数	平均 word 数
事前	0 word	83 words	27.8 words
事後	7 words	130 words	68.9 word

【英語講座の感想 1 日目】

・難しかったけど分からなくても丁寧に教えてくれて分かりやすかった

- ・説明が、基礎からやってくれたので、分かりやすくて良かったです
- ・英語の文法に自信がないのですが、チューターの人たちが教えてくれたので、わかりやすかったです
- ・テストの重要なところを振り返る形でポイントを、教えてくれたから次はいい点数取れそう！
- ・教授とチャーターの方に教えてもらいながらできたので楽しかったです。
- ・苦手分野なのを、わかりやすい例えなどを入れておしえてくれた
- ・いろいろな文法の決まりがあって難しかった。これをおきに、復習をしたい
- ・英語はずっと苦手で文法とか全然わからなかったけどひとつひとつ説明してくれて解ける問題も増えたから良かった
- ・説明が分かりやすくて、今まで理解しきれていなかった所もできた
自分で英語の勉強の仕方がわからなかったので、チューターの方に教えてもらえたので、家でもしっかり勉強していきたいです
- ・難しかったけど llc の先輩方が分かりやすく説明してくれたので理解出来ました
- ・チューターの方に教えてもらいながら楽しく勉強に励むことができてとても良かった
- ・少しは理解できたから明日も頑張る
- ・LLC の方々みんなが個性的で楽しく勉強することができました。また、一つ一つの文法や、単語の意味などを分かりやすく説明してくださったので理解できました

- ・英語の文法は難しいと感じた
- ・口頭での説明だけでは難しかったです。でも、苦手だった英語を少しずつ理解できてる感じがしてよかったです
- ・単語の意味がわからず、ついていくことで精一杯でした
- ・改めて英語も難しいと感じた
- ・難しいなという印象でした 理解はできるけど、復讐しないとすぐ忘れます

【英語講座の感想 2 日目】

- ・苦手意識が消えてきた
- ・復習を頑張って、明日のテストでは点数を伸ばせるようにしたいと思った
- ・チューターの方の解説がわかりやすかったです！教授のお話も参考になりました！
- ・1 番出来なかった関係代名詞が少しわかるようになったのでよかったです
- ・英語を使ったコミュニケーションができてよかった
- ・満点取れた実践問題もあった
- ・英語で話す事をして楽しかった
- ・嫌いなコミュニケーション文法だったけど内容が面白くて苦にならなかった
- ・満点取れた分野も出てきたのでうれしい
- ・苦手だった分野をある程度理解することができたので、忘れないようにしっかり復習したいです
- ・スピーキングの練習でみんなでクイズをして楽しかった
- ・文法を理解することができたとし、楽しく講座を受けることができた
- ・わかるようになってきて、実践問題が時間内に解けてきた
- ・英語を理解するときのコツを知ったので、挑戦してみたいとおもいました
- ・目的を持って英語やほかの教科を学ぼうと思いました
- ・英語は得意じゃないけど、グループでチューターの方と勉強をして、得意になるためにもっと勉強をしようと思いました

- ・びっくりするぐらい教えからが上手くて、今までちゃんと理解しきれていなかったところも、少しは分かるようになった
- ・英語は得意な方では無いけど、最後に聞いた話で、得意不得意の基準はなに？とか、やれば絶対に変わるという話を聞いて、不得意だからやらないという選択肢はないんだなと思った
- ・英語の文法が苦手だったけど、理解していくと英文の内容がわかってくるようになったので、もっと頑張っていきたいと思った
- ・英語の基礎を改めて先生と学ぶということは、とても貴重な時間なので無駄にしないよう、しっかり復習、自主学習をして明日のテストで理解できるように勉強します
- ・昨日に続いて、英会話多めのセッションもあり、うまく答えられなくて緊張しました

【英語講座の感想 3 日目】

- ・英文がいつも書かないけれど、今回はダメでもいいからやってみる挑戦をして大きな一歩でした
- ・英作文 100 文字かけて嬉しかった
- ・essay を初めて書いたが結構形を覚えれば簡単では無いけどそこまで絶望的に無理ではないと思った
- ・自分の言葉で文章、意見が書けるようになった
- ・ライティングが前は 50 文字ぐらいしか書けなかったけど 104 文字書けたから成長が見られて嬉しかったです
- ・ライティングの講座を受けて論文構成に沿った書き方をすれば、浅い知識でもなんとなく伝えられる気がした
- ・ライティングの時に書き方を優しく教えてくれて初日のテストよりも多く書くことが出来ました
- ・苦手意識のあった英語も、楽しく学ぶことが出来て良かったです。一日目のテストでは、ライティングが全く書けなかったけど、今日のテストのライティングでは、書けるようになったのでよかったです
- ・ライティングで使えるつなぎの言葉をたくさん学べた
- ・文法を抑えることで、きつく感じていた 100 文字の論文がサラサラとかけるようになって、実践することが出来た
- ・初めてのテストよりかは、スラスラ解けていたのかなと感じました。また、英作文も少し習っただけで意外とかけるようになれました
- ・最初は、ライティングは何を書けばいいか全然分からなかったけど、講座を通して、書き方や英語の表現の仕方が分かって書けるようになったので、英語も得意ではないけど大学に入ってから得意に出来るようにしたいと思いました
- ・あまり触れる機会がなかったライティングに関して分かりやすく説明してくれたので、少しだけ書ける様になりました。また、受けるたびにレベルアップしてるのを感じてとても良かったです
- ・英語で文を作ることが最初のテストよりもできていたので嬉しかった。また、文法についての知識も少し理解することができたのでよかったです
- ・writing が最初に書いた時よりも 3 倍ぐらい書けるようになって嬉しかった。また、やっぱり英語は楽しいなって思って、もっと勉強を頑張ろうと思えました。3 日間ありがとうございました
- ・文法は、あまり理解することができなかったけど、自分の苦手な部分を知ることができたので、入学までに少しでも苦手意識をなくしていきたいです
- ・英作文を書き方を教えてもらって書き直すことで、もう一度やったテストでは、100 字は書けなかったけど最初の倍の文字数を書けたので、嬉しかったです
- ・英作文が最初は 9Word しか書けなかったけど 最後は 40 くらいまで書くことが出来たので良かったです
- ・最初テストをした時、ライティングが全く書けなくて 17word ほどしか書けず自分は文章力が全くないな。と思いました。しかし、3 日間英語の講座をうけてライティングの講座も受けて、苦手な部分を多少克服することができたのでよかったです

- ・英語のチューターは、とてもフレンドリーで優しく今日の英語の文章もひとつひとつ丁寧に教えてくれていちばん苦手なのに最後には1番手応えがあるくらい自信ついたと思いました。とても楽しかったです
- ・この三日間では、英語が得意にはならなかったのですが、チューターの皆さんに教えてもらって凄く英語に興味が湧きました。これからのためにも自主学習をして、今の自分よりも少しでも成長できるように頑張ります
- ・まだちょっと苦手です
- ・論文が全然出来なかったことが悔しかった
- ・ライティングテストでど忘れしてしまって ショックですが、この3日間で英語に慣れしたしんだ気がします
- ・文法はやっぱ難しいなと感じました。英語で軽い話をしたり、ライティングをする時間は楽しかったです

【考察及びまとめ】

事前事後のテスト結果比較では大きな有用な差異が確認できます。文法講座ではそれぞれの項目に沿って基本的な事項等の重点を絞った内容を実施したことで短時間(各項目 40 分)のチュータリングでも得点向上につながっています。また英作文では基本的な文章構成を理解することで大幅に文字数を増やすことができました。中には全く書けなかった生徒が 30 words も書けるようになるなど短時間の講座でも有効な手立てを講ずれば、目に見える成果に繋げることができることが明らかになりました。

今回の入学前講座を通して、2 つのことを強く感じました。ひとつは、入学前の学生は学ぶことに非常に前向きで、新しいことを体験することに対して心の壁がなく、自分自身を高めることに意欲的であることです。もうひとつは、大学側が学生のレベルを判断すること自体は大切ですが、ベーシック・イングリッシュやイングリッシュ・コミュニケーションにおいて、その学生のレベルに合わせて教える内容の「レベル」を決めるのは、学生の成長という面において非常に消極的であることです。名桜大学の大学英語というレベルを明確に提示し、そのレベルに到達していない学生をいかに引き上げるかが大事であると感じました。入学時一斉学力テストでレベル 1 の学生と判断された学生が、大学 1 年の間にレベル 1 の授業を受け続けると、レベル 1 以上の向上は見られない。今回の入学前講座では、英検 2 級程度の問題を中心に教えました。事前・事後テストでは明らかに全体の点数が上がったのがわかります。入学前の意識付けという目的を達成しただけではなく、今後の名桜大学における英語教育の方針にも参考になる講座であったと感じました。

報告 2023 年 3 月 3 日 リベラルアーツ機構 玉城本生



入学前特別講座Ⅱ英語講座(2023年2月14日)(16)

参考資料

- 1) 講演資料「日本の高大接続の現状と将来」佐々木 隆生
- 2) 2010年文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」調査研究協力者会議
- 3) いわゆる「学級崩壊」について文部科学省
<https://www.mext.go.jp> > afieldfile > 2015/08/2 （閲覧 2023.01.27）
- 4) 生徒指導リーフ 中1ギャップの真実 生徒指導・進路指導研究センター 文部科学省 国立教育政策研究所
- 5) 文部科学省 国立教育政策研究所 第4章 高等学校中途退学
<https://www.nier.go.jp> > shido > centerhp （閲覧 2023.01.25）
第6章 高等学校中途退学等 文部科学省 <https://www.mext.go.jp> > chousa > shotou > shiryo （閲覧 2023.01.25）
- 6) 2013年中教伸答申「高等学校教育と大学教育との接続 大学入学者の在り方」（閲覧 2023.01.25）
- 7) 「リメディアル教育」 文部科学省 用語解釈（閲覧 2023.01.27）
- 8) これまでの高等教育計画等について 文部科学省
- 9) 公益財団法人 日本高等教育強化機構ホームページ
<https://www.jihe.or.jp> > outline > about （閲覧 1/25）
- 10) 中教伸答申「高等学校教育と大学教育との接続 大学入学者の在り方」2013年
- 11) 未来社会を生きる子供たちに必要な「真の学力」を育成するためのさいたま市の取組
日本教育行政学会年報 NO.46 細田 眞由美 国立研究開発法人 科学技術振興機構
- 12) 高大接続改革実行プラン 平成27年1月16日 文部科学省
- 13) 高大接続システム改革会議「最終報告」 平成28年3月31日 文部科学省 HP（閲覧 2023.01.25）
- 14) 「高大接続テスト（仮称）」と日本型高大接続の転換 佐々木隆生 高等教育研究 第14集 2011
- 15) 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた 高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について（案） ～ すべての若者が夢や目標を芽吹かせ，未来に花開かせるために ～
- 16) 2017年12月11日教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ資料1
高木展郎「学習評価の現状と課題」
- 17) 「新高等学校学習指導要領と学習評価の改善について」令和元年度地方協議会等説明資料 文部科学省初等中等教育局教育<参考> 平成30年8月31日付け30文科初第727号「高等学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置並びに移行期間中における学習指導等について」（文部科学事務次官通知）
- 18) View next 高校版 2022年度2月号 学校教育情報誌 Benesse （閲覧 2023.01.25）
- 19) 小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について（通知）30文科初第1845号平成31年3月29日
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編 平成30年7月
第1節 教育課程の改善と学校評価，教育課程外の活動との連携等
1 カリキュラム・マネジメントの実施と学校評価

編集後記

本研究は、本学の環太平洋地域文化研究所の特定研究「やんばると SDGs」の教育に関する部門に採択され、2021年度より2年間、テーマ「やんばると SDGs — 名桜大学高大接続とピア・ラーニングプログラム —」の下、研究所の助成を受けて取り組んできました。

2018年度よりスタートした本学の高大接続事業「名桜大学高大接続勉強会」及び「入学前特別講座Ⅰ」・「入学前特別講座Ⅱ」は、これまでの事業を継続しながら実践研究を進めてきましたが、本研究の当初の計画全体の分析の完成には至っておりません。調査研究・分析を継続して行い、詳細な結果は次回の報告とさせていただきますことをご了承ください。

本報告書は、これまでの5年間の高大接続事業の実践のまとめとして報告いたします。

本学リベラルアーツ機構、入試・広報課、教務課の教職員をはじめ、地域の高等学校教員並びに本学学生等の多くの方々のご協力により、これまで高大接続事業を進めることができました。ありがとうございました。また、研究を進めるに当たっては、様々なご指導を賜りました本学の研究倫理審査委員会並びに環太平洋地域文化研究所の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

2023（令和5）年3月

名桜大学 リベラルアーツ機構 高安 美智子

2021（令和3）-2022（令和4）年度

特定研究 やんばると SDGs

名桜大学高大接続とピア・ラーニングプログラム

発行	2023（令和5）年3月 印刷
発行所	公立大学法人 名桜大学 〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1
発行	名桜大学 高大接続研究会 高安 美智子 木村 堅一 立津 慶幸
印刷所	株式会社 国際印刷 〒901-0147 沖縄県那覇市宮城1丁目13番9号



公立大学法人

名桜大学
MEIO UNIVERSITY



